

リアホサ

神権——
神聖な力、
14, 16, 19ページ

教育——貧困から脱出した
わたしの経験, 42ページ

子供たちにインターネットの
安全な使い方を教える,
64ページ

奉仕と自立のために
活動してきた75年,
81ページ



複製は禁じられています

「聖なるサスケハナ川」 グレン・S・ホプキンソン画

1829年5月15日、ペンシルベニア州ハーモニーの近くで、バプテスマのヨハネが、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに姿を現しました。古代の使徒であるペテロ、ヤコブ、ヨハネの指示の下、彼はジョセフとオリバーの頭に手を置き、アロン神権を授けました。

バプテスマのヨハネは、サスケハナ川でまずジョセフがオリバーにバプテスマを施し、その後オリバーがジョセフにバプテスマを施すよ

うジョセフに指示を与えました。それから彼らは、互いをアロン神権に聖任することになっていました（ジョセフ・スミス——歴史1：68-72；教義と聖約13：1参照）。

その数週間後、ペテロ、ヤコブ、ヨハネがハーモニーの近くでジョセフとオリバーに現れ、彼らに聖なるメルキゼデク神権を授け、使徒に聖任しました（教義と聖約27：12；128：20参照）。



リアホナ 2011年 6月号

メッセージ

4 大管長会メッセージ——
じやうふん
 什分の一の祝福
 ヘンリー・B・アイリング管長

7 家庭訪問メッセージ——
 物質的な自立を通して
 家族を強める

特集

16 神権の祝福 ——
 神を信頼することを学ぶ
 マーク・L・グローバー
 わたしは祝福を施すのは苦手でしたが、妻が痛がみになったとき、天からの助けはわたしを通して妻に与えられることを知っていました。

24 何としてもやめたかったのです
 匿名
 何十年も苦しんできたポルノグラフィをわたしはどのようにして乗り越えたでしょうか。

28 幸福に通じる真の道
 クエンティン・L・クック長老
 幸せになるための5つの鍵かぎ

34 無事帰港する
 リチャード・M・ロムニー
 インドのビジャーカパトナムの青少年たちは、家庭は平和な港であることを知っています。

81 教会福祉計画
 自立と奉仕の75年を祝う

シリーズ

8 小さな、簡単なこと

11 教会での奉仕 ——
 評議会による祝福
 M・ラッセル・バラード長老

12 キリストについて語る ——
 主はわたしの悲しみを
 負ってくださいました
 ジェーン・ブリーク

14 わたしたちが信じていること——
 神権は神の御名によって
 行動するための権能です

19 わたしたちの家庭、
 わたしたちの家族 ——
 義にかなった模範の力
 ジェリー・ストリンガム

20 福音クラシック ——
 末日聖徒の結婚観
 ヒュー・B・ブラウン管長

38 末日聖徒の声

74 教会のニュース

79 家庭の夕べのためのアイデア

80 また会う日まで ——
あかし
 確かな土台の上に証を築く
 ジョシュア・J・パーキー

表紙
 表紙 ——「メルキゼデク神権の回復」
 ウォルター・レーン画。
 裏表紙 ——フォトライラストレーション/
 マシュー・ライアー



42

42 教育の力

スージー・タギー・コエルホ・カルダス・ネルセン

わたしの母は、それが貧困から抜け出す唯一の方法だと言いました。

こんげつごう なか
今月号の中に
かく 隠れているリアホナを
さが 探しましょう。
ヒント——
ニコルに
き 聞きましょう。

46 質疑応答

「受けている試練が、自分が成長するのに役立つためにあるのか、それとも誤った道に進んでいると教えてくださる天の御父の警告なのか、どうしたら分かるでしょうか。」

48 あなたの模範が重要です

ジョセフ・W・シターティ長老
アフリカのケニアの青少年は、福音に従った生活が自分やほかの人を強めることを知りました。

51 教えに教え——

教義と聖約 121:41 - 43

52 ポスター—— 聖なる森

53 伝道地から—— 御霊の手話

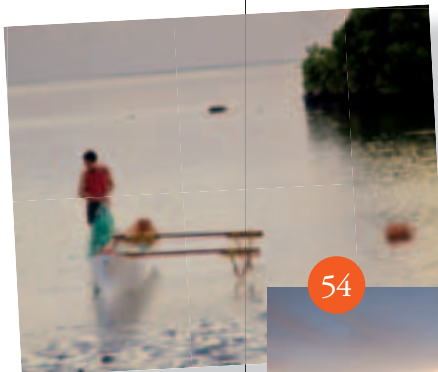
ペドロ・オバレス

54 漁の仕方を人に教える

アダム・C・オルソン
父親が亡くなったとき、エズラには天の御父がいて、助けてくださいました。

58 水泳から学んだこと

マリサ・トンプソン
仲間からのプレッシャーは、すべて悪いわけではありません。



54



68

60 主に信頼する

イレイン・S・ダルトン
どうして父はなくならなければならなかったのでしょうか？ 旧約聖書の聖句が、わたしの疑問に答えてくれました。

61 特別な証人——
回復された教会を通して

どのような祝福が
得られるでしょうか
L・トム・ペリー長老

62 しょうきょうかいを かけていても
——ふくいんの だいの

げんそくと ぎしきに よって、
ふたたび かみと ともに
すむことが できます
アナ・マリア・コバーン、
クリスティーナ・フランコ

64 消して知らせる

ダニエル・ケニントン
コナーは、悪いウェブサイトを見つけたときにはどうすればよいか、分かりました。

67 わたしたちのページ

68 大きな けつだん

レベッカ・ショー
ニコルは バプテスマを うける
かどうか きめるために おいの
りしました。

70 ちいさな おともだちへ

大管長会: トーマス・S・モンソン, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, デビッド・A・ベドナー, クエンティン・L・クック, D・トッド・クリストファーソン, ニール・L・アンダーセン

編集長: ポール・B・パイパー

顧問: スタンレー・G・エリス, クリストフェル・ゴールデン・ジュニア, 菊地良彦

実務運営ディレクター: デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター: ピンセント・A・ボーン

グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

編集主幹: R・バル・ジョンソン

編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド, アダム・C・オルソン

共同編集者: ライアン・カー

編集補佐: スーザン・バレット

編集スタッフ: プリタニー・ピーティアー, デビッド・A・エドワーズ, マシュー・D・フリットン, ラリン・ポーター, ガラント, ライヤ・ヒラー, キャリー・カステン, ジェニファー・マディン, メリッサ・メリル, マイケル・R・モリス, サリー・J・オデカーク, ジョシュア・J・パーキー, チャド・E・ファレス, ジャン・ピンボロー, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, メリッサ・ゼンテノ

実務運営アートディレクター: J・スコット・クヌーセン

アートディレクター: スコット・バン・カンペン

制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ

主任デザイナー: C・キンボール・ポット, トーマス・S・チャイルド, コリン・ヘンクレー, エリック・P・ジョンソン, スコット・M・ムーイ

制作スタッフ: コレット・ネベカー・オース, ハワード・G・ブラウン, ジュリー・バーデット, レジナルド・J・クリステンセン, キム・フェンスタマー・カー, キャスリン・ハワード, デニス・カービン, キニー・J・ニルソン

製版: ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター: クレグ・K・セドウィック

配送ディレクター: エバン・ラーセン

日本語版翻訳課長: ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振込口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩 5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話: 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-10-30
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,000円(送料共)
普通号/大会号 150円

「リアホナ」へのご投稿およびご質問は下記の連絡先にお送りください。

Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アルバニア語, アルメニア語, ビスラマ語, ブルガリア語, カンボジア語, セブアノ語, 中国語, クロアチア語, チェコ語, デンマーク語, オランダ語, 英語, エストニア語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ドイツ語, ギリシャ語, ハンガリー語, アイスランド語, インドネシア語, イタリア語, 日本語, キリバス語, 韓国語, ラトビア語, リトアニア語, マダガスカル語, マーシャル語, モンゴル語, ノルウェー語, ポーランド語, ポルトガル語, ルーマニア語, ロシア語, サモア語, スロベニア語, ス페인語, スウェーデン語, タガログ語, タヒチ語, タイ語, トンガ語, ウクライナ語, ウルドゥー語, ベトナム語(発行頻度は言語により異なります。)

©2011 Intellectual Reserve, Inc. 版權所有。印刷: 日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において一時的に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール — cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

For Readers in the United States and Canada:

June 2011 Vol. 35 No. 6. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

インターネットで得られる追加情報

Liahona.lds.org [英語]

成人

「何としてもやめたかったです」(24 ページ) は、ある男性がボルノグラフィーの依存症を乗り越えたことに関する記事です。関連する記事のリスト [英語] を www.liahona.lds.org に掲載しています。



青少年



インドのビシャカパトナムの青少年は家族の中に強さを見つけました(34 ページ参照)。www.liahona.lds.org に、この青少年たちの写真がもっと掲載されています。

子ども



ウェブサイトの中には安全ではないものもあります(64 ページを見ましょう)。でも、このサイトは安全です。www.liahona.lds.org [英語] でゲームや活動を見つけてください。

あなたの言語で

www.languages.lds.org で、「リアホナ」や教会のその他の資料を多くの言語で入手できます。

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

あかし証, 53, 80	しゅうごん 什分の一, 4	扶助協会, 7
イエス・キリスト, 12	祝福, 16, 38, 39, 41	ボルノグラフィー, 24
依存性, 24	自立, 7, 81	メディア, 64
祈り, 67, 68	神権, 14, 16, 19, 38, 39, 41, 48, 51	模範, 19, 28, 48, 54
親の務め, 20	信仰, 60, 62	友情, 34, 58
回復, 52, 61	親切, 70	靈感, 40
家族, 19, 20, 28, 34, 54, 70	聖文研究, 34	
悲しみ, 12	聖霊, 62, 64, 68	
逆境, 12, 16, 39, 46	デート, 19	
教育, 42	伝道活動, 53	
結婚, 20	バプテスマ, 62, 68, 73	
悔い改め, 19, 62, 64	評議会, 11	
幸福, 20, 28	標準, 28, 48, 58, 64	
死, 12, 54, 60	福祉, 81	

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・
アイリング管長



じゅうぶん
什分の一の祝福

神がわたしたちに戒めを与えてくださるのは、わたしたちを祝福するためです。神はわたしたちに、あらゆる賜物の中で最も大なるものである永遠の命を与えたいと望んでおられます（教義と聖約14:7参照）。日の栄えの王国で家族とともに神のもとで永遠に生活するという賜物を授かるためには、その王国の律法に従って生活できなければなりません（教義と聖約88:22参照）。

その能力を伸ばせるように、神はこの世でわたしたちに戒めを与えてくださっています。什分の一はそうした備えの戒めの一つです。この律法は、すべての収入の10分の1を主にささげるといふものです。子供でも理解できるほどに簡単な律法です。子供たちがもらった硬貨の10分の1を入れた封筒をビショップに渡すのを、わたしは見てきました。

什分の一を完全に納めることによって受ける祝福の一つは、さらに高い律法に従って生活するための信仰がはぐくまれることです。日の栄えの王国に住むためには、わたしたちは奉獻の律法に従って生活しなければなりません。そこでは、自分という存在



も自分が持っているものもすべて神のものであると感じることができなければならぬのです。

この世で什分の一を完全に納めることで、わたしたちは永遠の命の賜物を授かるために感じる必要のあるものを感じられるように備えられていきます。それには、少なくとも3つの方法があります。

第1に、わたしたちが教会に什分の一を納めるとき、天の御父はわたしたちに祝福を注いでくださいます。常に什分の一を完全に納めてきた人ならだれでも、それが真実であることを知っています。祝福は霊的なものであることも、物質的なものであることもあります。それらは主の時に、わたしたちにとって最善であると主がお認めになることに従って与えられます。

それらの祝福を受けるとき、神こそわたしたちの人生におけるすべての善いものの源であられるという信仰が増します。奉獻とは、神の創造物はすべて神のものであるという真理を認めることにすぎないということが容易に理解できるようになります。そうすると、神がすでに与えてくださったもののわずか10パーセントだけを求めておられることへの感謝の念を感じるようになります。こうして奉獻の律法に従うように求められるときに向けて、よりよく備えられるのです。

第2に、常に什分の一を完全に納めてきた人は皆、自分と家族に必要なものを神に求めるときに、より大きな確信を感じます。什分の一を納めるという聖約にわたしたちが忠実であるとき、神は受け取れないほどの大きな祝福を授けると約束してくださっています(マラキ3:10参照)。ですから、什分の一によってもたらされる大

きな祝福の一つは、将来に対する確信です。どのような状況にあらうとも、最善の結果となることでしょう。わたしたちが自分の約束を守るとき、神は御自分の約束を果たしてください。什分の一を完全に納めることによって得る大きな祝福の一つは平安です。什分の一の戒めを守ってきた人なら、平安という祝福が現実のものであり、貴いものであることを証できるでしょう。

第3に、什分の一を納める人は神と神のすべての子供たちへの愛が増すのを感じます。人々をこの世においても永遠にわたっても祝福するために、御父がわたしたちのささげる什分の一をどのように用いられるかを理解するときに愛が増すのです。

主は御自分の権能を与えた僕によって、什分の一を慎重にお使いになります。什分の一を納める人は、主が家族を永遠に結び固めることのできる場所である神殿をお建てになる一翼を担っています。什分の一を納める人は、主が世界中の人々のもとに福音をお送りになる手助けをしています。什分の一を納める人は、主がその僕によって御自身の方法で飢えや苦しみを取り除かれるのを手伝います。それらの僕たちは、人々を祝福するために什分の一が用いられたことによって愛がどのように増したかを話してくれるでしょう。そして忠実に什分の一を納める人もまた、同じことを語ることができるでしょう。

什分の一面接はまだ数か月先です。什分の一を完全に納めたと神に宣言できるすべての人に神が注いでくださる祝福を受けられるように、皆さんと家族が今から計画し、準備を始めるように祈ります。■

このメッセージから教える

- ある原則を教えるとき、実演して見せるのが最良の方法である場合があります(『教師、その大いなる召し』164参照)。10分の1が意味するものを家族のだれかに実演してもらおうとよいでしょう。10個あるものから1個を取り分けることによって実演してもらいます。最後に、家族のだれかに什分の一献金票の記入方法を実演して見せてもらおうとよいでしょう。
- 「生徒は互いが参加することによって恩恵に浴する。」(『教師、その大いなる召し』63) アイリング管長は、「永遠の命の賜物を授かるために感じる必要のあるものを感じ[る]」と述べていますが、それがどのような意味だと思いかを、家族に話してもらいます。神の祝福を授かるために感じる必要のあるものを感じられるように、什分の一がわたしたちを備えてくれる3つの方法について話し合うとよいでしょう。

青少年

十分なお金

ファビアーノ・ドス・サントス・ダ・シルバ

宣教師と出会ったのは17歳のときでした。当時、わたしは兄と一緒に住んでいました。母はその前の年に亡くなっていて、わたしはつらい日々を送っていました。宣教師から教えを聞いたとき、この教会こそ自分がずっと求めてきたものだとなりました。でも、友人たちが快く思ってくれなかったため、日曜日に教会に行けずにいました。

あるとき、平日に教会の活動に行きました。若い人たちがみんな笑い、遊んでいるのを見て、大きな喜びを覚え、宣教師は青少年たちと一緒に、その機会をとらえて福音のレッスンをしてくれました。わたしはとても良い気持ちが出て、バプテスマを受ける決意をしました。

しかし教会に入った後でさえも、困難に遭いました。わたしは自分の住む地区で唯一の教会員であり、集会所から遠く離れた所に住んでいました。教会員でない友人たちは、もう何も一緒にしてくれませんでした。孤独を感じたとき、祈ると主の愛を感じました。

毎月、母が残してくれた蓄えから少額を受け取っていました。そのわずかなお金で生活するのは大変でした。それでも、従順であろうと決意しました。什分の一を納めて、セミナーや日曜日の集会に行く交通費も必要でした。でもどういう訳か、月末になったときには、すべてを行うのに十分なお金があったことが分かりました。

什分の一を納めることによって祝福を受けてきたことを知っています。この戒めに従うことで証が強まり、伝道に行くこともできました。そして祝福に気づくことができたおかげで、問題に直面している新会員を強めることができます。

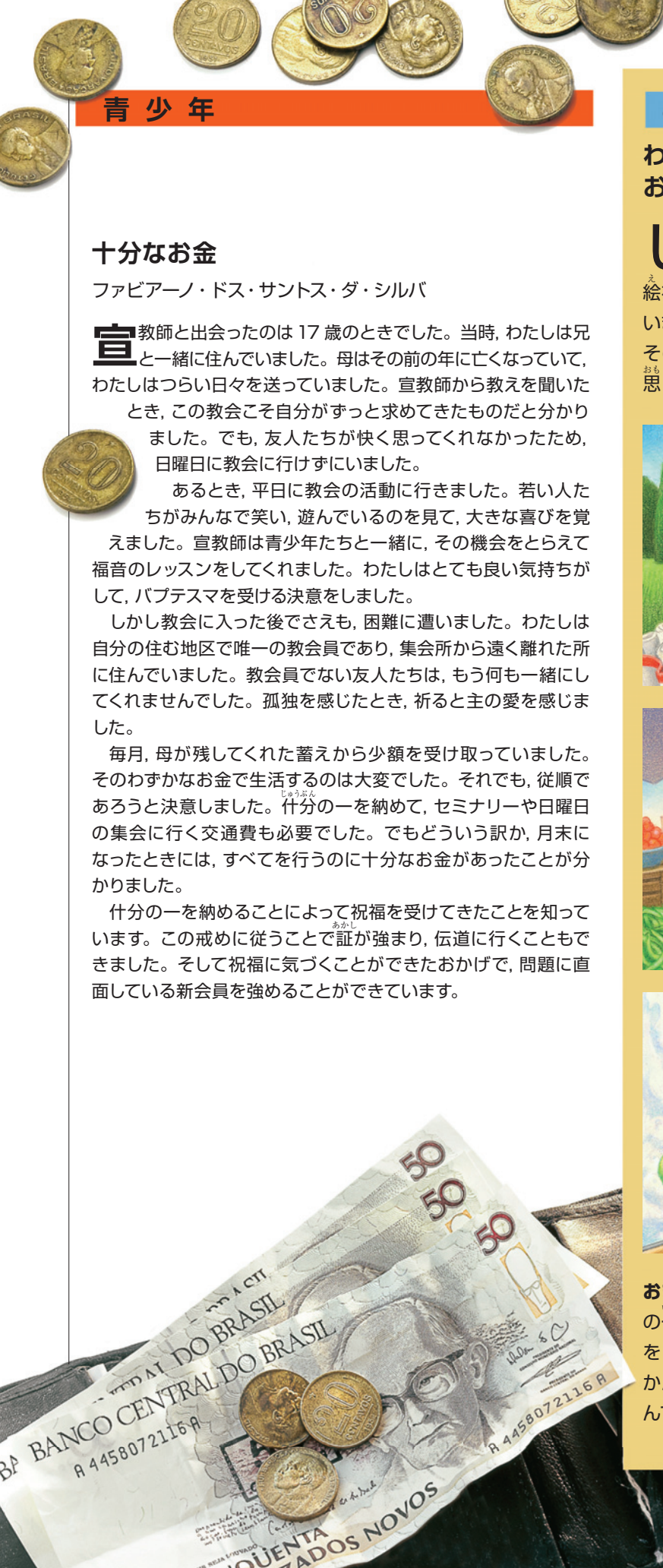
こども

わたしは じゅうぶんの一を おさめることができます

じゅうぶんの一を おさめるとは、もらった お金の 10パーセントを しゅに ささげる ことです。絵を 見てみましょう。3人の 子どもが しごとを しています。それぞれの 絵の よこに ある 上の らんに、その 子が この しごとで いくら お金を もらうと 思うかを 書きましょう。下の らんには、じゅうぶんの一が いくらに なるかを 書きましょう。



おまけの しつもん — この 子どもたちが じゅうぶんの一を おさめるとき、いちばん たくさん しゅくふくを うけるのは だれでしょうか。(ヒント — アイリングかんの メッセージの さいごの だんらくを 読んでみましょう。)





信仰・家族・扶助

物質的な自立を通して 家族を強める

この資料を学び、
必要に応じて訪問先の姉妹と話し合ってください。
質問を使うことによって、訪問先の姉妹を強め、
あなた自身の生活の中で扶助協会を生かすようにしてください。

自立とは自分自身と家族を養う能力であり、すべての姉妹にはそのような能力を高めていく責任があります。労働を愛することを学び、自活する最善の方法を見いだせるように靈感を求め、基本的な必要を満たすために家族で協力するとき、わたしたちは自立していきます。

自立しているとき、わたしたちは自分が得ている祝福と手段を用いて問題に備えたり、問題を回避したりします。しかし、将来必ず訪れる難題に信仰をもって立ち向かうための勇気を祈り求めるときに、わたしたちはよりしっかりと自立することができます。また、自立することによって、人々を世話するという聖約を守ることができます。

扶助協会で、わたしたちは自立の原則と技術を教わります。姉妹たちは、家計管理や債務削減、就職資格、聖文と福音、人に読み方や学び方を教えること、コンピューターなどの技術、身体の健康、体力増進、依存症の防止と回復、健全な社会性や精神衛生、疾病予防、園芸、食料の生産と貯蔵、緊急時への備えなど、自立に役立つ様々な事柄について学ぶことができます。¹

中央扶助協会会長のジュリー・B・ベック姉妹は次のように説明しています。「自分とほかの人のために備えることは、主イエス・キリストの弟子である証拠です。……〔わたしの義理の母は、〕昨年、突然亡くなったとき、自立した生活を物語る証拠を残していきました。神殿推薦状は更新されており、聖典や福音の研究手引きはよく使われていたことが分かりました。無数の食事を作るのに使われた鍋やフライパン、食器類を、わたしたちは大事に分け合いました。古い洋服から作ったキルトも残っていました。彼女は、『使い切り、着古し、間に合わせるか、なしで済ませなさい』という古い格言を信奉していました。彼女が育て、保存し、貯蔵した食品もありました。特に感動したのは、長年、支出を細かく記録した小さな家計簿でした。儉約しながら暮らしていたので、非常時のための貯金が残っていました。もちろん借金はありません。最も重要なことは、忠実な生活を送った間に身に付けた技能をほかの多くの人に教え、学ぼう鼓舞したことです。』²

何ができる でしょうか？

1. 担当の姉妹たちが物質的な自立の度合いを高められるように、どのような助けができるでしょうか。

2. 自分自身の物質的な自立の度合いを高めるにはどうすればよいでしょうか。

詳しくは
www.reliefsocietylds.org [英語]をご覧ください。

注

1. 『手引き 第2部——教会の管理運営』(2010年)、9.4.2参照
2. ジュリー・B・ベック「福祉に関する扶助協会会長の責任」『福祉と自立に関する基本原則』6
3. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』255

わたしたちの歴史から

扶助協会の姉妹たちは、人を物質的および霊的に救う業に常に携わってきました。ノーブー女性扶助協会では、毎週の集会で姉妹たちが助けの必要な人について報告しました。そして助けを必要としている人を援助するために、金銭や物品、才能、時間がささげられました。苦しんでいる人を援助するこの基本的な行いこそ、扶助協会が幾世代にもわたって取り組み続けている業です。

聖徒たちがソルトレーク盆地に着いたとき、ブリガム・ヤング大管長(1801-1877年)は姉妹たちに対して、助けを必要としている人を助けるように、また、自立するために必要な技術を身に付けるように勧めました。ヤング大管長は次のように述べています。「自分自身で生計を立てることを学んでください。穀物と小麦を蓄えてください。飢饉ききんの日のためにそれを蓄えてください。』³ 神権の指示の下で、扶助協会では引き続き自立について教え、家族を守り、個人の義と、キリストの純粋な愛である慈愛の行いを奨励しています。

聖文から——

ヨハネ13:34-35; ヤコブの手紙1:27; モーサヤ4:26; 教義と聖約29:34-35; 38:30; 44:6



小さな、簡単なこと

「小さなことから大いなることが生じるのである。」
(教義と聖約 64 : 33)

世界における教会歴史

ドイツ

ドイツでの伝道活動が始まったのは1840年代のことでしたが、1851年までにバプテスマを受けたのは二人だけで、この二人が最初の改宗者であったようです。同年、当時十二使徒定員会にいたジョン・テラー大管長はハンブルクに行き、モルモン書をドイツ語に翻訳する作業を手伝いました。1852年にハンブルクで教会の支部が組織されましたが、初期の改宗者の多くは迫害のためにユタに移住しました。その中には後にユタ州プロボのブリガム・ヤング・アカデミーの学長になったカール・G・メーザーがいました。

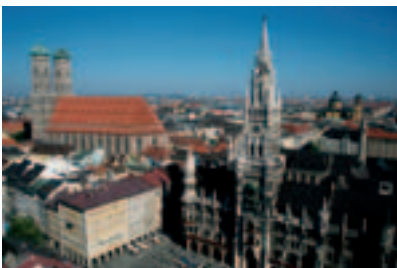
第一次世界大戦後、特に1921年から1925年にかけて、教会は多くの改宗者により発展しました。ドイツの伝道部はドイツ・オーストリア伝道部とスイス・ドイツ伝道部の二つに分かれました。その後、1937年に東ドイツ伝道部が作られました。第二次大戦中、宣教師は撤退させられました。1947年に伝道活動が再開

したとき、国は東ドイツと西ドイツに分かれていました。それでも伝道活動は続けられ、1985年6月19日、共産国で初の神殿であるドイツ・フライベルク神殿が東ドイツで奉献されました。2年後、西ドイツのフランクフルトでもう一つの神殿が奉献され、1990年に二つの国家は統一されました。



カール・G・メーザーは1860年に故国であるドイツからユタへと移住した。

1985年に奉献されたドイツ・フライベルク神殿



上——ドイツ、ミュンヘンの景色。
下——1987年に奉献されたドイツ・フランクフルト神殿



ドイツの教会	
会員数	38,204
伝道部数	3
ステーク数	14
ワード/支部数	173
儀式が行われている神殿数	2

福音が第一です

宣教師がサモアでわたしの曾祖父を見つけて教えてくれました。教会に入る際、祖父は部族の間で行われていた伝統的な信条や宗教的な慣習の幾つかを捨てなければなりません。家族はサモアの伝統に誇りを持っていますが、祖父の模範のおかげで福音が優先順位のいちばん先に来ることを学びました。

わたしが若い男性のとき、父は部族の間ではよく見られる部族の入れ墨のことや、よく知られているけれども教会の教えには必ずしも一致しない食べ物のことについて話してくれました。父はこのように言いました。「ああいうことはしてはいけないよ。サモア人である前に、また体が大きくて屈強な島の男である前に、おまえは神の子なのだから。」この言葉をわたしはいつも覚えていました。

現在わたしと妻はコスタリカに住んでいます。どこにいてもそうであるように、ここにも教会の教えに一致しない伝統や文化的な作法があります。時々わたしたちはこういった慣習に背を向ける勇気を持ち、イエス・キリストの福音による教えに忠実でなければならない時があります。

コスタリカ、モーガン・サマターリー

Mormon.orgで 自分のプロフィールを作成する

世界中にある教会員はMormon.orgにおいて、自分のプロフィールを作成することによって福音を分かち合うことができます。サイトを訪れる人はこういったプロフィールを通して、教会員から直接教会について学ぶことができます。次のステップに従って自分のプロフィールを作成し、証^{あかし}を分かち合しましょう。

1. mormon.org/createを訪れ、自分のLDSアカウントにサインインします。LDSアカウントがなければ、会員記録番号と誕生日を入力し、ユーザーネームとパスワードを登録します。会員記録番号は自分の神殿推薦状を見るか、ワードや支部の書記に連絡して入手してください。
2. 次のフィールド“About Me”「わたし自身のこと」、 “Why I Am a Mormon”「なぜわたしはモルモンなのか」、 “How I Live My Faith”「わたしの信仰生活」、 “Frequently Asked Questions”「よくある質問」、 “Personal Stories”「個人的な話」、 “Additional Information”「追加情報」にあなたの情報を入力してください。

3. プロフィールを作成するとき、教会員でない人に話しかけているということを忘れないようにしましょう。教会員でない人になじみのない言葉は使わないようにしましょう。例えば、「扶助協会が『わたしたちの時代のための教え』の教師として奉仕しています」と言う代わりに、「月に1度、生ける預言者の言葉から成人女性のクラスを教えています」と表現する方がよいでしょう。

4. 写真をアップロードし、名前、そして短い紹介を入力します。必須事項ではありませんが、自分のブログやフェイスブック（Facebook）、またはツイッター（Twitter）などのアカウントにリンクできるようにしてもよいでしょう。自分の姓や居住地などの詳しい個人情報を掲載するのは避けましょう。

プロフィールが作成されると管理者に送信され、承認を待ちます。プロフィールが承認されると、サイトを訪れる人はあなたの証を読み、教会について詳しい情報を得たいときには、連絡をすることができます。



教会の大管長のクイズ

下にある教会の大管長の写真と関連のある品を一致させましょう。



1. サングラス。ユタ準州の入植地を訪れるときにこの大管長がかけていたものです。

2. シルクハット。上品な容姿と振る舞いにより、この預言者を有名にしたことで知られる品です。



3. 殊勲章。この大管長はアメリカ合衆国のドワイト・D・アイゼンハワー大統領内閣で農務長官としての働きに対してこの章を受けました。

4. 福祉計画の記念コイン。この大管長は世界恐慌の間、教会の福祉プログラムを創始し、指揮しました。

5. 鞍。この預言者はソニーボーイという名の自分の馬を愛しました。



6. 日記。この預言者は教会歴史を保存することに従事し、彼の記録は教会の最も価値ある歴史記録の中に含まれています。

7. BYUエルサレムセンターの写真。この大管長はこのセンターを建設するためにエルサレムに土地を購入する交渉をしました。

8. ミニチュアマイクホン。この大管長は癌の治療のために何度も咽頭手術をし、声に支障が出たため、この装置を眼鏡に装着しました。



A. ジョセフ・スミス・ジュニア (1805 - 1844 年)

B. プリガム・ヤング (1801 - 1877 年)

C. ジョン・テラー (1808 - 1887 年)

D. ウィルフォード・ウッドラフ (1807 - 1898 年)

E. ロレンゾ・スノー (1814 - 1901 年)

F. ジョセフ・F・スミス (1838 - 1918 年)

G. ヒーパー・J・グラント (1856 - 1945 年)

H. ジョージ・アルバート・スミス (1870 - 1951 年)

I. デビッド・O・マッケイ (1873 - 1970 年)

J. ジョセフ・フィールディング・スミス (1876 - 1972 年)

K. ハロルド・B・リー (1899 - 1973 年)

L. スペンサー・W・キンボール (1895 - 1985 年)

M. エズラ・タフト・ベンソン (1899 - 1994 年)

N. ハワード・W・ハンター (1907 - 1995 年)

O. ゴードン・B・ヒンクレイ (1910 - 2008 年)

P. トーマス・S・モンソン (1927 年 -)



9. 杖。この大管長は晩年になって杖を使いました。そして、集まった末日聖徒にあいさつするため、会衆に愛情を込めてこの杖を振っていました。

10. 什分の一献金用紙。この大管長は什分の一についてのジョセフ・スミスの教えを強調しました。

11. 『屋根の上のバイオリン弾き』。この大管長は文学を愛し、この名著を何度も引用しました。



12. タイプライター。この大管長は教会で最も多くの本を書いた著者の一人です。

13. 剣。この大管長はノーブー部隊の中將として働きました。



14. 花のレイ。この預言者は15歳のとき、ハワイで最初の末日聖徒の宣教師の一人となりました。

15. 懐中時計。カーセージの監獄の殉教の日



16. スカウトのシルバー・バッファロー章。この大管長は教会のボーイスカウトの最初の重要な奨励者でした。



左—BYUエルサレムセンターの壁画／ロケリー・オクテン、つねの写真／ジシ・ルック
シルバー・バッファロー章の写真／クリスティーナ・スミス

評議会 による祝福

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード長老



何年も前、わたしがビショップとして奉仕していたころ、ワードのある家族は父親が仕事を失ったときに危機的な状況に置かれました。わたしはこの

家族の安否を気遣って家を訪れ、助言を与え、教会の援助を申し出ました。ところが、教会の一時的な援助の申し出に対し、この家族は気が進まない様子でした。このため、わたしはこのことをワードの評議会に提示しました。忠実な守秘義務の精神の下で、わたしは評議会のメンバーにこのすばらしい家族に関してわたしが心配していることを話し、どのように彼らを祝福できるかについて意見を求めました。

扶助協会の会長は自発的にこの家族の母親を訪ね、当面必要な物を確認し、彼らが必要とする日用品を確保できるように働きかけました。教会のプログラムによれば、このようにすることは当然、この扶助協会会長の責任でした。数日の間に、彼女はわたしにできなかったことを達成し、この家族はへりくだり、感謝して必要品の援助を受けたのです。長老定員会会長は、この家族の父親と話し合いました。もちろん、このことも長老定員会会長の権利と義務ではありましたが、彼は父親が仕事を見つけるうえでの助けとなりました。若い男性会長は、この家族が家のペンキの塗り替えをとっても必要としていることに気がつき、若い男性の祭司が大祭司と協力して家のペンキを塗るように調整を図りました。

この両親との話し合いの間、この家族が多額の借金を抱えており、家のローンを滞納して

助けの必要な人々を強める

「ワード評議会の構成員は、自分の組織に属する会員の必要、福利、霊的な進歩について、常に最新の情報を得るよう努める。また、特別な問題や状況の変化に直面している会員についても最新の情報を得るよう努める。この情報によって助けを最も必要としている人々を強めることができる。」

【手引き 第2部 — 教会の管理運営】(2010年), 4, 5, 1

【手引き 第2部】および2010年11月と2011年2月の世界指導者訓練集会の放送は、LDS.org [英語] で入手できます。「Menu」「Serving in the Church」の順にクリックしてください。

いることが分かりました。認可された福祉プログラムのガイドラインに従い、わたしは近親家族に援助してくれる人がいるのかどうかを尋ねましたが、その答えに対する情報はほとんど得られませんでした。しかし扶助協会会長は、この家族の母親に裕福な兄がいるということを知ることができました。

「兄に連絡するわけにはいきません。もう何年も口さえ利いていないのですから」と母親は言いました。

母親の苦境を理解することはできましたが、教会の秩序に従うことが大切であると感じました。ですからわたしは彼女と話し合い、ついに遠い町に住む彼女の兄に連絡をする承諾を得たのです。わたしは彼女の兄に電話し、彼の妹が置かれている難しい状況について説明しました。3日とたたないうちに兄はソルトレーク・シティーに到着し、妹の経済的な問題を万事解決する助けをしてくれました。一方で、長老定員会会長は、夫が良い収入が得られる安定した仕事を見つけられるよう助けました。

しかし、もっと重要なことは、この家族がさらに固いきずなで結ばれ、一致したことにあります。この家族の母親が長年疎遠だった兄と再会した心温まる瞬間を決して忘れることはないでしょう。彼女の兄は教会から離れていましたが、即座に御霊が通い合うようになりました。結果的に、この兄は教会に戻って活発になり、家族との関係を取り戻しました。

これらのことはすべて、神が御自分の僕たちを通して御自分の子供たちのために用意されたプログラムに従って、忠実なワード評議会が靈感を受けて働いたために起こったことでした。■

Counseling with Our Councils (1997年), 15 - 17 から

主はわたしの悲しみを 負ってくださいました

「まことに彼はわたしたちの悲哀を負い、
わたしたちの悲しみを担った。」(モーサヤ 14:4)

ジェーン・ブリーク



逆境は神へとつながる

「立ち直れないような大きな不幸を経験したり、自分の人間性に幻滅したりしている人がいます。しかし、立ち止まって考えてみると、自分の身に起きた逆境でさえも、霊を高揚させる手段であることを証明できるのです。逆境そのものは、神と霊的な啓発につながるものであり、それから遠ざけるものではありません。」

デビッド・O・マッケイ大管長
(1873 - 1970年)
Treasures of Life, クレア・ミドルミス編
(1962年), 107 - 108

2009年の夏と秋のことを忘れることはないでしょう。6月9日、10年以上も認知症を患った父が亡くなりました。6月25日、22歳の息子は不慮の死を遂げ、それから1か月とたたないうちにいとこが亡くなりました。8月13日には、82歳の母が心臓の切開手術を受け、快復までの長い道のりを歩み始めました。10月18日、わたしの兄弟が41歳で亡くなりました。10月31日、夫が重度の心臓発作を起こし、8分間心肺停止状態に陥りました。それでも消防士や救急医療隊員、そして神権の祝福のおかげで一命を取り留めました。

これら一切の出来事にどうやって対処しているのかと、よく尋ねられました。答えはいつも同じでした。救い主に頼るのです。そうすれば、主はわたしたちを慈しんでくださいます。主はわたしたちを試練の渦中に置き去りにはなさいませんでした。わたしは天により養われ、支えられていると感じました。まさしく、主は「[[わたしの] 悲哀を負[って]]」くださったのです(モーサヤ 14:4)。

慰めは家族、友人、ワードやステークの会員を通して与えられました。彼らは数え切れないほどの方法で思いやりを示してくれました。13歳になる孫娘のクリスタルからは、息子マイケルの死後、1通の手紙をもらいました。孫が「神様がおばあちゃんを支えてくださっているわよ」と書いてくれたおかげで、わたしたちは

孤独ではないと思いきこすことができました。この手紙から、教義と聖約第84章88節の聖句を思い出しました。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」

「主を信頼する」という、十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老の説教を読んで、力づけられました。スコット長老はこのように語っています。「試練というものは、えてして順風満帆じゅんぷうまんぱんに思えるようなときに、重なってやって来るものです。そうした試練がもし不従順によるものでなければ、それは、皆さんにさらに成長する準備ができた、と主が感じておられるしるしです。皆さんの成長と理解と思いやりに拍車をかけて皆さんを切磋琢磨せつさたくまし、そこから、永遠にわたる利益を勝ち得てもらうためです。皆さんが現在の状態から主が意図しておられる状態へと移るには、かなり背伸びをしなければならず、往々にしてそれが不快感や苦痛をもたらすのです。」(『聖徒の道』1996年1月号, 17)

スコット長老は、「なぜわたしにこんなことが起こらなければならないのか」「なぜ今こんなことに苦しまなければならないのか」といった疑問は、わたしたちを迷路に陥れるだけだと語っています。そう



ゲツセマネでイエス・キリストは、完全な信頼の模範を示されました。

御父に「もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください」とお求めになりましたが、その後「わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」と言われました（マタイ 26：39 - 44 参照）。

ではなく、「この経験から何を学べばよいのだろうか」「だれを助けたらよいのだろうか」「これまでの試練の中で受けてきたたくさんの祝福をどのようにして思い起こせばよいだろうか」と自問してみるように長老は勧めています。

わたしは、「なぜ」と言いたくなる誘惑に立ち向かいました。そう言う代わりに、試練を通して天の御父の導きを求めました。すると御父はわたしを祝福してくださり、将来への希望を抱くことができるようにな

りました。悲しみに沈んだ心は癒され、周囲から受ける親切にもっと気づくようになりました。奉仕する機会を頂いて、ほかの人への思いやりが深まり、家族や友人に対する愛情を増すことができたのです。

これらすべてのことを通して、試練とは自分の意志を天の御父に従わせるためにあるという証を得ました。なぜなら、そうして初めてわたしたちは、御父が一人一人に対して具体的に意図された方法で、個別に精錬され磨き上げられるからです。■

悲しみに対処する

- わたしたちは悲しみの中で独りほうっておかれることはありません。なぜならイエス・キリスト、すなわち「悲しみの人で、病を知〔る御方〕」が贖いの一部として、わたしたちの悲しみを負ってくださったからです（イザヤ 53：3）。
- 「なぜ」と言いたくなる誘惑に立ち向かうことができます。そう言う代わりに、主の導きを求めます。
- 試練を受け入れて、天の御父に自分の意志に従わせることができます。

このテーマについてもっと詳しく知りたい方は、箴言第 3 章 5 節から 6 節と『リアホナ』2006 年 11 月号のジョセフ・B・ワースリン「日曜日は必ずやって来る」28 - 30 を参照してください。

なぜ主を信頼できるのでしょうか

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老の総大会説教「主を信頼する」（『リアホナ』1996 年 1 月号、17 - 19）から、この質問に対する答えを見いだすことができます。

1. 神は御自分のなさることを御存じです。わたしたちは主の目的になかった試練を経験するとき、わたしたちを助けてくださる主に信頼を置くことができます。
2. 神の計画は、わたしたちが昇栄して神のもとに戻ってともに住めるようにするためのものです。¹
3. 試練を乗り越えることは、神の計画の一部です。そうするとき、わたしたちは力、知識、信仰、そして神への信頼を増し加えられるのです。²

悩みを抱えている人と、スコット長老の説教「主を信頼する」を一緒に読んでみてください。

注

- 1.『福音の原則』（2009 年版）、10 - 11 参照
- 2.『福音の原則』21 - 24 参照

神権

は神の御名によって
行動するための権能です

天の御父は天地を支配しておられます。その永遠に続く力によって、宇宙は完全な秩序を保っています。御父は地上で御自分の教会を統治するために、その権限と権能の一部をふさわしい男性の教会員に委譲されました。この委譲された権能は神権と呼ばれます。この委譲された責任の様式は新約聖書で知ることができますが、そのときイエス・キリストは使徒たちに、御自分の名前によって行動するための権能をお授けになりました（マタイ 16：19 参照）。

これは神が定められた統治の方法であり、今日地上で実際に行われています。神権を有する人々は、神の御名によって行動する権限を与えられて、主の教会を導いています。またバプテスマや確認、聖餐の執行、神殿結婚といった救いに欠かすことのできない儀式を管理します。忠実な末日聖徒の男性と女性、そして子供の一人一人が神権の儀式を必要とし、儀式を受けることによって祝福を受けるのです。

神権の職

神権はメルキゼデク神権とアロン神権の二つに分けられます。メルキゼデク神権には、アロン神権よりも偉大な権能が含まれています。

この二つの区分では、それぞれの職と責任の範囲が具体的に分かれています。アロン神権に属する職は、執事、教師、祭司、およびビショップです。

メルキゼデク神権に属する職は、長老、大祭司、祝福師、七十人、および使徒です。これらの職を有する人々は、定員会またはグループを構成します。各々の職には割り当てられた個別の義務があります。

神権の鍵

「鍵」という言葉は、特定の教会のユニットや管轄区域を管理するための権能を指します。例えば、ステークやワードではステーク会長、ビショップ、および定員会会長のみが神権の鍵を有しています。その鍵は、授ける権能を有する神権者の授手によって与えられます。

- メルキゼデク神権定員会の会長は、会長会の鍵と霊的な事柄の管理運営にかかわる鍵を授かります（教義と聖約 107：10, 18 - 19 参照）。
- アロン神権定員会の会長は、天使の働きの鍵と、バプテスマおよび聖餐といった儀式を執行する鍵を授かります（教義と聖約 107：20 参照）。
- 教会の大管長は、教会全体をつかさどる神権の鍵すべてを有します（教義と聖約 81：1 - 2 参照）。

メルキゼデク神権の職と義務の一部

1. 長老は、「バプテスマを受けて教会に入る人々に、……火と聖霊によるバプテスマのための授手による確認を行い[ます。]」（教義と聖約 20：41）



アロン神権の職と義務の一部



2. 大祭司は「靈的な事柄をつかさど(り)」、長老、祭司、教師、および執事の「職務を行う権利」を持ちます (教義と聖約 107:12)。



3. 祝福師は祝福師の祝福を授けます (教義と聖約 107:53; 124:91-93 参照)。



4. 七十人は福音を宣べ伝え、十二使徒定員会の指示の下にイエス・キリストの特別な証人となります (教義と聖約 107:25, 34 参照)。



5. 使徒は「全世界におけるキリストの名の特別な証人」として務めます (教義と聖約 107:23)。



1. 執事は聖餐を配ります。



2. 教師は「常に教会員を見守り、彼らとともにいて彼らを強め(ます。)]」(教義と聖約 20:53)



3. 祭司は「教え、……バプテスマを施し、聖餐を執行〔し〕、また各会員の家を訪れ〔ます。)]」(教義と聖約 20:46-47)



4. ビショップは、祭司定員会の会長であり、大祭司としてワードの全会員を管理します (教義と聖約 107:87-88 参照)。■

「神権の儀式と権能がなくては、
肉体を持つ人間に神性の力は現れない。」
(教義と聖約 84:21)

「わ たしが願ったことで、神が与えてくださらなかったものは何一つありません。」妻のデボラはそう言いました。この言葉には、今でも驚嘆させられます。妻の傍らで、その願いがかなえられるのを一部始終見てきたわたしでさえそうなのですから、デボラが全身性エリテマトーデス（全身の臓器に原因不明の炎症が起こる自己免疫疾患の一種）で7年間、乳癌で2年間、それぞれ闘病生活を送った末、1990年9月19日に亡くなったことを知る人は恐らく皆、驚くことでしょう。しかし、そのように驚きと感嘆の念を抱く人々であっても、神権の祝福や祝福の成就について十分に理解していないかもしれません。わたし自身、神権を保持することやほかの人々を祝福するために神権を行使することがどのようなことかについて、多くの苦しみをもって学んだのです。

わたしの両親は二人とも教会活動に活発で、教えに忠実でした。しかし子供時代に、わたしが神権について特に霊的な影響を受けた思い出はありません。祝福を必要とするほどの病気になった覚えもありませんし、ほかの家族が神権の祝福を受けたという記憶もないのです。

神権の祝福の重要性について深く理解しないままに、わたしは妻と結婚して子供を授かり、自分の家庭を築きました。だれかが重い病気になったときや手術を受ける前には、神権の祝福を施しました。また、妻が情緒的な助けを必要とするとき何度か祝福を授けたことがありますが、そのよう

てほしいと願うことはめったにありませんでした。

1989年3月に、担当医から妻が癌であると告げられたとき、わたしたちの生活は一変しました。妻の癌は特殊だったため、内科医は2年間、癌を発見できませんでした。最終的な診断を受けるまでに癌は広がり、回復の可能性はほとんどありませんでした。もはや自分たちの力だけでこの困難な状況を乗り切ることができないと判断したわたしたちは、家族以外の人々にも霊的な助けを求めることにしました。そこでワードの会員はデボラのために断食をしてくれました。わたしたちは扶助協会からの援助を喜んで受け入れました。妻の闘病は、多くの人々が一致して臨む闘いとなりました。妻が受ける予定の化学療法に耐えた経験を持つ友人は、最もつらかった治療期間に神権の祝福を求め、儀式を受けたことを打ち明けてくれました。そして、治療の副作用に耐えるには、自分と同様に霊的な助けを求める必要があるとアドバイスしてくれました。

化学療法はつらいものでした。妻の体には予測されていた副作用がすべて表れたので、治療後の数日間は不快な症状に苦しみました。毎日、一日のほとんどをベッドの上で過ごし、食事を取るのも一苦勞でした。それでもわたしたちは困難に立ち向かう方法を一つ一つ学び、自分たちにできることを少しずつ見いだしていきました。

この困難な期間中、友人の勧めを受けた妻は、神権の祝福を施してほしいとわたしに頼みました。そこで化学療法が

神権の祝福

神を信頼することを学ぶ

な機会はごくまれでした。

祝福を施すことは、わたしにとって常に有意義な経験でした。しかし、理解の不足や自信の欠如から、神権を行使するに当たって、その機能を十分に働かせることができませんでした。言うべき言葉がなかなか思い浮かばず苦勞したうえに、やっと思い浮かんだ言葉がほんとうに神の望まれている言葉なのか確信が持てなかったのです。

このような状況が少し変わったのは、妻が全身性エリテマトーデスを患っていることが分かったときでした。その後何年もの間、極度の疲労と不安にさいなまれながら闘病生活を送る中で、時折受ける神権の祝福は最良の助けでした。妻は、わたしが祝福を施すのに苦勞しているのを察していたので、さらに霊的な助けを望みながらも、自分から祝福し

始まった週に、わたしは妻の不安が和らぐよう祝福しました。神権の祝福を通して、治療に伴う恐れが完全に消え去らないまでも軽減されました。わたしが妻の頭に両手を置いて祝福を授けると、長期間続いていた嘔吐が止まり、不眠に悩まされていた夜に眠りが訪れました。これらの祝福は、助けと慰めが与えられるという約束とともに将来へのかすかな希望をも、もたらしてくれました。祝福によって、わたしたちの心は慰めと喜びに満たされました。

その後、わたしにとって祝福を施すことが容易になったと言えたらいいのですが、そうではありません。求められる度に祝福を施しはしましたが、神権を行使する際のわたしの苦闘は相変わらず続いていました。自身の葛藤について妻に話したことはありませんでしたが、妻は祝福を施すこと

最も願ったものを
得られませんでした
が、
祝福はすべて
成就されました。



にわたしが消極的であることを感じ取っていました。しかし困難な試練の中であって、妻は自分が助けを受けるに値すること、またその助けはわたしを通して与えられることを知っていました。ですから助けが必要なとき、妻はわたしに祝福をしてほしいと頼みました。

祝福を施す際にはいつでも、事前に自分が妻のためにどんな祝福を求めているか、わたしには分かっていました。何にも増して望んでいたのは、妻が癒されることでした。妻もまた、同じことを願っていました。しかし実際には、そのような祝福の言葉は思い浮かびませんでした。わたしが口にしたのは慰めを約束する祝福でした。祝福によって試練が取り去られることはありませんでしたが、苦しみに耐える



神の御心と調和する

「神の神権の確実な力を行使するとき、そして信仰の祈りを聞きこたえてくださるという神の約束を尊ぶときに、信仰と神権の癒しの力は、その神権を所有しておられる御方の御心に反する結果をもたらすことはできないということをいつも覚えておく必要があります。この原則は、病人に手を置くよう教会の長老たちに指示する啓示の中で教えられています。主は『わたしによって癒されるという信仰を持っていて、死に定められていない者は、癒されるであろう』と約束しておられます（教義と聖約 42：48、強調付加）。」……

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老
「病人を癒す」「リアホナ」2010年5月号、49-50

のが容易になりました。

徐々に、わたしは神権と神権の祝福がどのようにその効力を発揮するかについて理解を深めていきました。祝福を授けることは、自分が望んでいるものを得るための手段ではなく、必要な助けを受けるための手順なのです。わたしは自分が必要だと考えることを願うのではなく、主と主の御心を信頼することを学びました。祝福するとき心に思い浮かぶ言葉は、まさに主がわたしに述べるよう望んでおられる言葉であるという確信を得たのです。これまで祝福を授けることが容易に感じられたことは一度もありませんが、祝福を施す間に自分が感じる事柄に確信を持てるようになりました。

デボラの治療が終了した後、抗癌剤の効力が表れるのを待つ苦悩に満ちた時期が始まりました。この間、医師の診察や検査、治療などから解放されることを喜ぶ一方で、心の奥底には恐れが潜んでいました。強力な抗癌剤による攻撃を逃れて生き残った癌細胞が、再び増殖し始めているのではないかという恐れです。

やがて妻の体に徐々に表れ始めたわずかな症状によって、最も恐れていたことが現実となったことが明らかになりました。治療は成功しなかったのです。担当の医師団の見解は楽天的でしたが、わたしたちには時間の問題であると分かっていました。

デボラの人生最後の6か月は、信じられないほど穏やかなものでした。最終的な治療が功を奏さなかったのを最後に、わたしたちは治療を継続するのを断念しました。自宅に帰って、残された時間を大切にすることにしました。家で過ごした数か月、わたしたちがすばらしい時間を過ごしたと言っても信じてもらえないかもしれませんが、それはわたしの人生で最良の日々でした。

この期間、心配した友人や家族の中には、妻の命を助けてくださるよう、わたしたちがもっと強く主に願い求める必要があると助言する人もいました。わたしは神権を持っているのだから、妻を癒すためにそれを行使すべきだと言うのです。その気持ちはよく分かりましたが、友人たちは現実に起こっている事柄を理解していませんでした。デボラの命が助かるという約束ほど、わたしが強く願っていたものはありませんでした。しかし、妻に祝福を授けている間、そのような言葉がわたしの口から出ることはありませんでした。妻もまた、健康の祝福のほかに望むことはほとんどなかったにもかかわらず、それを願うべきだと感じたことが一度もなかったのです。二人とも奇跡を信じていました。しかし同時に、永遠の計画に添った出来事について、自分たちの観点はごく限られたものでしかないことを承知していました。

実際に起こった事柄は、願ったこと以上にすばらしい奇跡でした。祝福の中で、妻は命を長らえるという約束を受けませんでした。しかし、現実に起こっている事柄は神の御心であるという疑いのような確信を得ていました。妻は安楽な生活を約束されませんでした。しかし、困難な時期を堪え忍べるよう助けが与えられました。妻はこの世にとどまって子供たちを育てる機会を与えられませんでした。しかし、永遠のきずなという確かな約束を得ました。妻は家族が見守る中、ひどい苦痛や不快な症状に苦しむことなくこの世を去りました。

神は実在の御方であり、わたしたちを深く心にかけかけてくださっていることを知っています。わたしたちが強さや理解を必要とするとき、神は慰めを与え、援助の手を差し伸べてくださいます。人生は困難に満ちていますが、主は試練の間、絶えず助けを与えると約束してくださっています。神権の祝福は、神の助けを得る方法の一つです。このことを知っていたので、妻は次のように言うことができたのです。「わたしが願ったことで、神が与えてくださらなかったものは何一つありません。」■

義にかなった模範の力

ジェリー・ストリングム

1992年4月当時、わたしと家族はユタ州プロボで暮らしていました。わたしがブリガム・ヤング大学で工学の学位を取得できるようカナダから移住していたのです。17歳だった息子のジェイスは、クリスタという名の若い女性と友達になっていました。

総大会が開催される土曜の夜のことでした。ジェイスが居間にやって来て、クリスタを連れてミルクシェークを飲みに行くのに車を貸してもらえないかと聞いてきました。わたしが車の鍵を投げ渡すと、息子は台所に行ってクリスタに電話をかけました。クリスタと話す息子の声が次のように聞こえてきました。

「やあ、クリスタ。
ジェイスだよ。
よかったらミルクシェークを飲みに出かけないか。」沈黙の後

「神権部会の後に
っていうこと？
分かった、そうしよう。
後で電話するよ。

「じゃあ。」

ジェイスは受話器を置くと居間に戻って来ました。

「それで、クリスタと出かけるの
かい？」わたし
がそう尋ねると、息子は

こう答えました。「彼女も行きたいって言っていたよ。ただし、ぼくが神権部会から帰ってから、電話をかけ直してほしいって言うんだ。」がっかりした顔つきで息子は、とぼとぼと自分の部屋へ戻って行きました。

そのとき、わたしの心は大きな衝撃に打たれました。わたしはアルバータ州の南部で育ったのですが、そこはステーキセンターから80マイル（130キロ）近く離れていました。支部の指導的立場にあった人のだれ一人として、両親でさえ、神権部会どころか総大会の部会に出席すること自体、わたしに期待していませんでした。ところが今は、そうではないのです。

部屋に引き上げたときに息子が見せた悲しげな様子に対して、わたしはどのような態度を執ればよいのでしょうか。そのときの決意が、その後何年にもわたって続く習慣のきっかけになると、わたしには分かっていました。わたしはいつから立ち上がるかと、ジェイスと最近執事に聖任されたばかり



の次男に声をかけ、
玄関に来よう言いました。
「着替えなさい。ステーキセンターで神権部会が始まるまで、あと10分しかない。」わたしが大急ぎで支度をして寝室から出てきたとき、二人の息子は準備ができていました。わたしたちは車に向かいました。

部会での話についてはよく覚えていません。しかし、わたしたちが御霊を感じたことははっきりと覚えています。息子たちと一緒に神権部会に出席して、すばらしい気持ちを味わいました。帰宅したとき、ジェイスは自分自身に良い気持ちを感じていましたし、そのことがわたしの心を晴れやかにしてくれました。息子はクリスタに電話をかけてから、二人でミルクシェークを飲みに出かけて行きました。

あの日から20年が過ぎました。その間、我が家の神権者は総大会の神権部会に欠かさず出席してきました。一人の義にかなった若い女性が自分の信条に従ってくれたおかげで、わたしたち家族は変わる機会を得たのです。わたしたちは今も継続して末日の預言者たちの言葉を聞き、総大会の神権部会で御霊を感じています。■

末日聖徒の 結婚観



大管長会第一顧問

ヒュー・B・ブラウン管長（1883－1975年）

ヒュー・B・ブラウンは1883年10月24日、ユタ州グレンジャーで生まれました。1958年に使徒に召され、デビッド・O・マッケイ大管長の顧問を8年間務めました。この記事は、彼の著書『あなたと結婚』(You and Your Marriage)からの抜粋です。

結婚は「 sacrament」(訳注——通常は「せいさん聖餐」と訳されるが、ここでは「おんちゆう神の恩寵のしるしとして、特に神聖と考えられる儀式」の意)であり、またそうでなければなりません。「 sacrament」という言葉には様々な定義がありますが、クリスチャンの間では、ふさわしい権能を持つ人によって厳粛に執り行われる宗教的な行為あるいは儀式を意味します。契約を交わす人と人、および人と神との間で交わされる誓約、神聖な聖約、霊的なしるしあるいは契りです。結婚が主御自身によって設けられ、認められたことは、以下の引用から分かります。

「また主なる神は言われた、『人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。』……

それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世2:18, 24)

イエスがガリラヤを去ってヨルダンの向こうのユダヤの地方へ行かれたとき、大勢の群集がついて来ました。そしてパリサイ人たちは離婚についてイエスに問いかけました。

「イエスは答えて言われた、『あなたがたはまだ読んだことがないのか。「創造者は初めから人を男と女とに造られ、

そして言われた、それゆえに、

人は父母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである。』

彼らはもはや、ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない。』(マタイ19:4-6)

結婚は神の目的を成就する

男性と女性は一体になるべきであると神が意図されていたことは明らかです。神は自らこの最初の結婚式を執り行うことにより、結婚制度を聖別されました。それは正常で健全な望ましい状態であり、地上における神の目的を果たすために定められました。

結婚は家庭を築くうえで中心的な要素です。結婚は単に習慣や市民法によって定められた人の制度以上のものであり、道徳上の定めによって認められた契約以上のものです。結婚は男性と女性が神と協力して神が明言された目的に着手することを厳粛に誓う宗教的な儀式であり、またそうでなければなりません。その目的とは、神の霊の子供たちに死すべき肉体と地上での生活を与え、不死不滅と永遠の命をもたらすことです。

中には、最も気高く、最も献身的で、最も望ましい生活は、結婚の聖約をしないことによって得られると言う人々がいます。言い換えれば、彼らは最高の栄光を求



める人々は「肉体的で動物的な関係によって自らを汚してはならない」と言うのです。聖文にはそのような教義を正当化する根拠はありません。箴言の書にはこのようにあります。「妻を得る者は、良き物を得る、かつ主から恵みを与えられる。」(箴言 18:22)

また教義と聖約には次のように書かれています。「さらにまた、まことに、わたしはあなたがたに言う。だれでも結婚を禁じる者は、神から聖任されていない。結婚は人のために神によって定められているからである。」(教義と聖約 49:15)

神殿結婚は真の幸福をもたらす

人生で最良のものを得、現世と来世で最高の幸福を得るには、男女は神殿でこの世から永遠に

わたって結婚しなければならぬと、末日聖徒は信じています。神殿結婚の結び固めの儀式を受けなければ、人は神のようになることも満ちみちる喜びを受けることもできません。

末日聖徒にとって、完全に受け入れられる結婚は唯一、神殿結婚すなわち日の栄えの結婚であり、それは教会の神殿においてのみ執行されます。神殿は、霊的な永遠の儀式を執り行う場所として「聖きを主にささぐ」ために、建てられ、奉献されています。わたしたちは、ほかの教会の聖職者や役人など、法によって権限を与えられた人々が執り行う市民結婚を認めます。しかし、この世から永遠にわたる結婚は、神の神殿においてのみ、権能を持つ者によってのみ執り行われると信じて

います。その権能は、キリストがペテロに「あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐれ……るであろう」と言ってお与えになった権能です(マタイ 16:19)。

この権能について聖文には「天国のかぎ」と書かれており(マタイ 16:19)、日の栄えの結婚においては、これらの鍵が王国の扉を開きます。

必要が完全に満たされる

人には、道徳的、社会的、生理的、霊的な基本的必要があり、

これらの必要は永遠の結婚という神が定められた制度において

**末日聖徒は、
人生で
最良のものを得、
現世と来世で
最高の幸福を得るには、
男女は神殿で
結婚しなければならぬ
と信じています。**



教えられています。ですから、神が永遠であられるように、愛もまた永遠であるに違いなく、愛がもたらす実と祝福は永遠にわたって続くように定められているのです。しかし、夫婦や親子の間にある永遠の愛という特権と利益を享受するためには、最も美しいこの関係を認可し聖別するその儀式に「死が二人を分かちまで」という制限が含まれることは受け入れられません。家族関係と夫婦の結合が永遠であるためには、結婚の契約は**権能**によって「この世から永遠にわたって」と宣言されなければならぬのです。

のみ、完全に満たされます。

この世でも後に訪れる永遠の世でも実り豊かな生活を送るためには、人は愛し愛され、仕え、犠牲を払い、責任を持ち、神から授けられた創造の力を働かせなければなりません。「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」(ヨハネ 10：10)

しかし、男女がそれぞれに受ける利益が結婚の最大の意義ではないのかもしれませんが。世の初めに二人が一体となった目的が、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ」という主の戒めに示されています(創世 1：28)。人はふさわしい結婚において、創造し、生み出すという生来の衝動を実現する機会があります。これは婚姻関係においてのみ、子供を生み育てる中で、完全に実現され、ふさわしく実現されるものです。両親は、自分たちのもともと生まれた子供たちが、自分たちの子供であるとともに、神の子供でもあ

ることを覚えておかなければなりません。神はわたしたちの霊の体の父であり、前世において、神は賢明にも永遠の元素と永遠の霊が離れることなく合わされ、満ちみちる喜びを得られるように備えをしてくださいました。したがって末日聖徒は、この婚姻関係において神が実際もう一人のパートナーであり、神によって定められた結婚という神聖な制度の下に子供たちをこの世に送り出すことが、人の不死不滅と永遠の命をもたらす神の計画の一部であると信じています。

結婚の永遠性

主イエスが神への愛と^{ほらから}同胞への愛を最も偉大な二つの戒めとして定めたとき、主は愛を栄光に満ちたものとされました。実際わたしたちは、神は愛であられると

末日聖徒は、この
末 (婚姻) 関係において
神は実際もう一人の
パートナーであり、
結婚という
神の定められた
神聖な制度の下に
子供たちを
この世に送り出すことは、
神の計画の一部である
と信じています。

の世から永遠にわたって」と宣言されなければならぬのです。

すべての人は、子孫に対する責任、またそれに関連して自分が交わす聖約に対する責任を自覚すべきです。主が「彼らなしにはわたしたちが完全なものとされることはな [い]」と言われたとき(教義と聖約 128：18)、主は過去だけでなく未来へつながる鎖についても言及された

のです。実際わたしたちは、先祖に対してよりも、この世で自分たちに託された人々に対して、より直接的な責任を負っていると言えるでしょう。自分たちの先祖が犯した罪に対しては、それが作為の罪で



あれ不作為の罪であれ、わたしたちが責任を問われることはありません。しかし、子孫の過ちについては、わたしたちが子孫に対する責務を遂行しなかったために子孫が罪を犯した場合、罪はわたしたちの頭に下ると主は警告しておられます。

日の栄えの王国の最高位を得た人々が受ける祝福の中に、永遠に増し加えられるという祝福があります。この祝福には様々な意味がありますが、その一つは、死後においても神と協力して、人の不死不滅と永遠の命をもたらす業に携わることです。

永遠の伴侶として進歩する

末日聖徒が持つ永遠の進歩に関する概念の一つは、知識や力、知性、理解など、神性を構成するあらゆる特質と能力が永遠に発達し、増し加わることです。しかし、神の秩序においては、未完成つまり未婚の状態では、人はこの永続する完全な状態に到達することはできません。完成された人、つまり自分の伴侶を見つけて一体となった人は、成長し、増し加えられるのです。

神の目から見たこの結婚観は、結婚に新たな意味を与え、結婚という概念に対して重要性、尊敬、栄光を加えるものです。この結婚観を持つ人は、より注意深く永遠の伴侶を選ぶでしょう。そのような永遠の契約に入る前には、男性も女性もへりくだり、思慮深くなり、祈りの気持ちで神の導きを求めなければなりません。

婚姻関係が宗教的に神聖なものであることがしっかり認識され、その価値がよく理解されるには、男女が結婚前から同じ目標を心に抱いて歩み始めることが大切であり、そのためには二人が信仰を同じくすることが必要になります。二人は、ふさわしい者だけが入ることを許される建物の中で神聖な儀式を受けるために備えなければならず、ふさわしくなければなりません。ここで二人は教えを受け、聖約を交わし、そして聖壇において神と天使の前で互いに永遠の愛と忠実を誓い合います。確かに、このような概念と慣行とそれに伴う義務は、

永続する家庭と、栄えある結婚制度と、人の魂を救いに導くものなのです。

信仰の行い

そのような結婚生活は、本質的に、永遠のパートナーである神の前で厳かになされる信仰の行為です。困難、試練、落胆に見舞われ、時には家族に先立たれたとしても、最後まで歩み続け、終わりまで堪え忍ぶに足る信仰と勇気を持たなければなりません。

この永遠の協力関係の条件と義務を受け入れるとき、この関係における失敗とは、ほぼ完全な失敗を意味することを認識しなければなりません。ほかの分野においてどのような成功を取めようとも、永遠の聖約によって課される義務を怠るようなことがあれば、日の栄えの栄光を失うという恐ろしい罰を受けることになるでしょう。さらには、自分が契約を交わした相手、自分が責任を負う相手が被った損失に対する責任も伴うのです。

「結婚は人のために神によって定められているからである。

それゆえ、人が一人の妻を持つこと、また彼ら二人が一体となることは正当である。これはすべて、地がその創造の目的にかなうためであり、

世界が造られる前の人の創造に
応じて、地が人の数で満たされる
ためである。」(教義と聖約 49:15
- 17) ■

副題を追加、原文〔英語〕においては、句読点、大文字は現代の用法に修正。



祝福は 差し控えられ ない

「結婚して
いない多くの成
熟した教会員
はどうなるの

でしょうか。何の落ち度もないのに、独りで生きるという試練を受けています。わたしたちは皆、次のことを思い起こしましょう。主御自身の方法と時から見れば、忠実な聖徒に対して祝福が差し控えられることはありません。」

十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
「日の栄えの結婚」
『リアホナ』2008年11月号、93



何としても

やめたかった

のです

ポルノグラフィー依存症克服の道のり

ポルノグラフィーとの闘いは少年時代、人から良くないものや行いを教えられたときに始まりました。当時、福音はわたしの生活で大切なものではありませんでした。初等協会を卒業するまでは家族で教会に通っていたのですが、13歳か14歳のころ、わたしたちはまったく行くのをやめてしまったのです。そのために、何かを決める際に福音の教えが基準になることはありませんでした。

近所の人やいわゆる「友達」がわたしに何を教えているのかを、両親に話そうと思ったことは一度もありませんでした。とても恥ずかしくて、自分が何を見たり経験したりしているか話すことなどできなかったのです。どのように対処しているのか分かりませんでした。それからの数十年間、ポルノグラフィーに依存していることはずっと秘密でした。

福音の力

高校を卒業する少し前、小さな奇跡と考えることが起こりました。人生の方向を変える出来事でした。日ごろの行動が福音の標準から懸け離れていたにもかかわらず、ある日曜日じゅうぶんの朝、教会に行って自分の一を納めるようにという強い促しに従ったのです。教会に着くと、知っている人の名前を挙げて、その人たちがいないか尋ねました。そのうちの一人は、執事だったわたしが最後に教会に行ったときに、若い男性の会長を務めていた兄弟でした。そのときその人はワードのビショップになっていました。

このすばらしいビショップはわたしに教会に戻るのを助けてくれました。罪を告白したわたしが成長できるように一緒に計画を立ててくれました。わたしは数か月かけて悔い改めをしました。

神権の昇進を果たし、召しを受けました。大変順調で、伝道にも召されました。それから数年間、依存症を抑えることができました。

インターネットの網にかかって

伝道を終えて家に帰ってからも、ポルノグラフィーで悩むことはありませんでした。でもそれはただ単にポルノグラフィーとの接触がなかっただけのことだったのです。それが変わったのはインターネットが普及しつつあった1990年代の終わりでした。偶然インターネットでポルノ画像を見てしまったのです。それから数か月間、頻繁にポルノグラフィーのサイトにアクセスしました。ウェブというクモの巣にかかったのです。

だれかに助けを求めたいと思いましたが、だれに、どのように頼ればよいのか分かりませんでした。両親にはとても話せません。ビショップにも、あれほどの成長を果たしたのにこの不道徳な行為をやめることができないなどと、どうやって言えるでしょうか。何としてもやめたいと思いました。でもわたしは弱く、恥ずかしくてだれにも打ち明けられません。それで依存症のことは隠していました。

2000年に結婚した妻にも言いませんでした。彼女にはデートしているとばかりこの苦闘について話したのですが、軽蔑けいべつされることが怖く、それ以上に結婚を断られるのが恐ろしくてうそをついていました。結婚後もうそをつき続けました。見つからないようこそそしていました。写真は自分のパソコンに隠しました。妻から具体的なインターネットのサイトについて聞かれても、知らないと言いました。それが依存症です。人を大それたうそつきにするのです。依存症によって結婚生活にひびが入り、妻を

ひどく苦しめているのは分かっています。しかし、自分に問題があることを認めようともしませんでした。いちばん気にしていたのは自分の行為ではなく、人からどのように思われるかだったのです。

二重生活と、そしてその結果御霊みたまを失ったことで、わたしはさらに重大な罪を犯しやすくなりました。不貞も犯しました。何かおかしいと強く感じた妻は、それをわたしに話しました。良心かしやくの呵責から、わたしは自分がしてきたことを打ち明けました。

そこがわたしのどん底でした。そこまで来て、わたしは自分が変わらなければならないことを悟りました。目の前に座っているのは愛する女性です。わたしを愛してくれる女性です。わたしはその人を裏切ったのです。そのとき、二人の結婚と家族を救うために必要なことは何でもしようと思えました。

立ち直り

悔い改めて教会宗紀を受けるために、ビショップとの定期的な面接が始まりました。ビショップはLDSファミリーサービスが提供する依存症回復プログラムの集会に出席するよう勧めました。初めて耳にするプログラムでしたが、それは「アルコールクス・アノニマスの12のステップ」を基に教会の教義と原則に合わせて作られたもので、無料で秘密厳守の集会であると知りました。(訳注——アルコールクス・アノニマスは飲酒問題を解決したいと願う相互援助の集まりであり、直訳すると「無名のアルコール依存者たち」となる。)

通い始めて2、3回目までは「ここに来る必要はない。自分にはポルノグラフィーの問題などない。いつだってやめられる」と思っていました。でも、

解放——神にあってのみ実現する



「皆さんは何らかの罪や弱点に苦しんでいませんか。意志が弱くて朝早く起きられないために聖文を研究し祈る時間を持てない、というような単純なものかもしれません。インターネットのポルノグラフィーや道徳的に自分をコントロールできないというような、手ごわいものかもしれません。自らの力で解決できない欠点を前にするとき、人は底なしの地獄に引きずり落とされて希望などないように感じてしまいます。自分のしていることに嫌悪感を抱きながらも、やめるだけの強い意志がないと思っ

十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード長老
"Be Strong in the Lord,"
Ensign, 2004年7月号, 12

もちろんそうではありませんでした。

ビショップの励ましを受けながら、わたしは会に出席し続けました。高慢な心が解け始め、正直、希望、神への信頼、真実、告白、心の変化、謙遜、赦しを求める、償いと和解、日々の自己評価、個人の啓示、奉仕という、プログラムの12のステップを実行するようになりました。何年かぶりで経験するポルノグラフィーのない「清い」生活でした。立ち直りがすっかり「終了」したわけではありませんが、自由という新たな段階に導かれました。12のステップが進むにつれ、わたしは自分の依存症の背後に潜

でいたものを理解していったのです。分かったことは、依存症と闘うほとんどの人は、生活する中で感じるむなしさを埋めるために何らかの「自己療法」に頼るということでした。苦しみ、悲しみ、孤独感、恐れなどの不安感が引き金となって、人は気分を良くするために自己療法という誘惑に駆られるのです。処方薬を使う人もいれば、違法薬物を使う人もいます。ある人はアルコールを使います。わたしにとって、その場しのぎの偽りの解決策がポルノグラフィーでした。わたしにはそれが必要だと思っていました。

依存症を引き起こす原因は分かったものの、依存症を助長する環境を避けることはまた別の話です。避けるためには、これからの生涯を毎日、毎時間、気を抜かずに生活しなければならないのです。「ちょっとネットをのぞいて見てみる」ことはできません。実際独りのときは、まったくインターネットを見ません。広告をながめて楽しい気分になることもできません。家にケーブルテレビはありません。通勤のときは、不適切な考えを起こさせる広告があると分かっている道は避けています。うっかり失敗して気持ちがそれ始めたときは妻やビショップに助けを求め、祈って力を求めています。

依存症の影響は生活の最も細かなところにまで及びます。ですから、こうして用心することが大切なのです。依存症がわたし自身と愛する人々を苦しめることが分かっているため、これらの予防措置を怠ることはできません。

神に頼る

しかし、これは悪いものを避けるというだけの問題ではありません。同時に常に意識して、善いことをしなければなりません。12あるステップの幾つかのおかげでわたしは神に近づくことができ、善いことができるよう

になりました。

わたしは毎朝目覚めるとひざまずき、御子イエス・キリストの贖いを通して罪を悔い改め、御父のもとに行く機会を与えてくださったことを天の御父に感謝します。主の御心を行えるように御心を知らせてほしいこと、誘惑から遠ざけてほしいことを御父に願っています。御父に頼らなければ1分たりとも過ごせないかのように祈ります。実際、わたしは毎分毎分御父に頼っているのです。そして一日中その祈りを心に留めて過ごしています。また毎日、夜に再び祈ります。聖文も毎日読み、気持ちを徳高いことに集中できるようにしています。これらのことを習慣にしなければ、御霊を失って独りとなり、誘惑に耐える力をなくしてしまうのです。

長い間わたしは、その気になればいつでも自らの意志で自分の行動を正すことができると信じていました。しかし、情けないことに失敗しました。その後しばらくは自分の力でやろうとする気が起きませんでした。特に、「自分の力」ではうまくいかないときはそうでした。そこで主の助けなしには必要なことを行うことができないと思い知ったのです。エテル書第12章27節はこのことについて理解を深める助けとなりました。主はモロナイに言われました。「わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりくだり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」

あるとき、自分でできることをすべて行った後に(2ニーファイ25:23参照)主のもとに行ったときのことです。主の助けがあれば、自分の力に頼っているときには夢にも思っていなかったほどずっとうまくでき、また、より成長できることが分かりました

(アルマ7:14 参照)。

現在、妻とわたしは依存症立ち直りプログラムの集会で世話人として奉仕しています。贖いは、依存症を克服しようとしている本人だけでなく、自らの選択でないにもかかわらず依存症の影響を受けている人のためにもあります。妻はそのことを学び取り、ほかの人もそのことが分かるように手助けしています。主の恵みは救い主を頼るすべての人に及ぶのです。

依存症と闘っている人たち、そして彼らの愛する人たちに断言します。希望はあります。どんなときにもイエス・キリストの福音には希望があります。

救い主に希望を見いだす

わたしはイエス・キリストに深く感謝しています。主は文字どおり、わたしを罪の鎖から救ってくださいました。依存症は、「人の子らを縛って、不幸と災いの永遠の淵ぶちに連れ去る鎖」に捕らえられるようなものです(2 ニューファイ1:13)。自分に問題があると自覚しても、わたしは何に頼ってよいのか分かりませんでした。苦しい状況から逃れることができずに絶望していました。しかし、主はわたしを解放することがおできになりました。主に頼ったとき、主はそばにいて助けてくださいました。

「まことに、わたしは自分が何の価値もない者であることを知っている。わたしは力の弱い者である。だから、わたしは自分のことを誇るつもりはない。しかし、わたしは神のことを誇ろう。わたしは神の力によって何事でもすることができるからである。」(アルマ26:12) こう言ったアンモンアンモンの気持ちがわたしにはよく分かります。何事でもわたしたちがしようとするとき、神はわたしたちを助けることがおできになると知っています。依存症の鎖を克服することもその一つです。■



ポルノグラフィーを克服するための支援

LDファミリーサービスを通して提供される「癒しと回復」プログラムには、無料で行われる秘密厳守の支援集会有り、以下の依存症と取り組んでいる人を対象としています。アルコール、薬物(処方薬、違法薬)、たばこ、コーヒーまたは茶、ポルノグラフィー、不適切な性的行為、かけ事、共依存関係、摂食障害。最寄りの集会を探すには、www.ldsfamilyservices.org にアクセスしてください。神権指導者が集会の情報を持っているかもしれません。

集会に参加できない場合は、配送センターから各言語によるテキスト『依存症立ち直りプログラム——依存症からの立ち直りと癒しのためのガイド』(カタログ番号: 36764 300) を入手できます。また、www.recoveryworkbook.lds.org にはPDFファイルが用意されています。

CombatingPornography.org は、依存症に苦しむ人と、その伴侶、親、神権指導者を支援するための教会後援サイトです。『徳であなたの思いを飾るようにしなさい』(カタログ番号: 00460 300) は、ポルノグラフィーで苦しむ人を支援するために作られた小冊子です。危険なメディアを見分ける方法、ポルノグラフィーの誘惑に耐え、誘惑を避ける方法、ポルノグラフィー依存症から脱却する方法が書かれています。また、悔い改め、肉体の神聖さ、この世的な影響を克服することについて書かれた聖句と教会の資料のリストもあります。様々な言語に翻訳されており、配送センターから入手できます。アメリカ手話のDVDも用意されています。

このテーマに関するその他の説教や記事は www.liahona.lds.org で読むことができます(訳注——日本語版はまだありません)。

幸福に通じる真の道

家庭や職場で
幸福に通じる
真の道を
追い求めるときに、
わたしたちが
自らの知識と
影響力を用いて、
全世界の人々に、
より大きな義、
平和、理解、
自由をもたらすことが
できるように
祈ります。

「幸福な人生」を送る秘訣^{ひけつ}については何世紀にもわたって論じられてきました。使徒パウロは、アテネにあるマルスの丘を訪れた際に、「エピクロス派やストア派の哲学者」と議論を戦わせました（使徒 17:18）。ストア派の人々が最高の善と信じていたのは徳であり、一方、エピクロス派の人々が最高の善と信じていたのは快樂でした。ストア派の人々の多くは高慢になり、哲学を「野心と不道徳……の隠れみの」として使っていました。エピクロス派の人々の多くは快樂主義で、「わたしたちは飲み食いしようではないか。あすもわからぬいのちなのだ」という言葉を標語として掲げていました。¹

学問の世界では、長い間、アリストテレスの唱えた「知的熟考」を「幸福な人生」の青写真と考える人が大勢いました。しかし、『ニューヨークタイムズ・ブックレビュー』（*New York Times Book Review*）に寄稿したある評論家の主張によれば、現代の哲学者は「『人の幸福な人生』を構成するもろもろの要素には唯一の正しい天秤^{てんびん}など存在しない」と結論づけているとのことです。²

『ニューヨークタイムズ』（*New York Times*）に次のように主張する記事が掲載されていま

した。「幸福な結婚は、何にも増して、個人の幸せを決定する大切な要素である。」これを書いた人は、「学生を職業に備えさせる」時間は減らし、「社会的な決定を下せるよう備えさせる」時間を増やすよう、大学に要望しています。³

このような意見を読みながら、わたしはジョセフ・スミスの次の教えについて思い巡らしました。「幸福こそ、わたしたちの存在する目的であり、わたしたちが意図するものである。わたしたちがそこに通じる道に従っていけば、最後に到達できるものである。その道とは、徳、公正、忠実さ、聖さ、そして神のすべての戒めを守ることである。」⁴

『ニューヨークタイムズ』に載っていた結婚についての言葉と預言者ジョセフ・スミスの樂觀的な宣言、この二つに共通の精神を基として、わたしは確信しています。わたしたちが望み、神が授けようと望んでおられる幸福をわたしたちは手に入れることができます。では、この幸福を手に入れるために、何をしなければならぬのでしょうか。

受け継ぎに感謝する

まず、受けている祝福、特に受け継ぎについても感謝することです。善い両親に恵まれて

十二使徒定員会
クエンティン・L・
クック長老



いるならば、そのことに感謝すべきです。感謝することこそ、わたしたち一人一人が、それぞれの受け継ぎに対してなすべきことなのです。

次のような中国の古いことわざがあります。「水を飲むときには、井戸を掘ってくれた人たちのことを忘れない。」親を敬わなければならないことは聖文からも明らかです。箴言にこうあります。「わが子よ、あなたの父の戒めを守り、あなたの母の教おしえを捨てるな。」(箴言6:20) 偉大なドイツの哲学者ゲーテは次のように表現しています。

先祖から受け継ぎ、ただ借り受けているだけのものを、
改めて自分の力で手に入れなさい、真の所有者となるために。⁵

わたしたちは親に感謝し、親がわたしたちに与えたいと願っているものを得ようと積極的に行動する必要があることは明らかです。これは個人の幸福への一歩です。

家族に自分自身をささげる

第2に、家族という永遠の組織に自分自身



愛にあふれ義にかなった
家族の中で経験する
喜び、愛、満足感は、
わたしたちが
手にすることのできる
最大の幸せを
必ず生み出してくれます。



をささげることです。家族は幸福を得るための土台です。結婚しないことを選んだり、結婚を遅らせたりする人が世界中で大勢います。しかし、家族は創世の前から神が定められた永遠の組織です。ほとんどの人は結婚し、子供に恵まれることでしょう。この世で子供を持つことほど大きな祝福はありません。すべての聖文の中で最も胸を打つ言葉の中には、天の御父の計画において子供がいかに尊く重要かを表しているものがあります。子供はまさしく「神から賜わった嗣業しぎょう」なのです（詩篇 127：3）。

わたしが 20 代のとき、デビッド・O・マッケイ大管長（1873 - 1970 年）が結婚と子供について預言的なメッセージを述べました。当時 95 歳で、人生の最晩年にあったマッケイ大管長は、男女の間の純粋な愛は「地球上で最も気高いものの一つであり、子供を産んで育てることは人類の最大の義務である」と教えています。⁶

マッケイ大管長は同時に、離婚を容認する傾向が強まっていることに危惧きぐんを示しました。

1969 年、カリフォルニアは、「無責離婚」と呼ばれる制度を認める合衆国最初の州となりました。それ以前は不貞あるいはその他の極端な状況など、婚姻関係の解消を決定づける理由がなければなりませんでした。明らかにマッケイ大管長は、結婚という制度が危機に直面していることを懸念していたのです。大管長はこう述べています。「今日の合衆国における離婚率の上昇は、この国家の偉大さを脅威にさらすものです。」⁷

マッケイ大管長の教えたことを振り返ってみると、実に預言的です。『U.S. ニュース・アンド・ワールドレポート』（*U.S. News and World Report*）の現編集長は、それ以来起こった出来事とその結果を年代順に記録してきました。「1960 年代に比べると、離婚率は倍以上になっており」、未婚女性の出産は「1960 年代に 5 パーセントだったのが、現在は約 35 パーセントに上昇している」と報告しています。彼はその結果と子供への悪影響について説明し、次のことを明らかにしています。「実の親が二人そろった堅固な家庭は……性格を形

成し、子供を育て、価値観を植え付け、子供の将来を計画するための理想的な器であることが分かる。』⁸

『ニューヨークタイムズ』の記事は次のように結論づけています。「現代社会は……物質的なことには魅力を感じ、道徳的、社会的なことには根源的な恐れを抱いている。」その結果、現代人は、「霊的なものが見えなくなって」⁹いるというのです。これはまさしくマッケイ大管長の預言したことではないでしょうか。

確かに、忠実な教会員同士の結婚は、その大半が幸せにうまくやっています。まだ結婚していない人については、信仰と確信を持ち、結婚と家族

という究極の目標に向かって行動を起こすべきです。わたしは皆さんに勧めます。心からすばらしいと思える、最良の友となるような義にかなった伴侶^{はんりよ}を見つけてください。愛にあふれ義にかなった家族の中で経験する喜び、愛、満足感、わたしたちが手にすることのできる最大の幸せを必ず生み出してくれます。そのような幸福こそ、実りある社会の基盤となるものです。義にかなっていないながらもこの目標を達成できない人がいます。しかし、そのような人も、天の御父が御自分の子供たちのために準備しておられるあらゆる祝福を受ける資格があります。

積極的にかかわる

第3に、世の中のことに積極的にかかわり、善を促す大きな力となることです。ここで一つの重要な課題は、世にあっても世のものとならない(ヨハネ17章参照)という聖文の指示を忠実に守ることです。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長(1876-1972年)は、十二使徒定員会会員であったときに、わたしたちは世にあっても、「邪悪な習慣、……ファッション、……愚行、偽りの教義と理論……」にかかわる必要がまったくない、という意味において、世のものではありません¹⁰と教えています。さらに、住んでいる地域に貢献することは、模範となり、



福音を伝え、親や預言者から教わった真理に従って生活するという、与えられた課題の一部です。

この課題を達成するには、世の中に積極的にかかわる必要があります。わたしたちは試練を受け、試され、より偉大な王国にふさわしいと認められなければなりません。トーマス・S・モンソン大管長は「自分の決断が自分の行く末を決める」と教えています。¹¹

人生は生易しいものではありません。易しいようには最初からできていないのです。それでもなお、わたしたちは次のことを知っています。主は、わたしたちの受ける試練を祝福に変え、益としてくださいます。反対の力があっても、断固たる決意で立ち向かう力を与えてくださるのです。義はそれそのものが報いです。また聖文には、義を行う人は、「この世において平和を、また来るべき世において永遠の命を」報いとして受けると約束されています（教義と聖約 59：23）。わたしは皆さんがこの世に積極的にかかわるよう勧めます。

自らの標準に従って生活し、その標準を伝える

第4に、自らの標準に従って生活し、接する人たちにその標準を伝えてください。就職活動を行うときに、皆さんの多くが試練に遭うことでしょう。賢くなる必要があります。家族に自分自身をささげることを含め、自分には高い倫理的、道徳的な標準があることを将来の雇用者に知らせるようお勧めします。

そうすることが大切だということを、わたしは仕事を始めたばかりのころに学びました。スタンフォード法科大学

院を卒業後、ある法律事務所に的を絞って就職活動をしました。教会員とはまったく関係のない会社でしたが、そこで働く弁護士は人柄がよく優秀な人ばかりでした。面接の終わった朝、社長とほかの二人の共同経営者がわたしを昼食に連れて行きました。食前酒はどうか、しばらくするとワインをどうかと社長から尋ねられました。わたしはどちらも辞退し、2度目には、自分は活発な末日聖徒でアルコール飲料は飲まないと言いました。

その会社から採用の通知をもらいましたが、数か月たって、社長から言われました。アルコール飲料を飲まないかと言ったのも採用試験の一部だったのです。履歴書を見てわたしが末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師として奉仕したことに気づいた彼は、わたしが教会の教えに忠実な場合にのみ採用しようと決めていたのです。忠実な態度に表れる高潔な性格を大切な要素だと考えたのでした。

アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコで過ごした期間、知り合いの中に、自分が末日聖徒だということを同僚に知らせない人たちがいました。そのような人たちは、いつも決まって、自分が信じていることを率直に宣言していれば避けられたはずの不名誉な状況に巻き込まれました。

光となるように

最後に、住んでいる地域で人々の光となってください。妻とサンフランシスコ湾岸地区で結婚生活を始めたばかりの1960年代中ごろは、末日聖徒の人口はそれほど多くありませんでした。加えて、湾岸地区は薬物乱用とあらゆる種類の性的に乱れた罪深

い行為の温床となっていました。そのような状況を憂慮した当時のステーク会長は、サンフランシスコ湾岸地区に残るよう会員に勧めてよいものかどうか、と教会指導者に尋ねました。

当時十二使徒定員会の前任会員だったハロルド・B・リー会長（1899 - 1973年）は、この問題に対処するよう割り当てを受けました。彼は神権指導者と集会を持ち、会員たちが出て行くだけであれば、主は、この地区に神殿を建設するようという靈感をお与えにはならなかった、と言いました。そして次のような勧告を与えたのです。

1. 心と家庭にシオンを築く。
2. 周囲の人々の光となる。
3. 神殿で教えられる儀式と原則に心を向ける。

今日、^{こんにち}リー大管長の助言に従うならば、世にあっても世のものとならずに済みます。しかし、世に目を向けるか、それとも神殿に心を向けるかは、わたしたち一人一人が決めなければなりません。

一生のうちにわたしたちは数多くのこの世的な試練に直面します。そのような試練の一つは、教会および教会の教義が理解されない、また、時として誤って伝えられるということです。数年前に、十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は、信仰を擁護し間違った情報を正すため、声を大にして訴えるよう教会員に呼びかけました。バラード長老は、「インターネットが可能にした、いわゆる新しいメディア」にわたしたちが参加するのは特に大切であると指摘しています。¹² 世界には様々なコミュニケーション手

段があり、会員は世界中の至る所に散らばって住んでいます。このような状況で、教会について無責任に、また、不正確に伝えられたときに、末日聖徒は何らかの回答を出したり、教会を擁護したりする必要があります。バラード長老の記事が掲載されてから起きたことに感謝しています。バラード長老と同じことを、わたしも皆さんにチャレンジします。

わたしは確信しています。わたしたちが望み、神が授けようと望んでおられる幸福をわたしたちは手に入れることができます。家庭や職場で幸福に通じる真の道を追い求めるときに、自らの知識と影響力を用いて、全世界の人々に、より大きな義、平和、理解、自由をもたらすことができるようにと祈ります。■

2010年4月10日にプリガム・ヤング大学ハワイ校で行われた説教の抜粋。英語で全文を読むには<http://devotional.byuh.edu/node/416>にアクセスしてください。

注

1. フレデリック・W・ファーラー, *The Life and Work of St. Paul* (1902年), 第1巻, 535 - 536
2. ジム・ホルト, "A Word about the Wise," *New York Times Book Review*, 2010年3月14日付, 12
3. デビッド・ブルックス, "The Sandra Bullock Trade," *New York Times*, 2010年3月20日付, A23
4. ジョセフ・スミス, *History of the Church*, 第5巻, 134 - 135
5. ヨハン・ウォルフガング・フォン・ゲーテ, *Faust*, ベイヤード・テイラー訳 (1912年), 第1巻, 28
6. デビッド・O・マッケイ, *Conference Report*, 1969年4月, 9
7. デビッド・O・マッケイ, 1969年4月, 8
8. モーティマー・B・ザッカーマン, "Family-Unfriendly Policies," *U.S. News and World Report*, 2007年10月5日付, 72
9. デビッド・ブルックス, "The Sandra Bullock Trade," A23
10. ジョセフ・フィールディング・スミス, *Conference Report*, 1916年10月, 70
11. トーマス・S・モンソン「昇栄への招き」『聖徒の道』1993年9月号, 4
12. M・ラッセル・バラード「インターネットを用いて福音を分かち合う」『リアホナ』2008年6月号, チャーチ・ニュース, 1



世の中のことに
積極的にかかわり、
善を促す大きな力と
なりましょう。

無事帰港する

教会機関誌

リチャード・M・ロムニー



インドのビシャーカパトナムの漁師は毎日船で海に出ます。たいていの日は波が穏やかで、海は、ないでおり、船は魚を積んで帰港します。しかし、時には波風が立つことがあります。空が暗くなり、波が恐ろしく高くなると、無事に港に戻っただけで漁師たちの喜びはひとしおです。

ビシャーカパトナムの末日聖徒の青少年は、毎日世の中に出て行きます。ほとんどの日は祝福に満たされています。青少年たちは知識を身に付け、友人を作り、人生の喜びに満たされて帰宅します。しかし、時には波風が立つことがあります。失意の波が押し寄せ、誘惑が高波のように迫り、霊の空に疑いの暗雲が垂れ込めます。そのような日に家庭という港、平和な避難所に無事戻ったときの喜びはひとしおです。

人生の海は時に荒れ狂うことがあるかもしれませんが、インドのビシャーカパトナムに住む10代の末日聖徒たちは、家庭という港が平和な避難所であることを知っています。

壁に掛けられた絵

ナガ・ブッシュン・ラトナムとパパニ・コタラ・ラトナムの二人も、このような10代の末日聖徒です。町からは遠いものの父親の働く鉄鋼所には近い小さなアパートに、両親と一緒に住んでいます。アパートに飾ってある絵や写真を見れば、この家族が何を大切にしているかが分かります。玄関近くの本棚は家族の写真でいっぱいですし、寝室の壁には、救い主の絵、神殿や大管長会の写真が飾られています。

「目が覚めると、ここにある絵や写真が最初に目に入ります。そして、寝るとき最後に見るのもこの絵と写真です」とパパニは言います。

パパニはだれでも家庭を避難所にできると信じています。「いつもきれいにしているのはそのためです。^{みたま}御霊がとどまるようにするための一つの方法なのです」と彼女は言います。そして学校では、「本を入れるバッグにいつも『若人の強さのために』を入れてあります。こうすれば、本を取り出す度にその冊子が目に入りますから。」

ナガは妹と話すとき心が安らぎます。「もちろんぼくたちは親と話し、多くの事柄について両親に助言を求めます。父は地方部会長ですから、ぼくたちは公私を問わずよく父と話します。それに、母と話すのも大好きです。でも、妹に話せることはまた特別なのです」とナガは言います。ナガが腹





教会と家族が安全な港になっていると言う
ラトナム家族（前ページ）と
（左上から時計回りに）バサ家のスジス、サンディーブ、
ヘブシバ。ラトナム家のパパニとナガ。パディー家族。
3つの支部のあるビシャーカバトナムの
そのほかの青少年たち。

たが、それでも父親は家族を集会に連れて行ったそうです。また、父親がバプテスマを受けた日に、具合の悪かったパパニのために信仰をもって祈ってくれたこと、学校の試験期間に体調を大きく崩したナガに父親が神権の祝福を与えてくれたことも話してくれます。それに、大きな決断を下すとき、父親はいつも母親や子供たちと話し合い、祈りによって天の御父に相談しています。

パパニはこう言います。「わたしは、家族が福音の中で成長し、良い方向に変わっていくのを見てきました。両親の模範と兄の模範は、家族の中で最年少のわたしにとって指針となりました。生活のあらゆる面でイエス・キリストが助けてくださっていることが分かります。周りには、わたしを助け、愛してくれる人がいます。それに、救い主の愛があります。救い主の愛は、わたしにとって何よりも大切なものです。」

このような愛は、結び固めのために中国・
香港ホンコン神殿まで家族で旅行したときにはっきりと感じられました。ナガによれば、神殿は地上で最も安全な港なのです。「神殿は聖なる場所です。神殿のことを考えるだけで、家庭は

神聖な場所になります」とナガは言います。ラトナム家のアパートに喜びがあふれているのはそのおかげなのでしょう。

聖文がもたらす平安

両親と一緒にビサク（この都市の地元での呼称）の繁華街に住むバサ家のヘブシバとサンディーブ、スジスは、聖文が自分たちの平和な港の錨いかりになっていると言っています。「聖文を読むと御霊を受けます。御霊はわたしたちを正しい道に導き、人生で良い判断を下せるよう導いてくれます。また、家庭の夕べや家族の祈りのときも家庭に御霊を招くことができます」とヘブシバは言います。

実際、サンディーブによると、母親は子供たちに「毎日出かけるときと帰って来たときにはお祈りを忘れないように」と言っているそうです。「母に『感謝しなさい』と言われると、すべてのことに感謝したくなるんです」とサンディーブは言います。



を立てると、パパニがなだめます。ナガはどちらかという引込み思案なので、もっと外交的になれるようパパニは助けています。

「でも何よりも、標準を守ることについて助け合っています」とナガは言います。例えば、慎み深い服装について、パパニはナガにアドバイスを求めます。「兄が教会の標準に合っていないと思うような服をわたしは着ません」とパパニは言います。それに二人は教会や地域社会で奉仕することについてよく話します。このような話をするのは、ナガには心臓専門医になるという将来の夢があるからでもあります。「心臓専門医になるのは、奉仕のもう一つの形」なのだそうです。

ラトナム家の10代の子供たちの説明によると、家庭に神権があることも、家族の幸せに一役買っています。8年前、父親がどうやって家族を教会に連れて行ったか、子供たちは思い出話をしてくれます。家族4人が全員1台のバイクに乗って片道40キロ走らなければならないこともありまし

またスジスには、家庭のほかにも安らぎの場があるそうです。それは会員たちが一緒に福音を学び、だれでも礼拝できる支部の集会和、同じ標準を持つ青少年がお互いに強め合い、励まし合うことのできる活動です。「世の光になるようにと、主はわたしたちに語られています」とスジスは言います(マタイ5:14 参照)。会員が集まるとその光はさらに明るく輝き、同じ光を持つ者同士が集まるとさらに良い気持ちを感じるのです。

幸せな家庭

バティー家を福音に導いたのは、そのような分かち合いの精神でした。バティー家の姉妹、サンジャとスジャ、そしてその両親にはほほえみが絶えません。どのようにして教会に導かれたか話したくてたまらないのです。

サンジャはこう説明します。「わたしたちは家族で教会に入りました。長い間正しい教会を探し求めていたのです。バプテスマを受ける必要があることは明らかでした。そん

なある日、父が二人の長老を見かけたのです。名札に『イエス・キリスト教会』と書いてあったので、父は話しかけなければと思いました。』

本格的な福音のレッスンが始まりました。スジャによると、「イエス・キリストは御父の御心みこころを行うために苦しまれて贖罪しよくざいを成し遂げられたということを知りました。わたしたちがイエスに従えば天の御父のみもとに帰れるようにしてくださいだったので。」 その確かな証あかしがあったので、教会に入ることは慣れ親しんだ海を航海して自分の港に帰るようなものに思えました。それ以来、バティー家は教会に入ることに決めてよかったですと思っています。

漁船は毎日ビシャーカパトナムから出航します。ビシャーカパトナム第1支部と第2支部、それにガジュワカ支部の青少年たちは、毎日世の中に出て行きます。どの船も無事自分の港に帰って来ます。しかし、末日聖徒の場合、帰る港は現在だけでなく永遠にわたって安全な港なのです。■

友人という船で航海する

パバニ・コタラ・ラトナムは、福音の原則に従って生活することによって、友情について多くのことを学びました。「教会に入ったころは、学校でからかわれました。絶対にカンニングをしなかったからです。わたしは決してうそをつきませんでした。善いことを頼まれれば必ずやりましたし、だれに対しても丁寧な言葉遣いで話しました。教会には良い友達がたくさんいましたが、学校の友達はわたしの標準が好きではなかったようです。頭がおかしいと言われ、皆の前で笑われました。」

「どんな人と友達になればよいのかについて、両親と話し合いました」とババニは言葉を続けます。「両親と話すことにして、ほんとうによかったと思いました。わたしの行いは間違っていないと言ってくれましたし、自分のためになる友達を選び、だれにでも親切にしないとアドバイスしてくれたのです。」

「それから間もなく、わたしは目立つ生徒や成績の良い生徒など、だれとでも話すようになっていました。だれにでも話しかけました。良い模範を示そうと努めたのです。最初は自分を励ましてくれる友達が見つからず、苦勞しました。でも、先生が励ましてくれました。『あなたは変わったわ。なぜなの?』と、ある時期よく聞かれました。」

「どうしてそんなことをするの」とか、「あの人はあなたのカースト(社会的な階層)ではないのに、なぜ話しかけるの」と聞いてくる生徒もいました。

でも結局、そんな周囲の反感は影を潜めていきました。「自分が良い意味で変わっているということが分かっていましたし、自分の生き方を貫き、正しいことをするべきだと思ったのです。そして、そうすることに決心しました。」

現在ババニはほかの生徒たちから、気さくな若い女性、学校に良い影響を与えている人として知られています。



モンソン管長がお呼びです

約15年前、わたしはパーキンソン病と診断されました。それから4年後、病状は次第に悪化し、車いすの生活を余儀なくされました。それまで非常に活動的な生活を送っていたわたしは、自分の置かれた状況に大きないらだちを感じていました。

そのころ、スコットランドのダンディーで、当時大管長会顧問を務めていたトーマス・S・モンソン管長を迎えて大会が開かれ、わたしも出席しました。集会の後、一人の会員がわたしのところにやって来ました。

「シャーキー兄弟ですか。」

「そうですか。」

「前に来て、モンソン管長に会ってください。」

そうするつもりは全然なかったのですが、数分するとその人がまたやって来ました。

「シャーキー兄弟」と彼は言いました。「モンソン管長がお待ちです。」

「でも、管長はわたしを御存じありませんよ」とわたしは答えました。

「それでも、お待ちになっています。あなたの病気のことを耳になさったのです。」

わたしは同意して、モンソン管長に会いに行きました。

管長はにこやかにあいさつしてから、神権の祝福を必要としているかどうか尋ねました。

わたしはお願いしたいと答えました。

空いている部屋を見つけると、だれに油を注いでほしいですかとモンソン管長が尋ねました。わたしは自分のビショップ

を呼んで来てもらえるか尋ねました。ビショップを探しにだれかが出て行くと、モンソン管長に随行している人の一人が、もうすぐ出発しないと予定どおりにエディンバラ空港に着けないと管長に念を押ししました。

モンソン管長はほほえみ、管長自身とわたしを指してこう答えました。「わたしたちぐらいの年になると、あなたも優先順位について分かるようになるでしょう。空港には間に合いますよ。」

ビショップが来て、モンソン管長と二人で癒しの祝福をしてくれました。モンソン管長の祝福は快復を約束するものではなく、わたしが自分の病気とそれに付随する症状によく対処できるようにという祝福でした。また、病気に対処する助けができるよう、家族も祝福する内容でした。

それから10年たった今、パーキンソン病はやはり抱えています。74歳という年齢を考えたら順調にやっています。まさに、自分の病気に対処する方法を見つけたのです。気分はいいですし、祝福を受けた日から車いすを使っていません。医者からは「優良患者」と呼ばれています。

見知らぬわたしに言葉をかけ、祝福してくれたモンソン管長の思いやりに対して感謝を忘れることはありません。そして、神権の使い方について教えられたことにも感謝しています。

わたしたちには教会で異なる鍵^{かぎ}と職がありますが、頂いている神権は同じです。モンソン管長の思いやりに満ちた行いを通して、大事なものは神権を持つ人ではなく、天の御父の子供たちの生活を祝福するために神権をどのように使うかなのだと教えられました。■

ジョージ・シャーキー（スコットランド）

モンソン管長はにこやかにあいさつしてから、神権の祝福をしてほしいかと尋ねました。

神権に祝福されて

わたしは双子のきょうだいのテレサが改宗して数年後の1996年に教会に入りました。わたしはシングルマザーでした。テレサがバプテスマを受けたとき、共通の友人がわたしにこう言いました。「なんであんな教会に入るのかしら。あの教会は女性を表に出さないのよ。」

わたしは複数の教会員と付き合いがあったので、友人の考えが正しくないことを知っていました。教会員の夫婦関係が大変強く、平等であることを見ていたからです。教会では神権を持つのは男性だけだと知っていましたが、神権はすべての人の益になるために使われるのだと感じていました。

その真理は、バプテスマを受けて11年後に乳癌がんと診断されたときに、より明らかになりました。癌の宣告を受けたとき、神権の祝福をお願いするべきだという聖霊のささやきを受け、その晩に祝福してもらいました。祝福の中で、癌がわたしの体から消えて健康体に戻り、御霊みたまが医師たちを導いてくださると約束されました。

その日を皮切りに、3年間の治療や手術を通して多くの祝福を受けました。あの祝福のおかげでわたしは、御心みこころならば肉体的な癒しいよを受けるだろうし、そうでなくても霊的な癒しが与えられ、試練に立ち向かう強さを与えられるだろうという信仰を持つことができました。

ある晩、手術が終わってから別な種類の癒しを体験しました。強い痛みで目が覚めたのを覚えています。



がんの宣告を受けたとき、
神権の祝福をお願いするべきだという
聖霊のささやきを受け、
その晩に祝福してもらいました。

途端にある思いが頭をよぎりました。「自分が良くなると知っているはずで。体が健康を取り戻すと約束されたではありませんか。今の状態を乗り切れると知っているはずで。」

また別なときに、将来のことが心配で夜中に目を覚ましたことがありました。「わたしは一体どうなるのかしら」と思い悩みました。そんなおびえた状態が2時間ほど続きましたが、3年にわたる闘病生活でそれほど強い不安を感じたのはそのときだけでした。

神権の祝福がもたらしてくれた平安が、耐えられないと思ったことを乗り越える支えと力になってくれたのです。

術後に感染症や高熱で苦しんだときも、神権の力は引き続きわたしを強めてくれました。そんなある晩、義兄が病院に来て、祝福してくれました。その日は一日中、体温が上がり続けていたのですが、祝福が終わるとどンドン下がっていきましました。わたしは感心しましたが、驚きはしませんでした。

医師たちが導かれるという約束が成就したのも見届けました。ある手術が終わって目を覚ますと、執刀医が会いに来ました。

「すべて順調にいきましたよ」と彼女は説明してくれました。「でも、何となくもっと深く探らなければいけない気がして見てみたら、ほかに悪い箇所が幾つか見つかったのです。それも切除することができました。見つけられたのは幸運でした。」

彼女は教会員ではありませんが、ずっと前に約束された祝福が成就したのです。御霊が彼女を導いてくださったのです。

ホームワードや家族のふさわしい神権者たちに感謝します。彼らはわたしに手を差し伸べ、神権を使ってわたしの生活を祝福してくれました。神権を大切に、人を祝福するためにそれを使う神権者を助け、支持する伴侶の皆さんにも感謝します。何よりも、天の御父がその子供たちであるわたしたちを余すことなく祝福するためにその力を地上に下さったことを感謝しています。■

バージニア・ギリス
(アメリカ合衆国、マサチューセッツ州)

お父さん、助けて

アメリカのカリフォルニア北部で営む家族の農園で、^{かんがい}灌漑用のパイプを動かす作業をしていた日のことです。特にその日は父が手伝いに来てくれたのでうれしかったことを覚えています。作業が終わると、わたしたちはそれぞれバギーに乗り込み、夕食のことを考えながら家に向かいました。父の車が先を走りました。

我が家の農場は片側がピット川に接していました。わたしたちは車の大きなタイヤでアルファルファを踏みつぶさないよう、畑の端を走っていました。畑が進行方向の右側にあり、川は左側の、急な土手の下を流れていました。霧がかかっている、視界はあまりよくありませんでした。

かなりのスピードで順調に走っていたのですが、急にわたしが道をそれ、右の後輪がヤマヨモギの茂みに突っ込んでしまいました。その衝撃で車を左の川側に鋭く向けざるを得なくなり、車は土手を落ちて行きました。止めようとしたのですが、土手の傾斜が急でスピードも出ていたため、止めることができませんでした。これは絶対川に落ちるぞ、と思いました。しかし幸運なことに、行く手にちょうど1本の木があったのです。気がついたときには、わたしは木の上からバギーを見下ろしていました！あれほど怖かったことはありません。

もう少しで死ぬところだったと思いますが、少し擦り傷や打ち傷があっただけで、けがらしいけがはありませんでした。落ちついて深呼吸してみると、自分独りで車を土手の上に引き上げるのはとうてい無理だと分かりました。父がわたしを探しに来て土手の上からひょいと顔を出すのではないかと期待し続けていたのですが、現

れませんでした。それでますます気がめいりました。

土手を這い上がっても、父の姿はどこにもありません。天の御父に心の中で祈りをささげ、父をわたしのもとに向かわせてくださるようお願いしました。それから歩き始めました。一方、もう少しで家に着こうとしていた父はわたしが呼びかける声を聞いたような気がしました。そこで、父は畑を出てから初めて後ろを振り返りました。そのときようやく、わたしが後ろにいないことに気づいたのです。父はわたしに何かあったに違いないと思い、探しに戻って、わたしを見つけてくれたのです。

父は後に、「お父さん、助けて！」というわたしの声が聞こえたと教えてくれました。そのとき父は3キロ以上先にいたのです。わたしはそのとき、愛にあふれた天の御父がわたしの祈りを聞き、わたしが助けを必要としていることを父に知らせてくださったのだと分かりました。

聖霊と、聖霊から受ける真理と導きのささやきに感謝します。また、聖霊が語りかけてくださるよう、そしてその声が聞こえるように、ふさわしく生活していた愛深い父に感謝します。■

マイケル・K・ヒューウェット
(アメリカ合衆国、ユタ州)

天の御父に心の中で祈りをささげ、
父をわたしのもとに
向かわせてくださるよう
お願いしました。



祝福してほしいですか

ある朝、ブリガム・ヤング大学のキャンパスの南側にある急な坂を歩いて上っていると、後ろでガシャンという大きな音が聞こえました。振り返ると、車道に若い男性がうつ伏せに倒れていて、少し離れた所に大破した自転車が見えました。わたしはショックで立ちすくみました。男性が弱々しく頭を持ち上げようとしているのを見たときにハッと我に返り、坂を上っていたほかの4人とその人のところへ駆け寄りました。

最初に着いた学生が彼の体を慎重に仰向けにすると、唇、鼻、あご、まゆに深い切り傷が見えました。別の学生が携帯電話で助けを呼びました。わたしの隣に立っていた若い母親が布切れを差し出し、最初の学生がそれで唇の止血をしました。もう一人の女性とわたしはそばに立ち、救急隊の到着を今か今かと待っていました。

負傷した男性はまばたきをして目を開くと、自分を見詰める人々の顔を当惑したように見回しました。

「ここはどこですか」と彼は言いました。「何があったんですか。」

唇に布を押し当てていた学生が答えました。「ここはキャンパスの南側です。あなたは自転車で事故に遭ったんですよ。」

男性はうめき声を上げて言いました。「痛い。助けてください。」

学生は救急隊がもうすぐ到着すると言い、男性の名前を尋ねました。



けがをした青年がうめき声を上げ、弱々しく自分のポケットを指さしました。そばにいた学生がポケットに手を差し込み、聖別された油が入った容器を取り出しました。

「デビッド。」彼はすすり泣きながら、小さい声で答えました。そして「ここはどこですか」ともう一度尋ねました。

教授らしい、スーツ姿の年配の男性が近づき、デビッドに祝福してほしいか尋ねました。デビッドはうれしそうにうなずきました。

教授はためらい、「あいにく、油の持ち合わせがないのだが」と言って、周りを見ました。近くにいた人たちは首を横に振りました。すると、けがをした青年がうめき声を上げ、弱々しく自分のポケットを指さしました。そばにいた学生がポケットに手を差し込み、大きなキーホルダーを取り出しました。キーホルダーには聖別された油が入った容器が付いていました。

「彼が持ってる!」と学生が叫びました。

教授と男子学生たちが青年の頭に手を置いて癒しの儀式を施すやいなや、青年の様子は落ち着きました。教授が青年に、このけがから快復し、安らぎを覚え、この経験を通して主に近づくことができると約束したとき、わたしの心も落ち着きました。

間もなく救急隊が到着し、青年を搬送して行きました。クラスに向かって歩きながら、わたしは、あの青年が助けの必要な人を神権によって祝福できるように聖別された油を持ち歩いていたことに気づきました。ただ、その日祝福を受けたのは彼自身だったのです。わたしは、いつでも人を祝福できるよう、ふさわしく生活している忠実な男性たちと、彼らを祝福してくださる主に対して深い愛を感じました。■

リア・マクラナハン（アメリカ合衆国、ユタ州）

教育の力

スージー・タギー・コエルホ・
カルダス・ネルセン

母は家族に捨てられ、飢えと貧困しか知らずに育ちました。正式な教育をあまり受けていませんでしたが、教育は大切であり、教養が生活を変えることは知っていました。わたしが学校で使うノートを作るために紙切れを縫い合わせながら、母ははっきりと教えてくれました。教育を受ければ、貧困から抜け出せる、と。

つましい幼少期

わたしが生まれたのはブラジル北部で、予定日より3か月以上の早産でした。30年前の当時、ゴキブリが這い回る公立病院では未熟児が生き延びることはほとんどありませんでした。医師はわたしが数時間以内に死ぬだろうと母に告げました。わたしは死にませんでした。主はわたしが命を取り留めるのを助けてくださいました。

5歳くらいのとき、母とわたしと4人のきょうだいを残して、父が家を出て行きました。母は幼いころに両親に捨てられていたため、助けてくれる家族はありません。家を借りるお金がなかったので、わたしたちはわず

母はわたしに、
学校で一生懸命
勉強するように言いました。
貧困を克服できる
唯一の方法だからです。

かな土地を借りました。廃材や紙、プラスチックで小屋を作り、屋根は枯れ葉で作りました。よく2、3人で寝たハンモックと、ダンボールを数枚重ねてこしらえたベッド以外、家具はありませんでした。水道も、電気も、何もありませんでした。

母は家政婦として働き、人の洗濯を請け負いました。わたしは一緒に川へ行行って、できるかぎり手伝いました。その後、数時間かけて歩いて洗濯物を配達しました。母の傍らで働く時間はわたしにとって貴重でした。母ととても仲良くなれたからです。

懸命に働きましたが、お金はいつも足りませんでした。食べるものがほと

んどないこともありました。母はわたしたちに自分の食べ物をくれて、何日も食べないで過ごすことができました。わたしたちは空腹でおなかが痛くならないように、水を飲んで寝床に入るしかありませんでした。

1個の卵を6人で分ける方法を知っていますか。わたしは知っています。

幼いころ、仲の良い友達が数人いましたが、大きくなるにつれ、異なる道を進んでいきました。女の子はお金を稼ぐために売春し、男の子は物を盗みました。仲間になるよう誘われたとき、心のどこかでそれは正しくないという声が聞こえました。教会員になる前のそのときから主が見守ってくださっていたことを知っていますし、その後の人生の中でも何度も、主の手があるのを感じてきました。

決して勉強をあきらめない

わたしもきょうだいたちも公立学校の入学待機名簿に長い間登録していました。やっと入学できることになったとき、母はわたしに学校について良いことを教えてくれました。もしまじめに勉強すれば、いつか立派な人に



なれるのです。母の言葉をいつまでも忘れません。「良い暮らしをさせてあげられなくてごめんね。働くことの大事さを小さいころ思い知らされる羽目になってすまなかったね。でも、これから教育を受けるチャンスがもらえるのよ。何が何でも、学校をやめてはだめ。この暮らしから抜け出すには教育を受けるしかないのだから。」

学校に入るとすぐ、勉強道具をそろえるのに工夫しなければなりませんでした。わたしはよくごみ捨て場で白い紙切れを見つけて持ち帰りました。母はそれを縫い合わせてノートを作りました。1本の鉛筆を買って3つに折って分け、2人の姉妹とわたしがそれぞれ学校に持って行って使えるようにしました。ほかの2人のきょうだいはまだ小さかったので一緒に学校に行けませんでした。

母は手作りのノートと

3つに分けた鉛筆を用意して、
わたしを学校に
行かせてくれました。

新しい信仰

母は生まれてからずっと苦勞してきたので、神がおられることを信じていませんでした。わたしも子供のころはそうでした。しかし大きくなるにつれ、神について疑問に思い始めました。なぜわたしの家族はいつまでも楽な暮らしができないのか、なぜおもちゃや十分な食べ物、新しい洋服を手に入れられないのかと自問しました。このように自問するたび、なぜか一人ぼっちではないと感じました。この気持ちは何年にもわたってわたしを慰めてくれました。

13歳くらいのとき、我が家に末日聖徒の宣教師がやって来ました。彼らはわたしのすべての疑問に答え、イエス・キリストについて教えてくれました。同年代の人たちと福音を学べる特別なクラスを開いている教会があるときました。宣教師は祈り方を教えてくれました。モルモン書について教えてくれました。わたしがバプテスマを受けたとき、家族はだれも来ませんでした。

寂しく思いましたが、正しいことをしていると確信していました。新しい生活、すなわち希望、幸福、信仰、愛のある生活が始まりました。ほかの若者は薬物や不道徳に慰めを求めていました。わたしは愛ある天の御父と御子の福音に慰めを見いだしました。バプテスマを受けた後、生まれたときからずっと主が見守っていてくださったことを確信しました。

わたしは福音について多くを学びました。同じ信条を持つ人たちと出会いました。何人かの会員は我が家に来たときにわたしの暮らしについて少し知りました。彼らは教会に着て行



訓練を受ける

「皆さんの選んだ分野がどのようなものであろうと、主は皆さんが自らの知性と技術を磨くように望んでおられます。冷蔵庫を修理する分野であろうと、熟練した外科医の分野であろうと、自らを訓練しなければなりません。……皆さんはこの教会に名誉をもたらします。そして、積み重ねた訓練のゆえに、多くの祝福を受けることになるでしょう。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長
(1910年-2008年)
『若人への預言者の勧告と祈り』
『リアホナ』2001年4月号, 35

く洋服や靴、学校で使うノートを買うのを助けてくれました。わたしは教会員に頼まれて定期的に子守りをし、かつてないほど収入を得ました。まだ若かったので福音から離れるのは簡単だったと思います。しかし、教会員の援助のおかげでわたしは新しく見つけた信仰にしっかりと根ざしました。

福音によってわたしの生活はほんとうに変わりました。バプテスマを受けた後、学校で学ぶ力が増した気がしました。たくさん勉強して家庭教師

しました。ある同僚のおかげで、合衆国に留学することになりました。留学で実際に人生が永遠に変わることを確信しました。天の御父がわたしを見守っていて、具体的な計画をお持ちであることをわたしは知っていました。さらに高い教育を受けることはわたしの祈りの答えでした。

第2言語を学ぶことは大変だと分かっていましたが、十分に努力すればきっとできるとも思いました。わたしはブリガム・ヤング大学の英語学習センターに在籍し、毎日図書館で10時間過ごしました。ある講師が異言の賜物を祈り求めることを提案したので、わたしは毎晩この賜物を求めて天の御父に祈りました。御父は確かに助けてくださいました。

英語学習センターを卒業し、幾つかの大学に合格しました。わたしはブリガム・ヤング大学アイダホ校に入学し、看護課程の履修申請をしようと決意しました。看護課程に入るのは、とりわけ留学生にとって難しいと聞きました。わたしは全力を注いで勉強しました。図書館にいつも入り浸っていたので、友人たちから図書館に住んだら、とからかわれました。閉館後も家に帰って勉強を続けました。

つらいときはゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910-2008年)の言葉を思い出しました。「皆さんはできるかぎり高度の教育を受ける必要があります。車を犠牲にしてください。仕事を行う資格を得るために犠牲にするべきものはすべて犠牲にしてください。」¹これが神の預言者の言葉であると確信したので、わたしはまじめに受け止めました。

看護課程に合格したとき、感謝と喜



看護課程に合格したとき、大変だけれども、主がついていてくださると知っていました。

になりました。分からない科目があれば、それを教えられると思うまで徹底的に勉強しました。それで得た収入で家を助けました。

祝福師の祝福を受けると、伝道に出るよという勧告を受けました。主が伝道の中でわたしの人生を永遠に変える祝福を用意しておられるというのです。わたしは意味が分かりませんでしたでしたが、従順でいればいずれ分かると思いました。

新しい機会

わたしは2000年から2002年までブラジル・クリティーバ伝道部で奉仕

インスティテュート

どこで教育を受けていても、世界中に500以上ある宗教教育インスティテュートでほかのヤングアダルトとともに学ぶことができます。最寄りのインスティテュートについては、地元の神権指導者に尋ねるか、www.lds.org/institutesにアクセスしてください。

「仕事を行う資格を得るために
犠牲にするべきものはすべて
犠牲にしてください。」

これが神の預言者の言葉であると
知っていたので、
わたしはまじめに受け止めました。

びで胸がいっぱいになりました。大変ですし、犠牲を払い続けなければなりません、主がついていてくださると知っていました。

在学中に夫と出会い、2007年に結婚しました。同じ年に母も教会に入りました。大変な目に遭っているにもかかわらず、わたしが幸せだった理由が分からなかったと母は言いました。でも、教会に入ってから彼女は分かりました。イエス・キリストの福音は家族に祝福をもたらしました。これまで無数の犠牲を払ってきた母が祝福を受けている姿を見るのはうれしいことです。わたしはいつまでも母に感謝することでしょう。

2010年の初め、わたしは卒業を控えていて、最初の子供を妊娠していました。看護課程を卒業する2か月前、妊娠合併症のため帝王切開で赤ちゃんが産まれました。教授は、休学して後で卒業するようわたしに言いました。でも、あと2か月で卒業できるのです！

夫とともに時間を慎重に調整し、正しい優先順位を付けながら卒業できるようにしました。わたしは夫と息子に必要な世話ができるように勉強時間を設定しました。授業を受けている間、夫の両親が息子を見てくれるこ

ともありました。2人のクラスメートが教材を復習するのを手伝ってくれました。わたしがこの大変な時期を切り抜けられるよう、主がこの人たちを送ってくださったと感じました。

より良い生活

卒業後、わたしは州の資格試験に合格し、夫が勉学を続けている間、家計を助けるため、看護師として働き始めました。夫が就職したら仕事を続けるつもりはありませんが、将来何らかの問題や経済的な危機が起きて仕事に就く必要があれば、教育を受けているのでいつでも大丈夫だと感じています。

母の言葉は正しかったのです。教育はほんとうに人生を変えます。わたしの人生が変わったし、子供の人生も変わるでしょう。わたしが主の計画に従ったから成功したことを子供たちに知ってほしいと思います。主はわたしが教育を受けることを望まれ、実現まで一步一步助けてくださいました。子供たちにもわたしのように努力し、教育の大切さを知ってほしいと思います。■

注

1. ゴードン・B・ヒンクレイ「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 34

教育を永続させる

永代教育基金 (PEF) は教会員が自立するうえで必要な教育と訓練を受けるのを助けるため、2001年に設立されました。この制度を利用する資格のある教会員は、教育費を支払うためのローンを受けます。就職した後にローンを返済します。PEF ローンを受けるには、志願者は以下を含め、幾つかのことをしなければなりません。

- 末日聖徒イエス・キリスト教会のふさわしい、活発な会員である。19歳から26歳までの独身の男性志願者は帰還宣教師であるか、召しの免除の承認が必要である。
- 神権指導者の推薦を受ける。
- 宗教教育インスティテュートに登録している。既婚者または30歳以上は除く。
- PEFが承認されている国に在住、就労、在学している。PEFローンは40か国以上の会員に提供されている。
- できるかぎり自分の資金で学費を払い、卒業してより良い仕事に就き、ローンを完済することを約束する。

PEFを利用してローンを申請したい場合、地元の神権指導者に問い合わせてください。プログラムの詳細については pef.lds.org にアクセスしてください。

「受けている試練が、自分が成長するのに役立つためにあるのか、それとも誤った道に進んでいると教えてくださる天の御父の警告なのか、どうしたら分かるのでしょうか。」

試

練はその原因が何であろうと、それを霊的成長に生かすなら、あなたが成長するのに役立ちます。

誤った道に進んでいるなら、良心が教えてくれるでしょう。自分のしたことが悔やまれるなら、天の御父に祈り、赦しを請い求めてください。自分が引き起こ

した問題は何でも修復するよう努力してください。両親や神権指導者の助言を求めるべきかもしれません。これらの方法は気持ちを楽にし、正しい方向へ歩み始める助けとなるでしょう。

罪の結果ではない試練もあなたが成長するのに役立ちます。この種の試練は信仰や忍耐力を試し、自分自身についての理解を深めてくれます。これらの試練を成長のために生かすには、そこから何が学べるのか、もっとうまく対処できないか、自問してみてください。

天の御父の助けを求めるなら、試練のただなかであっても信仰が強められます。救い主が苦しみの中で行われたように「ますます切に」祈ることができます(ルカ 22:44 参照)。天の御父は試練を取り除いてくださるかもしれませんし、試練によく耐えられるようあなたを強めてくださるかもしれません(モーサヤ 24:14 - 15 参照)。

友人や家族が助けてくれます



わたしが誤った道に進んでいるときに天の御父が警告してくださる方法の一つは、友人や家族に靈感を与えて、証や個人的な経験をわたしに話すようにして下さることです。気持ちを分かち合ってもらったときに、後ろめたさを感じたり、変わりたいと思ったりすると、悔い改めて生活を変える必要があることが分かります。

ルイス・S, 17歳 (アメリカ合衆国, フロリダ州)

自らを振り返る

しようとしていることがほんとうに天の御父が行うようにと望んでおられることなのかどうか知るために、自らを振り返ってください。わたしたちが善悪をわきまえられるよう聖霊がいてくださいます。神を求め、尋ねるなら、聖霊はなすべきことを示してくださいます。試練は教える

ためであろうと警告するためであろうと、同じ目的を果たします。すなわち、主に信仰を持ち、主に頼りながら試練に向き合うなら、試練はあなたが成長し、キリストにあって完全な者になれるよう助けとなるものです。

エミリー・B, 18歳 (アメリカ合衆国, カリフォルニア州)

主が慰めてくださいます



天の御父はあらゆる試練によって人が強くなり、より善い人物になるよう意図しておられます。大事なのはどのように試練に向き合うかなのです。とても立ち

向かえるとは思えない試練もありますが、それも信仰を持てばやがて祝福となります。わたしはいつも主が語られた次の言葉を思い出すようにしています。「わたしはあなたがたを捨てて孤児とはしない。あなたがたのところに帰って来る。」(ヨハネ 14:18) このことを理解していると、直面するあらゆる試練に打ち勝つことができますし、強められます。誤った道に進んでいることを天の御父が警告しておられると感じるなら、鉄の棒をしっかりとつかむことができるよう、信仰を持ち御霊の促しに耳を傾けてください。天の御父はあなたを愛し、あなたができるかぎり最高の自分であることを常に望んでおられます。そのため天の御父は生涯を通じて助けてくださいます。

オリビア・B, 18歳 (アメリカ合衆国, ミネソタ州)

考えてみてください

試練の目的を理解する最も良い方法は、断食し、心から祈ることだと思います。また、それに

ついて考えてみてください。試練を克服したら、より善い人物になれますか。それとも今までと変わらないでしょうか。試練に打ち勝つことを考えると、成長し、より幸福な気持ちになります。そのとき、あなたは正しい道を歩んでいるのです。

アンモン・K, 16歳 (アメリカ合衆国, ユタ州)

正しい道にとどまりなさい



毎日聖文を読み祈るべきです。これらのことを行っていて聖霊に波長を合わせるなら、神は何を選ぶべきで何

を選ぶべきでないかを知らせてくださるでしょう。進んでいる道が天の御父の望まれる道ではないと思うなら、戻ってください。細くて狭い道に常にとどまってください。

エリザベス・P, 15歳
(アメリカ合衆国, ペンシルベニア州)

試練から学べるよう祈ってください



天の御父は生涯にわたって常に試練を与えられます。試練は神の福音にあって信仰を強めるためにあります。

良くない道を歩んでいるとするなら、それは良くない選択の結果なのです。神があなたを強めてくださり、試練によって何が良いものであるかを識別できるよう、常に祈ってください。天の御父がわたしたちの行く手に置かれる試練は、わたしたちを啓発し、証を増し、再び失敗しないよう助け、経験によって人を助けるためにあるのだという確固とした証をわたしは持っています。

ラディー・R, 17歳 (エクアドル, グアヤス州)

試練は警告してくれる

時にはそのように思えなくても、すべての試練はわたしたちを強めると思います。14歳のときのことです。病気になり、8か月の間学校を休んで家庭学習をしなければならなくなりました。この試練はわたしがより善い、強い人物になるのに役立ちました。持っているものに感謝する助けとなりました。時に試練は自分自身を見詰め直すための良い警鐘となるものです。

ジュニファー・P, 17歳
(ニュージーランド, ノースアイランド)

忍耐してください

もし苦難が戒めを破った結果だとしたら、それは恐らく警告です。自分ではどうすることもできない苦難だとしたら、それは成長するためにあるのかもしれませんが。わたしなら、何か変える必要がないか、その経験から学べることはないか、天の御父に祈り求めるでしょう。学ぶべきものがあるなら、それが何か教えてくださるよう、天の御父に求めてください。力と安らぎを得られるよう祈ってください。そして忍耐してください。答えはすぐに

見つかるかもしれません。

ミカエラ・P, 17歳
(アメリカ合衆国, アイダホ州)



救い主に似た者となる

「わたしたちを完全に申し分なく愛しておられる天の御父は、わたしたちが経験を得て、

ますますキリストのようになるために必要な性質や特質を伸ばすことができるようにしてくださっているのです。試練は様々な形でやって来ますが、その一つ一つの経験から良いものが得られることを知るにつれ、わたしたちはさらに救い主のようになることができます。この教義を理解するにつれて、御父の愛をさらに確信することができます。この世にいる間は、なぜそのような困難に直面しているのか分からないかもしれませんが、それらの経験によって成長できるという確信が得られます。」

七十人 ジェームズ・B・マルティノ長老
「万事を益となす」『リアホナ』2010年5月号, 101

次回の質問

「福音に従って生活するために
行すべきことが多すぎて、
圧倒されてしまいます。
まず何から始めたらよいので
しょうか。」

あなたの意見を聞かせてください。2011年7月15日
必着で下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先——
Liahona, Questions & Answers 7/11
50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メールアドレス—— liahona@ldschurch.org

掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

電子メールまたは手紙には、次の情報と同意文を必ず含めてください。(1)氏名、(2)生年月日、(3)ワードまたは支部、(4)ステークまたは地方部、(5)意見と写真の掲載に対する同意文(18歳未満の場合は保護者の署名も必要です〔電子メール可〕)。

あなたの 模範が

福音に添った生活は
あなただけでなく
周りの人も高めます。

わ たしはアロン神権を尊ぶ
若い男性に深い称賛と尊
敬の気持ちを覚えます。
アフリカのケニア・ナイロビステーク
に集う、そのような若い男性3人の話
を紹介しましょう。

マーティンは強くなりました

14歳のとき、ウェストランド支部の
マーティンはナイロビにある自宅から
遠く離れ、全寮制の学校に通っていま
した。そこでマーティンは唯一の教
会員でした。学校では、週の決まっ
た曜日にお茶とパンだけの朝食が出
ました。700人の生徒がいるため、
学校側にはたった一人のために特別
メニューを提供する方法はありません
でした。そこでマーティンはパンと水
をもらうことにしました。

マーティン



重要です

日曜日にはほかの同級生とともに教会に出席しなければなりません。そこでマーティンは宗教の教えを聞かなければなりません、中にはゆがんだ教えもありました。時々、同級生たちはマーティンの「おかしい」信念について小声で話しながら彼をチラッと盗み見ました。時には、彼を悪魔崇拝者と言う人さえいました。

これらのチャレンジはマーティンをぐらつかせるどころか、かえって強めることとなりました。毎月訪問してくれる両親や度々送られてくる支部会長のメッセージに大いに勇気づけられました。支部会長はいつも最新号の『ニューエラ』(New Era)も送ってくれました。教会機関誌を読むことは試練に立ち向かう勇氣を与えてくれました。

ジョセフは休みません

リルタワードのジョセフはアロン神権の教師の職にあります。友人の多くが薬物やほかの不道徳に手を染めているような大きな学校で唯一の教会員であるにもかかわらず、福音に忠実であり続けています。ジョセフは教会を一度も休んだことがありません。いつも早くから教会に来て、きちんとした身なりで、定員会会長やビショップから割り当てられた奉仕をする準備ができています。ほとんど毎週日曜日に聖餐の準備を手伝っています。

ハンフリーは郵便で割り当てを受けます

アッパーヒルワードのハンフリーも教師です。ちょうど2年前にバプテスマを受け教会に入りました。マーティンのように、ハンフリーも

全寮制の学校に通っています。教会に入ってから彼の信仰が非常に増した理由の一つは、セミナーのすべての割り当てを郵便で受け取り、課題を行い、すぐにセミナー教師へ返信しているからです。

全寮制学校が休みになると、教会へ行く車に乗せてもらうため、日曜日にはいつも片道45分かけて歩かなくてはなりません。それにもかかわらず、いつでも教会に早く来ていて、割り当てられた奉仕をする準備ができています。

話の割り当てを受けたときはいつも、熱心に準備します。話を聞いた人は皆、ハンフリーがその準備に相当な努力を注いだことが分かります。

標準に添った生活をする

今日^{こんにち}ほぼ世界中で、道徳の標準はむしろまわれつつあります。何か優れた高潔なものとのつながりを求める若人は、多くの場合、どこで



七十人
ジョセフ・W・
シターティ長老

ジョセフ





ハンプリー

それを見つけたらよいか分からずにいます。教育機関は、道徳の基準は自分で決めるものであり、定まらないものだという誤った考え方を受け入れてしまっています。

しかし、あなたが信仰の標準に添った生活をするにより、福音によってもたらされる安定、自信、平安、喜びを友人が目にするのを助けることができます。あなたの模範は周りの人たちが回復された福音の教えを受け入れる備えをするのに役立ちます。若い男性の『神への務め』や若い女性の『成長するわたし』は、神に近づき、大人や友人から信頼を得る助けとなります。

究極の模範

若い男性であろうと若い女性であろうと、心から救い主に従っていることが友人やほかの人たちに伝わるような生活をする事で皆さんは神権を尊びます。救い主が若い男性だったころの生活は、皆さんにとってすばらしい手本となります。わずか12歳のとき、主はこの世の両親を尊びながらも、天の御父の業に駆り立てられました。聖典には、主は神殿で人々をお教えになったと書かれています。年長で学識のある人々も、教義に対する主の理解力に驚嘆しました(ルカ2:42-52参照)。救い主は、御霊と

ともにいる資格があるなら12歳という年齢は福音の深遠を理解し始めるのに若すぎるわけではないことを示してくださいました。

聖典には信仰を勇敢に示し青少年の模範となる人が多く登場します。ヤコブの息子のヨセフ、ダニエル、ニーファイなどがそうです。加えて、わたしたちは現代の模範として末日の預言者や使徒に目を向けることもできます。

アロン神権の回復は天の御父が教会の若い男性や若い女性を信頼しておられることの証拠です。御父は若い男性である皆さんに神権を用いて御自身のすべての子供たちを祝福してほしいと思っておられます。福音を教えたり、バプテスマを施したり、聖餐を執り行ったり、病気の人や苦しんでいる人を助けたり、家庭を訪問して家族を強めたり、ビショップや支部会長から割り当てられた奉仕をしたりすることで、御父の期待にこたえることができます。あなたが行うアロン神権の奉仕を通して、人々は御父が子供たちに持つておられる愛を感じるようになります。同じように、若い女性の皆さんは、神殿参入にふさわしい生活をしたり、周りの人に奉仕したり、困っている人を世話したり、自分の長所や才能を伸ばしたりすることで、救い主の模範に従うことができます。

教会の多くのユニットで、敬意と威厳をもって神権の義務を遂行する若い男性を見てきました。心を尽くして奉仕する若い女性も見てきました。このような奉仕や仕えるときの態度は父なる神と御子イエス・キリストへの皆さんの信仰を強めます。また、皆さんが奉仕する人々の信仰も築くことができます。■

ジュリエットは信頼されています

若い女性の皆さん、皆さんも若い男性と同様に模範を示しています。つまり、福音に添った生活をする事で模範を示しているのです。『成長するわたし』を行うにつれ、皆さんは神の娘として自分が何者で



あるか、天の御父が何を期待しておられるかを知るのに役立つ原則を学ぶでしょう。

ジュリエットはその一例です。ウェストランド支部の会員であるジュリエットは、記録上の子供〔訳注——会員記録がある8歳の子供で、両親の少なくとも一人は教会員〕としてバプテスマを受け教会に入りました。定収入がない母子家庭で育ったことを含め、厳しい境遇にあったにもかかわらず、女子の生徒総代に指名されたジュリエットは学校当局が感心するほどの高い価値観を持っていました。文字どおり校内の生徒の中で最も信頼されているのです。

福音の標準に添った生活をする事で神権を尊ぶことをジュリエットは学びました。彼女の模範は神権を尊ぶ若い男性や若い女性が神と人から愛されることを示しています。

教義と聖約 121:41-43

ジョセフ・スミスは主の方法で神権の権能を行使することを教えました。



説得

説得——論したり嘆願したりすることによって、人が何かを信じたり、行ったりするように励ますこと。



寛容

寛容——忍耐強いこと。

「主がわたしたちに忍耐してくださいるように、わたしたちも仕える人に忍耐しましょう。自分と同じように、人々も不完全です。同じように間違いを犯します。同じように大目に見てほしいと願っているのです。

一人も見捨てないでください。それには自分自身を見捨てないことも含まれます。」

大管長会第二顧問
ディーター・F・ワークトドルフ管長
「忍耐し続ける」『リアホナ』2010年5月号, 58

温厚と柔和

聖文には温厚と柔和に関して教えている箇所が幾つかあります。

- 温厚と柔和は御霊の実に含まれています(ガラテヤ5:22-23参照)。
- 温厚は主の僕の特質です(1テサロニケ2:7; 2テモテ2:24参照)。

41 いかなる力も影響力も、神権によって維持することはできない、あるいは維持すべきではない。ただ、説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、
42 優しさと純粋な知識による。これらは、偽善もなく、偽りもなしに、心を大いに広げるものである。
43 聖霊に感じたときは、そのときに厳しく責めなさい。そしてその後、あなたの責めた人があなたを敵視しないために、その人にいつそうの愛を示しなさい。

- 柔和な人は地を受け継ぎます(詩篇37:11; マタイ5:5参照)。
- 柔和はキリストを信じるしるしです(モロナイ7:39参照)。
- 柔和であれば聖霊の訪れがあります(モロナイ8:26参照)。

偽りのない愛

偽りのない——ほんとうのこと。ごまかしたり装ったりしないこと。

最近あなたにほんとうの愛を示してくれた人はいますか。どうしたらそのような愛を示すことができるでしょうか。それについて日記に書いてください。

偽善もなく、偽りもなしに

偽善——自分でないものを装うこと。

偽り——だますこと。悪賢いこと。

そのときに厳しく責める

そのときに——直ちに。早くに。手遅れにならないうちに。

厳しく——明確に。

責める——しかったり、穏やかに正したりすること。受け入れないということを示すこと。



聖霊に感じたとき

「靈感と愛にあふれた叱責により、一致をもたらすことができます。しかし、聖霊に導かれたときに行わないと、争いを招くことになるでしょう。」

大管長会第一顧問 ヘンリー・B・アイリング管長
「一つとなりなさい」『リアホナ』2008年9月号, 6

編集者注——このページの目的は、聖句の完全な解釈を示すことではありません。このページを参考にして各自で学習を深めてください。

聖なる森



写真：山崎・トビノキ

ここで起きたことが世界を変えました。あなたの生活も変わりますように。

御^み霊^{たま}の手話

ペドロ・オバレス

ドミニカ共和国で専任宣教師として働いていた時のことです。教える人を見つけるのが難しいと言われていた新しい任地へ転任したばかりでした。任地に着いたとき、求道者はたった一人しかいませんでした。オリビアデスという名の男性です。彼は以前教会に出席したことがありますが、耳が不自由なため手話で会話していたので、これまでの宣教師は彼に教えることができませんでした。

ある日オリビアデスを教えられるよう奇跡を願って同僚とともに断食して祈ることにしました。同僚もわたしも手話ができなかったので、彼の家族が通訳できるときに合わせて会う約束を作りました。

しかしオリビアデスに会いに行ってみると家族は一人も家にいませんでした。オリビアデスがいすを取りに部屋を離れた間に、同僚とわたしは御霊が導いてくれるよう祈りました。祈りが終わる前から、御霊の存在を強く感じました。

オリビアデスは手話を使って話し始めましたが、わたしたちは彼が伝えようとしていることを理解できませんでした。何とかしなければならぬと思いながらも、ただ彼にはほえみかけて顔を見合わせるだけでした。次回には通訳してくれる人がいることを望みながら、次の約束の日時を書いて示すことにしました。しかし突然わた



したちは二人とも、とどまって彼に教えなければならぬと強く感じました。「とにかくやってみましょう。御霊が助けてくれます。」そうわたしは同僚に言いました。

わたしたちはレッスンを教えながら、努めて絵を活用し、手で簡単な合図をするようにしました。徐々にオリビアデスの手話が理解できるようになりました。彼はわたしたちが伝えようとしていたことを完全に理解しているようでした。

わたしたちはオリビアデスに証を伝えるように促しあかしを感じました。最初の示現の絵を見せ、1枚の紙に「わたしはそれが真実であることを知って

います」と書きました。

するとオリビアデスは手話を使って答えました。「わたしはそれが真実であることを知っています。神が教えてくださいました。わたしは祈ったので、真実であると知っています。」

同僚とわたしは目に涙を浮かべながらオリビアデスの家を後にしました。神がこの求道者に回復された福音を証することをわたしたちに許してください、聖霊がオリビアデスの心にメッセージを届けてくださったことが分かりました(2ニーファイ33:1参照)。福音を伝えるときに、雄弁である必要はないということをわたしは学びました。時には一言も語る必要のないときもあります。■

漁の仕方を人に教える

教会機関誌

アダム・C・オルソン

エズラは浮材の張り出した小さなアウトリガカヌーをこぐのをやめて、入り江の沖の太平洋に沈む夕日をじっと見詰めていました。何年もこの海で父親とともに漁をしてきましたが、普段見慣れた景色も、今日はあふれる涙で、ほんやりとしか見えませんでした。

今日、エズラは独りぼっちでした。

カヌーが水上で静かに止まると、父親がよく言っていた言葉が聞こえてきました。「エズラ、よく見ておきなさい。いつかわたしが死んだら、おまえはどうやって家族を支えていくか知らなければならないんだから。」

まさに今日は、父親がエズラに心構えを促し、備えさせようとした日なのです。しかし、あまりにも早すぎました。彼はまだ16歳で、準備ができていなかったのです。

責 任

エズラは父親を心から尊敬していました。ですから父親が言ったように、漁網を仕掛けたり確かめたりする手伝いができる7歳になるまで、何年も辛抱強く待ち続けました。

漁でたくさんのお金を稼ぐことはできませんでしたが、エズラと5人の姉妹と母を養っていくには十分でした。合衆国で伝道しているエズラのいちばん上の姉を支援し、近所の人たちの援助もしました。エズラは伝道のために貯金を始めることさえできました。

しかし父親は亡くなってしまいました。突然の死に、エズラの心は張り裂けそうでした。父親を失うということは、エズラにとって、自分の英雄、ビジョップ、良き師を失うことでした。

しかし恐ろしい現実が心の痛手に追い打ちをかけました。父親が備えさせようとしていた責任がにわかにエズラの肩にのしかかってきました。エズラは今や家族を支えていかなければならなくなったのです。

祈 り

父親の死後1週間は漁のことを考えることすらできませんでした。エズラはすっかり気落ちしてしまいました。父親を失った今、父親のカヌーに乗り、父親の網を使って父親の仕事をするのを考えるのは堪え難いことでした。

次の週末までには家族のために漁に出なければならぬことは分かっていたのですが、重荷に押しつぶされていました。エズラが父親のようになりたいと思えば思うほど、その目標はいよいよ達成できないように思われました。

「どこにも希望を見いだすことができませんでした。父がしていたとおりにするのは、最初は難しいことでした。カヌーに乗って海に出ると、父がいなくなったことを実感しました。父がこれまで語ってくれた言葉の数々が思い出され、家族を養っていく責任の重さを実感しました」と彼は言います。

太平洋の浅瀬にたたずんでいると、自分を助けることができなくなる唯一の御方に心が向かっていました。父親が信頼するように教えてくれた御方です。

「父が漁をしていた場所をほくに示してください。父がほくに期待していたことを果たせるように助けてください」とエズラは祈りました。

サモア出身で
16歳のエズラは、
助けが必要なときに、
父親が教えてくれた
よりどころ、つまり
天の御父に
心を向けました。



エズラと友人のフェトゥは
網を揚げると
アウトリガーカヌーに乗って
戻ります。

祈りの答え

祈り終え、夕暮れの静けさの中で、エズラは何かが変わったように思いました。父親の漁場に導かれたと感じましたし、父親が教えてくれたことを必要なときに思い出すことができました。

「祈りの後、特別な強さを感じました。天の御父がぼくを助けてくださると分かりました」と彼は言います。

救い主が古代の使徒たちにどこに網を投げればよいのか示されたように、エズラも助けを得たのです。「その日多くの魚がとれました」と彼は言います。

この父にして、この子あり

エズラは父親がしてきたことをできるかどうか分かりませんでした。自分が考えていたよりも多くのことができるということが分かりました。

「ぼくの人生において、考え方や物事の見方、行動が大きく変わりました。自分にも父がしていたことができると分かったのです」とエズラは語ります。

エズラは自分になれると思っていた以上に父親のようになっていきます。漁師として、教える者として父親が歩んだ道を進んできました。

エズラが漁に出始めた翌週に、友人のフェトウと一緒に働きながら漁を学ばせてほしいと言ってきました。エズラは漁の仕方をフェトウに教え、フェトウはエズラの仕事を手伝い、こうして仕事仲間としてやってきました。

「父がぼくを教えてくれたように人を教える機会に感謝しています。父のように漁師であるだけでなく、教師でもあることを考えるとうれしくなります」とエズラは言います。

漁の仕方を人に教える

1尾の魚を与えると1日養ったことになるが、漁の仕方を教えたら一生養ったことになるということわざがあります。エズラの父親は



**エズラは伝道に出る計画を立てています。
エズラは自分の呼びかけに
主がこたえてくださったことを忘れません。
「主がぼくをお呼びになるときは、
主にこたえられるようになりたいと思います」と
エズラは言います。**



養い手として

父親の役割を引き継いだエズラは次のように言います。

「父がしていたとおりにするのは、最初は難しいことでした。」

まさに後者だったのです。

しかしエズラは漁の仕方以上のことを父親から教わりました。天の御父に頼ることを学んだのです。この知識は漁をする能力以上に生涯にわたって彼を支えることでしょう。

エズラは自分が天の御父の助けをどれほど必要としているか分かったので、父親が亡くなる1週間前に聖任してくれた祭司の責任をふさわしく果たすことに注意を払っています。エズラはまた、学校とセミナーを両立できるように漁の計画を立てています。

さらに、彼はいつか人をとる漁師になれるように、漁で得たお金のうち幾らかを貯金しています(マタイ4:19参照)。

「ある日の家庭の夕べで、父はほくたち全員が伝道に出ることを望んでいると言いました。それはほくの最大の目標です」とエズラは言います。

エズラは自分の呼びかけに主がこたえてくださったことを忘れません。「主がぼくをお呼びになるときは、主にこたえられるようになりたいと思います。」■

水泳から学んだこと

わたしが水泳から学んだのは、仲間のプレッシャーがすべて悪いとは限らないことです。プレッシャーが成功に役立つこともあるのです。

マリサ・トンブソン

7歳のときのことです。泳ぎ方を知らなかったのに、友人のアンジーがいる午後の水泳教室に母が入れてくれました。レッスンの終わりに毎回、クラスの先生がわたしたちをプールの中央へ連れて行き、水をかく練習をさせます。先生がおなかの下に手を添えてくれましたし、背中には「浮き」を着けていましたから、プールの中央にいてもいつも安全でした。

プールで受けた仲間のプレッシャー

ある日アンジーとわたしは浮きを着けていなかったのに、プールの縁にしがみついていた。アンジーは思い切って、プールの角を斜めに横切って隣接する壁（およそ1.2メートル先）まで泳いでみようと思いました。初めわたしはためらいましたが、彼女はしきりに誘いました。そこで、わたしは恐れながらも、できるかぎり大きく息を吸い込んでから、向こう側にたどり着くことを願いながら水の中に体を投げ出しました。ところが背中に浮きを着けていたときのように簡単に浮くわけではなく、沈み始めてしまいました。わたしはパニックに陥りました。このままではおぼれてしまうと思いました。そのとき数週間前に先生が言ったことを思い出しました。「もし泳いでいるときにどうしてよいのか分からなく

なったら、片方の腕を水から出して上にまっすぐ伸ばしなさい。そうすれば、だれかが助けに来てくれるわ。」

このことを思い出すと、わたしは上だと思った方向に腕を伸ばしました。

空気に触れたと感じなかったのに、あらゆる方向に腕を伸ばしましたが、水面を見つけることができませんでした。ちょうどそのとき頭がプールの壁にぶつかりました。アンジーはそこでわたしを待っていました。わたしが「おぼれて」いたなんて気づいていなかったと思います。

数週間後、わたしは家族と湖にいました。まだ泳ぎ方が分からなかったのに、浅瀬で遊んでいました。10分ほどそこにいると友人が湖に向かって来るのが見えました。わたしはどきどきして、「泳げないことがステファニーにばれたらどうしよう」と思いました。泳げないことをそれほど恥ずかしく思っていたのです。そこで急いでしゃがんで泳いでいるふりをし始めました。水中で足をばたばたさせながら腕で歩いたのです。ステファニーは水に飛び込むと、実際に泳ぎ始めました。これだけでもっと恥ずかしくなったのに、しばらくすると彼女がやって来てわたしに話しかけたのです。それから彼女は別の方向に飛び込んで離れていきました。彼女が上手に水をかいてできた波が寄せてきました。わたしはまた泳ぐふりを始めましたが、ばかげたことをしていると感じました。

数分後、そんなに恐がっていない





で泳いでみることにしました。浅瀬にいたので、水底に付いていた腕を離して犬かきを始めました。すると、できるではありませんか。浮いたのです。ほんの数秒でしたが、浮くことができたのです。日が暮れるまでずっと繰り返し練習し続けました。おかげで帰るころまでには、犬かきで湖を横切れるようになっていました。

仲間のプレッシャーは力強い

この二つの経験を振り返るとき、仲間のプレッシャーの力強さに驚きます。プレッシャーのせいでおぼれそうになった日がある一方で、別の日には泳ぎを覚えるきっかけとなりました。まさに仲間のプレッシャーのすごいところですね。良い面もあり、悪い面もありますが、いつだって強力です。

仲間のプレッシャーによってパリサイ人はキリストの言葉を信じませんでした。「彼らは神のほまれよりも、人のほまれを好んだからである。」(ヨハネ 12:43) 夢の中でリーハイは、大きく広々とした建物からあざけり笑う人々のせいで主を恥ずかしく思う人々を見ました(1ニエファイ 8:26-28 参照)。

仲間のプレッシャーの悪い面について、わたしはよく知っています。それは正しいと分かっていることから離れさせてしまいます。末日聖徒の標準を守っているせいでずっとからかわれてきました。わたしが洋服を万引きした

り、試験でカンニングをしたり、人に冷たくすることを望んでいる友人が何人かいました。わたしが浮き上がって成功することを望むどころか、引きずり下ろす錨いかりとなってわたしをおぼれさせようとしているようでした。

しかし生活を悪くするのではなく、改善するきっかけとなった友人たちもいます。中学校2年生のとき、友人のアリは翌年の進学に備えてマーチング

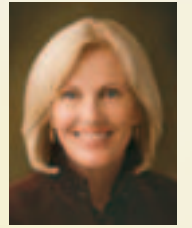
チームのオーディションを受けるよう、わたしを説得しました。簡単なことではありません。大きな高校の新生として課外活動に挑戦することを考えると恐ろしくなりました。しかしアリは、何かやりがいのあることをしようと熱心に説得しました。友人から背中を押されなければ、わたしが決してしなかったことです。この友好的な友人のプレッシャーのおかげで、とても容易に高校生活になじむことができました。

良い友人たちは高校時代から大学生活に至るまでわたしを動機付け、生徒会に立候補したり、良い成績を得るために頑張ったり、福音の証あかしを培ったりする勇気を与えてくれました。この友人たちは生活に良い影響を及ぼしてくれました。わたしの成功を望み、成長を助けてくれました。

これらの経験から、友人のプレッシャーは、多くの人は悪いと思いがちですが、必ずしもそうではないことを学びました。どんなタイプのプレッシャーなのか、だれからのプレッシャーなのか問題なのです。周囲から良い影響を受けているときには、容易に世の方法に染まることはないということを学びました。教会の友人や高い標準を持った友人の良いプレッシャーは、生活の中で背中に着けた浮きのような力となって、わたしを高めてくれます。■



父はなくなる
前のクリスマスに特別なおくり物をしてくれました。それは小さな銀のすずが



ついたネックレスでした。聖霊の声にいつも耳をかたむけ、清くあり続けることを思い出させてくれるそのネックレスは、わたしにとって大切な宝物です。

主に信頼する

ミーガン・ウィザーズ・ロクサス。
中央若い女性会長
イレイン・S・ダルトンしまいへの
インタビューから。

「心をつくして主に信頼せよ。』
(箴言 3:5)

小さいころ、わたしは父が行く所には、どこでもついて行きました。そして主のためにつくす父をいつも尊敬していました。父はわたしのために無私の奉仕という高い標準を示してくれました。また毎年、父は1週間の休暇を取りましたが、旅行に行く代わりに、とりに住むご主人をなくした女性の家のペンキぬりを手伝ってほしいとわたしたち家族に言うこともありまして。これは父が行ってきたたくさんの奉仕のうちほんの一例です。父はいつもほかの人のことを考えていました。わたしが高校生のころ、父は重い病

気にかかりました。わたしは絶えずいのり、天のおん父に病気が治るよう父を祝福してくださいとお願いました。でも、入院してから1か月後に父はなくなりました。

これはわたしの家族にとって悲劇でした。父を必要としていたわたしたちは、この出来事を受け入れることができずして。わたしはなぜこのようなことが起きたのか、またなぜ天のおん父はわたしのいのりにこたえてくださらなかったのかを知るためにいのりました。しかし、天はだまりこんでしまったように思えました。答えをまったく得られなかったのです。天のおん父がわたしをお見捨てになったように感じました。それでもわたしはいのり続けました。

1年後、聖餐会に出席したとき、ある話者が箴言の中から聖句を読み上げました。

「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。

すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言 3:5-6)

聖霊はこれがいのりの答えであるとわたしにあかししてくださいました。わたしは主を信頼しなければならなかったのです。その答えを得るのには長い時間がかかりました。それはわたしのほしかった答えではありませんでしたが、最も素晴らしいいのりの答えでした。わたしはなぜこのようなことが起こったかを理解する必要はなかったのです。主を信頼する必要があったのです。

たとえどんなに大変なことでも、主を信頼すれば何事でも行うことができます。主が道をまっすぐにしてくださいからです。主はわたしたちのとなりを歩き、手を取り、天使をつかわしてわたしたちのそばにるようにしてくださいます。これがわたしのあかしです。そしてこのことはみなさんにとっても真実なのです。■

特別な証人



十二使徒定員会の
L・トム・ペリー長老が
このテーマについて
いくつかの考えを
分かち合っています。

回復された教会を通して どのような祝福が 得られるでしょうか

「回復のメッセージ」『リアホナ』2007年5月号、85-88。
「何か願いがあるのか」『リアホナ』2005年5月号、84-87



地上にはイエス・キリスト
の完全な福音が回復されま
した。

この教会は、人々が救い主と
その福音を見いだすための
手段です。

ジョセフ・スミスは神の預言
者でした。そして、神の王国
を確立し、主イエス・クリス
トの再臨に備えるために大
切なすべてのものを回復
しました。

主のもとに帰るために必要
なすべての救いの儀式は、
主の回復された教会を通し
てのみ受けられるのです。

また、天でも地でも結び固めの
力を持つ神権のかぎが人に回
復されています。

今月の しよとうきょうかいの テーマについて
もっと 学ぶために この レッスンと かつどうを
つかうと いいでしょう。

ふくいんの だいの げんそくと ぎしき によって、 ふたたび かみと ともに すむことが できます

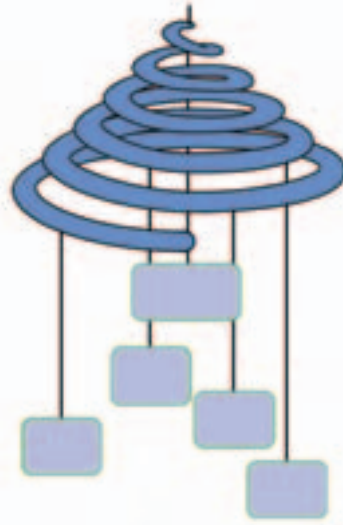
アナ・マリア・コバーン、
クリスティーナ・フランコ

「わたしたちは、ふくいんの
だいの げんそくと ぎしきとは、
だいに しゆ イエス・キリストを
しんじる しんこう、
だいに くいあらため、
だいに つみの ゆるしの ために
水に しずめる バプテスマ、
だいに せいれいの たまものを
さずけるための あんしゆ で あることを
しんじる。」(信仰箇条 1:4)

しんこうかじょうの だいの
じょうは 天の お父さまと
また いっしょに すめるよ
うになるための 4つの 大切な
げんそくと ぎしきについて 書いて
あります。

まず、イエス・キリストを しんじる
しんこうを もたなければ なりません。
イエス・キリストを しんじる しんこう
をもつとは イエス・キリストに
会ったことが なくても しゆが 生きて
おられ、すくいぬしで あられ、わたした
ちを あいして くださっている と
しんじる ことです。キリストを しんじ
ると しゆが のぞんでおられることを
行いたいと 思うようになります。た
とえば おいのりしたり、教会に 行っ
たり、人に やさしくしたり、いましめを
まもったり したいと 思うようにな
ります。

イエスさまが わたしたちに するよ
うにと のぞまれている 大切なこと
の一つに 8才、または それいじょうの
年で バプテスマを うける というこ
とがあります。わたしたちは イエスさ



まも 同じように 水に しずめられて
バプテスマを うけます。これは 体ぜ
んたいが 水の中 に しずめられる
ということです。しんけんの けんのう
を もっている 人が バプテスマを
ほどこしてくれます。バプテスマを う
けるとき わたしたちは 天の お父
さまと やくそくも します。それは
天の お父さまの いましめを まもる
ことです。もし そうするならば 天の
お父さまは せいれいが いつも
いっしょに いてくださると やくそ
くして くださっています。

バプテスマを うけた後 わたした
ちは せいれいの たまものを うけ
ます。しんけんしゃが 頭に 手を
おいて せいれいの たまものを さ
ずけます。せいれいは わたしたちを
みちびき、教え、なぐさめ、イエス・キ
リストを あかしされます。

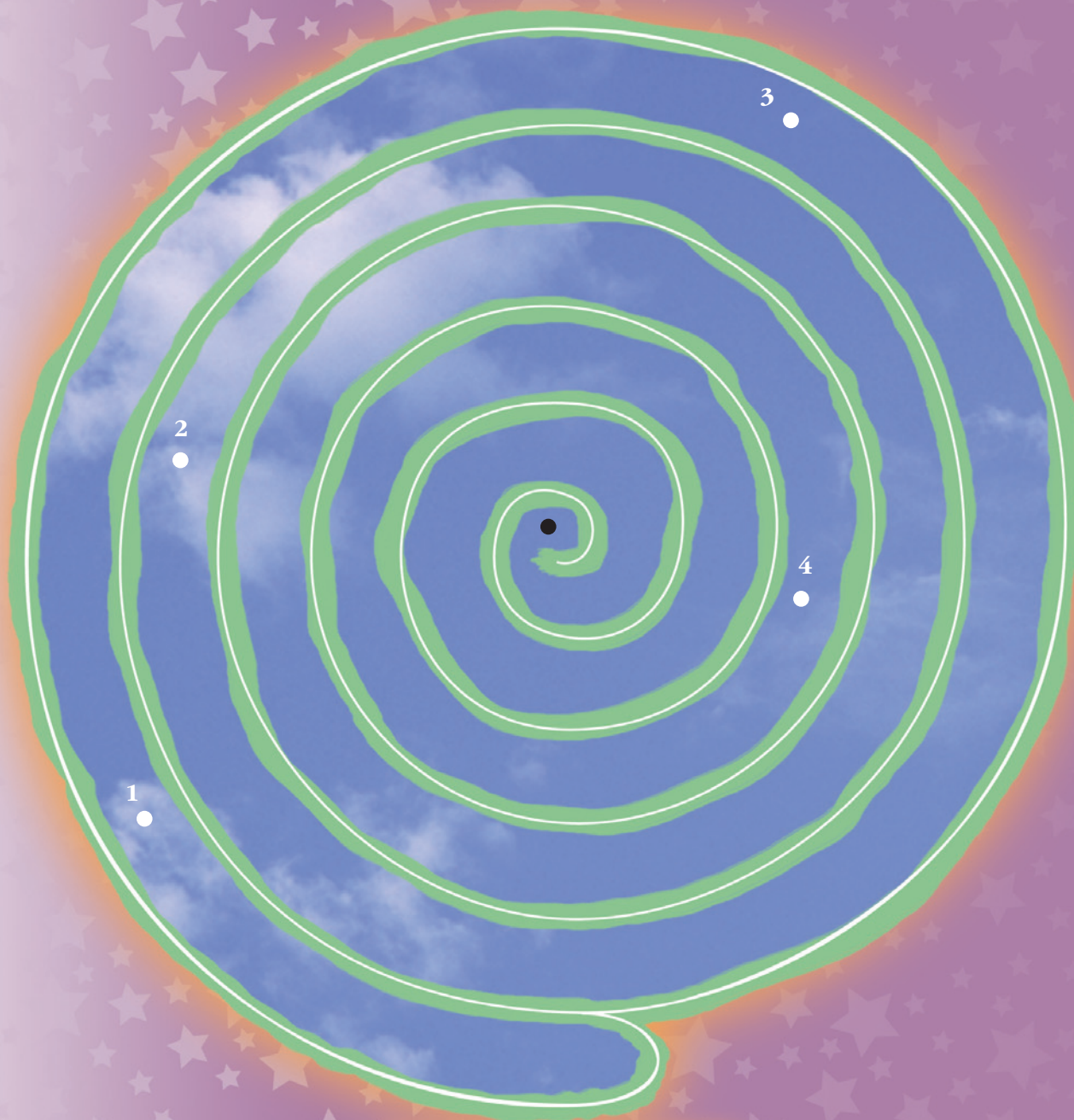
生まれてから 8才に なるまでは
イエス・キリストの あがないの おか

げで わたしたちは きよくて じゅん
すいです。8才に なった 後は
ちがったことを したら すべて くい
あらためを しなければ なりません。
くいあらためるとは 間ちがいを してし
まったときに、それを かなしみ、天の
お父さまと、自分が きずつけてしまっ
た人に、ゆるして もらえるように す
ることです。くいあらためを した後は、
同じ間ちがいを しないように どりよく
しなければ なりません。そして い
ましめに もっと じゅうじゅんに な
らなければ なりません。あがないの
おかげで くいあらためを すれば
また きよく なれます。

イエス・キリストを しんじる しん
こうを もつこと、くいあらためること、
水に しずめられる バプテスマを
うけること、せいれいの たまものを
うけることは 天の お父さまと イエス・
キリストのもとに 帰って かぞくと
いっしょに えいえんに くらせるように
なるために 大切な ことです。■

かつどう

ふくいんの だいの げんそくと
ぎしきをおぼえて おくために この
モビールを 作ると よいでしょう。
63ページを あつ紙に のりではり
つけてください。ことばが 書いてある
5つの カードを 切りぬき、つぎに
モビールを 線に そって 切りぬいて
ください。それから、白と 黒の 丸
の ところを 切りぬくか パンチで
あなを あけてください。さいごに
5まいの カードを 糸か リボンで
モビールに つり下げてください。



●
 ふくいんの だいちの
 げんそくと ぎしきとは

●
 1. しゅ
 イエス・キリストを
 しんじる しんこう

●
 2. くいあらため

●
 3. つみの
 ゆるしの ために
 水に みず しずめる
 バプテスマ

●
 4. せいれいの
 たまものを
 さずけるための
 あんしゅ

け
消して
し
知らせる



「わたしは心と体を神聖に
清く保ちます。」

わたしの福音の標準

ダニエル・ケニントン

実話をもとに書かれました。

「忠実であり、決してゆうわくに
負けまいようにしなさい。」
(教義と聖約 9:13)

コナーは家のコンピューターの
前にすわり、友達がかくれ
たウェブサイトのアドレスを
入力しました。「絶対に見なきゃだ
めだよ!」と友達は言っていました。

しかし、ウェブサイトが開くとすぐに
コナーは気分が悪くなりました。急い
でページを閉じようとしたが、ク
リックすればするほど悪い画像がど
んどん出てきてしまいました。コナーは
あわててコンピューターの電源を切
り、自分の部屋にかけこみました。

コナーはそのような画像を見てし
まったことを後悔しました。数か月前
にバプテスマを受けてから、コナーは
聖霊がもたらしてくださる特別な平安
を感じ始めていました。しかしそのよ
うな画像を見てしまったからは平安を
まったく感じられなくなりました。コ
ナーは罪悪感につつまれ、見てしま
ったものをだれかに知られるのではない
かとびくびくしていました。

コナーは夕食の間、だまっていた。
家族の会話を聞こうとしましたが、見
てしまった画像が頭によみがえってき
ました。いやな気持ちは心の中から
はなれませんでした。

コナーはその夜、おいのりしたとき、
天のお父様に自分が見た画像のこ
とを伝えました。そして自分は反省して
いて、二度とそのようなことをしないと
言いました。おいのりした後、少し心
が落ち着きましたが、お母さんに話す
べきだという思いにもなりました。しか
し、コナーは何があったかお母さんに
どうしても話したくありませんでした。
お母さんがおこったり、がっかりしたり
したらどうしようと思ったのです。

しかし結局、コナーはお母さんに話
すことにしました。お母さんの部屋に
行くと、お母さんはベッドで本を読
んでいました。コナーはベッドにすわ
って言いました。

「お母さん、話したいことがあるん
だけど、いい?」

「いいわよ」とお母さんは言いました。
「どうしたの?」

コナーは起きたことをすべて話しま
した。友達の話っていたこと、そして
サイトで何を見たかをお母さんに話し
ました。お母さんはコナーをじっと見

つめていましたが、おこっている様子
はありませんでした。

「どうすればいいか分からなかった
んだ」とコナーは言いました。「だから
コンピューターの電源を消して、走っ
てにげちゃったんだよ。ごめんさい、
お母さん。そもそもアドレスを入力す
るべきじゃなかったんだけど、それが悪
いサイトだって知らなかったんだ。」

お母さんはコナーをだきしめました。
「コナー、そんな画像を見てしまっ
たら大変だったわね」とお母さん
は言いました。「世の中には子供をだ
まして悪いものを見せようとする人た
ちがいるの。でもあなたは正しいこと
をしたわ。コンピューターで悪い画像を
見たら、『消して知らせる』必要があ
るわ。コンピューターの電源を切っ
て、すぐにお母さんのところに来て知
らせるという意味よ。あなたはと
ても正しいことをしたのよ。」

コナーはほっとしました。

「コナー、これはあなたのせいじゃ
ないのよ」とお母さんは言いました。
「たまたま間ちがってしてしまったこと
なの。だからこのことについて悪く思
う必要はないわ。」

「でもお母さん、どうして正しいこと
をしたのに、いやな気持ちがあったの?」

「聖霊は危険なことがあると知らせてくださるの」とお母さんは説明しました。「あなたがその気持ちを感じたとき、聖霊がそこからはなれなさいと言われていたのよ。うちのコンピューターに悪いサイトをブロックするためのフィルターをかけておくけど、それを通りぬけてしまうものもあるかもしれないわ。でもまたそういうことがあっても、もうどうすればいいかわかるでしょ?」

「コンピューターを消して、お母さんに知らせる」とコナーは言いました。

「そのとおりよ!」とお母さんは言いました。

ねる前にコナーはおいのりし、気持ちが悪くなったことを天のお父様に感謝しました。おいのりをしていると聖霊を通しておだやかな気持ちを感じました。そして、もう何も心配ないと知ることができました。■

インターネットを安全に使うために

- インターネットを使う前に親の許可を得る。
- 周りに両親など、ほかに人がいるときにだけインターネットを使う。
- 親が許可しないかぎり、実名や年齢、アドレス、電話番号やそのほかの個人情報を公開しない。
- お気に入りのウェブサイトはブックマークし、検索しなくていいようにする。

不適切なウェブサイトからのがれるために



1. 画面やコンピューターの電源を切る。



2. 大人に知らせる。



3. 二度とそのサイトを見ない。



4. だれかに不適切なサイトを見せられたら、ためらわずにその場を去る。

安全で楽しいウェブサイトを探しているなら、friend.lds.org をご覧ください。お話をぬり絵、ビデオ、スライドショー、ゲームなどを用意しています。



わたしたちのページ



ケベック州のモントリオールステーキ、ビリー-マリーワードの初等協会の子供たちは、先生や指導者たちと、ケベック州モントリオール神殿を訪問しました。神殿会長の人たちが温かくむかえ入れ、神殿の庭を案内してくれました。その間子供たちはずっと静かで、敬虔にしていました。みんなは、色とりどりの花や美しい神殿が大好きになりました。神殿のビデオも見ました。そして全員が神殿の写真入りのカードをもらいました。

パナマに住む11才のミチャエル・G(右)は、空手を習うのが大好きです。また学校でも一生懸命に勉強しています。学校で優秀な成績を取めたので、「一日校長先生」に選ばれたこともあります。

ミチャエルはすでに勇敢な宣教師です。家の近くで行われた国際祭りに教会が参加したときに、ミチャエルは両親と一緒に入り口の所で教会のパンフレットを配り、教会をしようかしているコーナーを見てくださり、人々に声をかけました。また、ミチャエルが友達の家に行くバス・アロング・カードを配ったことがきっかけで、その家族は宣教師から教会について学ぶようになりました。ミチャエルは大きくなって伝道に出るのを今からとても楽しみにしています。



絵 やしやしん、けいけん、あかし、手紙を「わたしたちのページ」(Our Page) へてに Eメール liahona@ldschurch.org でおくるか、もしくはつぎのじゅうしょにおくってください。

Liahona, Our Page

50 E. North Temple St., Rm. 2420
Salt Lake City, UT, 84150-0024, USA

応募の際には、必ず子供の姓名と性別、年齢、それに親の名前、ステーキ/地方部、ワード/支部名を明記し、子供の写真や提出物を使用する許可書(電子メールも可)を添えてください。紙面の都合上、あるいは明瞭にするために、編集することがあります。



心を落ち着かせるためのいのり

あ 晩わたしは、家が火事になって何もかも燃えている夢を2度も見ました。とてもこわくなったので、天のお父様においのりして、二度とそんな夢を見ないようにお願いしました。もう一度ねむりにつくと、美しい野原にいる夢を見ました。わたしはとても心が落ち着いて、全然こわくなくなりました。
ニビア・アンヘリカ・A, 10才 (メキシコ)



ジェレマイア・P, 10才 (サモア)

お お 大きな けつだん

レベッカ・ショー

じつわを もとに 書かれました。

「その 子どもたちは、八さいの ときに つみの ゆるし のための バプテスマを うけ、
また あんしゅを うけなければならない。」(教義と聖約 68:27)

「**一** コル、今夜も ジョンソン
さんたちが いらっしゃるわ
一 よ。お二人から 言われた
ように おいのりしたの?」と お母さん
が 言いました。

「ううん、まだ」と わたしは 答え
ました。

ジョンソンちょうろうと ジョンソンし
まいは、わたしたちの ワードで ふう
ふせんきょうとして はたらいています。
二人は、かていのゆうべの ときに 来
て、ふくいんについて 教えてくれます。

わたしの かぞくは 教会に 行か
なかったときも あったので、わたしには
分からないことが いくつか あり
ました。わたしは もうすぐ 8才
になるので、バプテスマを うける
かどうか 自分で きめなければ
いけないと お母さんは 言います。

先週 ジョンソンちょうろうたちは
わたしに、ジョセフ・スミスが しんりを
見いだすために、どのように いのっ
たかを 教えてくれました。それから
わたしに、バプテスマを うけること
について おいのりしてくださいと 言
いました。

「どんな 気持ちも かんじるか
よく ちゅういしていると いいで
すよ。せいれいは そのようにして
何が しんじつかを わたしたちに
教えてくださるのよ」と ジョンソン
しまいが 言いました。

わたしも ジョセフ・スミスと 同じ

14才まで まっても いいかもしれない
と 思いました。

夜、レッスンの 中で ジョンソン
ちょうろうは、カップを つみかさねて
一つの とうを 作りました。そして
土台が しっかりしていないと とうは
くずれてしまうと 教えてくれました。

「教会が しっかりした 土台の
上に きずかれているのは なぜだと



思う?」と ジョ
ンソンちょうろうが
たずねました。

「たぶん、天の お父さま
と イエスさまの 言われた
とおりに ジョセフ・スミスが 教会を
かいふくしたからだ と 思います。」
わたしは 先週の レッスンを 思い
出しながら そう 答えました。

「その とおり。そして その 正

しい 道を まっすぐ すずめるよう
に、生ける よげんしゃと しとが
あたえられているんだよ」と ジョンソ
ンちょうろうが 言いました。

わたしは ほんとうに その とおり
だ と 思いました。モンソンだいかん
ちょうの ことを 聞く たびに、い
つも よい 気持ちが するからです。

つづいて ジョンソンしまいが、
ずっと わたしが ふあんに 思っ
ていた しつもんを しました。

「バプテスマを うけることにつ
いて おいのりしましたか。」

「いいえ、まだです」と わたしは
答えました。

「バプテスマを うけたいとは 思っ
ているの かしら」と ジョンソンしま
いが たずねました。

はっきり へんじが できれば よかつ
たのですが、わたしは ただ かたを
すぼめて さあ どうか な という
しぐさしか できません でした。

妹は わたしが 水の中 にし
ずめられるのが こわいからだ と
思っている ようです。妹は 自分
なら そう 思うからだ と 言うのです。
でも、わたしは 水が すきな
ので、自分が 何を しんばいしているの
かは っきりとは 分かりませんでした。

「いろいろ しなければならなくなる
と 思うと、それが こわいのかしら」と
ジョンソンしまいが 言いました。

その ことばを 聞いた とたん、



「**天**のおん父はみなさんが……自分の力ではどうにもならないけつだんをしなければならぬとあることをごぞんじでした。おん父は……みなさんが……たすけをうけられるほうほうをよいさされました。このたすけは、せいれいをとお通して……きます。」

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老
 「霊的な導きを得るために」『リアホナ』2009年11月号, 6

まさしく その とおりだと 思いました。バプテスマを うけると、わたしは 自分の することに せきにんをとらなければいけないと お母さんが 言ったのです。つまり、わたしは 自分の えらぶことに せきにんをとらなければならない ということです。かみさまの いましめを ちゅういぶかく まもらなければなりません。わたしに そんな ことが できるか 今 は 分からないのです。お父さんの ように 教会に 行かなくなったら どうすればよいのでしょうか。

「8才に なったら、たとえ バプテスマ

マを うけなくても 自分の えらんだ ことに せきにんを もたなければ なくなるのよ。でも バプテスマを うけて かくにんされると、よい えらびが できるよう、たさんの たすけを うけられるようになるの。それは せいれいの たまものを いただくからよ」と ジョンソンしまいが 言いました。

わたしが まもらなければならない いましめについても 話し合いました。たばこや おさけ、それに まやくなどは 体によくはないことは 知っていたので、ちえの ことばを まもるのは むずかしくなさそうです。

ジョンソンちょうろうたちが 帰った 後には、もう バプテスマを うけることが こわく なくなりました。正しい えらびをして、天の お父さまの いましめを まもりたいと 思いました。それに せいれいが たすけて くださることが わかって うれしく なりました。

自分の へやに 行って、ベッドの そばに ひざまずき、おいのりをしていると、バプテスマを うけるのは よい ことであると はっきり 分かりました。その 気もちが おいのりに たいする 答えで あることも 分かりました。■

やさしく 答えるように しましょう

ローラ・ハンター

じつわを もとに 書かれました。

「^{こたえ}やさしい ^{しんげん}答は いきどおりを とどめ、はげしい ^{はなし}ことばは いかりを ひきおこす。」
(箴言 15:1)

1.



2.



3.



4.



5.

リジーにも
そうすれば いいのかな。

こんど ためして どうなるか
ようすを 見てごらんよ。



6.

わたしも
その ようせいの 羽がほしい!



7. そのとき アリスは お父さんの
ことばを 思い出しました。

リジー、この かんむり かぶってみない?
あなたが おひめさまで、
わたしが お友だちの ようせいに なるわ。



8.

分かった、
わたしは うつくしい
おひめさまね。

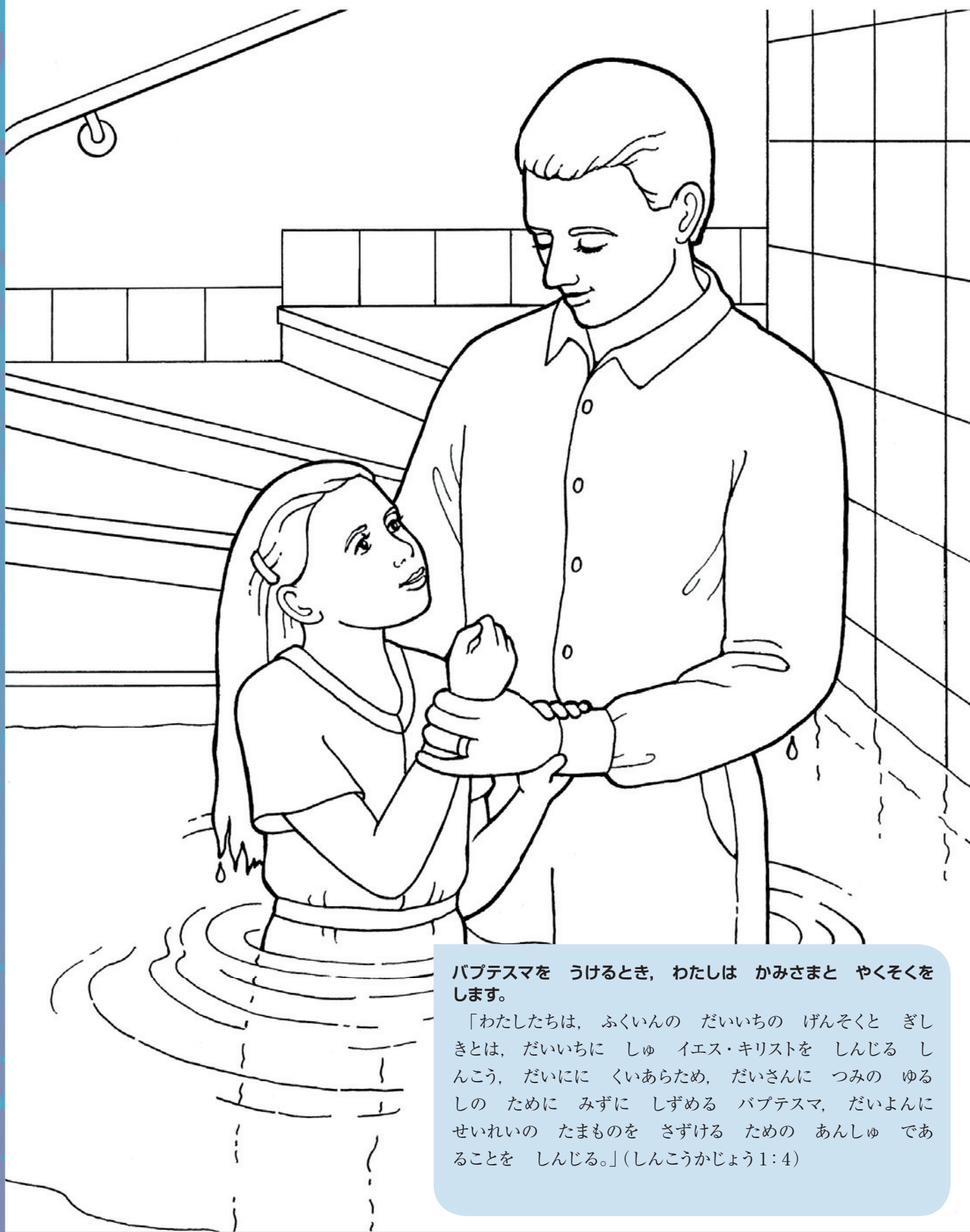
おひめさま、
いっしょに あそびましょう。





ときどき、おこっていると、やさしく ことえられない ときがあります。おとうさんか おかあさんに てつだってもらって、この ページに ある えを きりとりましょう。シャツや、ドアや、ほんなど、よくみえる ところにはって、やさしく ことえることを おもいだしましょう。





バプテスマを うけると、わたしは かみさまと やくそくを
します。

「わたしたちは、ふくいんの だいいちの げんそくと ぎし
きは、だいいちに しゅ イエス・キリストを しんじる し
んこう、だいにに くいあらため、だいさんに つみの ゆる
しの ために みずに しずめる バプテスマ、だいよんに
せいれいの たまものを さずける ための あんしゅ であ
ることを しんじる。」(しんこうかじょう1:4)

世界で必要とされる 索引作成者

教会機関誌

ヒカリ・ロフトス

世界中で先祖の探究が進められている。そして、その探求を可能にする人が全世界にいる。

2006年にオンラインで開始され、世界中のボランティアの力で進められているファミリーサーチの索引作成とは、(マイクロフィルムなどに収められた)文書の情報を検索可能なオンラインデータベースに入力する作業である。

開始以来、12万2,000人の末日聖徒および末日聖徒以外の索引作成者は5億4,797万8,000件の記録の索引作成を完了しており、ファミリーサーチの索引作成は顕著な成功を収めている。しかし、索引作成の調整を行っている人々は、英語以外の言語の記録の索引を作るという新たな目標を掲げている。

ファミリーサーチ製品マーケティング部長のジム・エリクソンは次のように語る。「英語以外の名前が増えてきています。ほかの言語を話す人たちにもっと作業に加わってもらい、英語以外の名前の索引作成もうまく進められるようにしようと努めています。」

索引作成の対象となる英語の記録も相変わらず増加しているが、英語以外の言語の記録の増加はそれをはるかに上回る。ファミリーサーチが提供するサービスを知る政府や記録所有者が増えるにつれ、プロジェクトは様々な国に利用されるようになってきているとエリクソン兄弟は語る。

まず、ファミリーサーチの職員が、政府や図書館その他同等の施設から記録を借り出し、そのデジ

タルコピーを作成する。作成したコピーは「バッチ」と呼ばれる小さな単位にまとめられ、ボランティアにオンラインで提供される。ボランティアはファミリーサーチにログインして一つのバッチをダウンロードし、画面に表示されたデータを入力するのである。入力されたデータは後に家族歴史を探究する人々に広く公開される。ボランティアは30分程度で一つのバッチを仕上げることができるとファミリーサーチ索引作成プロジェクトコーディネーターのケイティー・ゲールは語る。

ファミリーサーチ索引作成を行うボランティアの中には、英語以外の言語を母国語とする人もいる(同サイトは現在7言語で公開中)が、伝道や学習その他の訓練で語学力を磨いた人もいる。

自分が住んでいる国や伝道した国でこのプロジェクトが行われていない場合でも、同じ言語圏の国からならプロジェクトに参加することができる。

ウクライナ・キエフ神殿の建設中、ウクライナの聖徒たちは名前を探し、その索引を作って神殿完成時に持参できるようにする活動を行った。同神殿が奉獻されるまでに、ウクライナやロシア、南北アメリカ、ヨーロッパの索引作成者401人がキエフのこの活動に加わり、聖徒たちは20万件のウクライナ人の名前を同神殿に持参することができた。

索引作成が活発に行われている地域があれば、索引作成用記録のバッチを提供するファミリーサーチの職員は、そのような地域を選んで、可能であればその地域に関連したプロジェクトを優先的に進めるようにする。

現在のペースで索引作成を進めた場合、国によっては現在提供しているバッチを完成させるのに10年近くかかってしまう。



そのため、もっと多くの索引作成者が必要とされている。英語以外のバッチも数多くあるが、これについては、完成までに2年から6年かかる。

ファミリーサーチ索引作成運営部長のポール・スターキーは次のように語る。「このプロジェクトだけが進んでも何にもなりません。索引作成の目的はこれらの記録を〔電子的に〕提供して人々が自分の先祖を見つけられるようにすることなのです。このプロジェクトを直ちに本来の目的に戻すよう努めています。」

教会が保有する系図記録のマイクロフィルムは240万ロールに及び、グラナイト山記録保管庫に保管されている。これは、約150億に匹敵する記録の索引作成がまだ行われていないことを意味する。世界中にはこのほかにも無数の記録があるのだ。

索引作成を今すぐ始めましょう

まず indexing.familysearch.org にアクセスしましょう。

ド롭ダウンメニューの7つの言語から、使用する言語を一つ選んでください（訳注：日本語はまだありません）。

「**Get started**」（開始する）をクリックします。

索引作成のソフトウェアが自動的にダウンロードされて、アプリケーションがスタートします。

訓練用バッチで練習して、このソフトウェアに慣れてください。

索引作成を始めましょう。バッチはどのプロジェクトからでも、どの国からでも選ぶことができます。■



写真：ウェルデン・C・アンダーセン、© 2011

エリクソン兄弟はこう語る。「〔名前と個人の記録を探すのは〕心を先祖に向ける活動です。教会員は索引の付いた記録を活用して先祖の系図記録を作成し、先祖に神殿の救いの儀式を施すことができます。」

索引作成の作業は簡単で、コンピューターを使える人なら実際だれでも行うことができるが、その大切さは計り知れないとゲール姉妹は言う。「索引作成を家族歴史というもっと大きな視点から見る〔ことができる〕ならば、その大切さが分かるようになるでしょうし、より多くのボランティアが必要とされていることも理解できるでしょう。」

エリクソン兄弟はこう語る。「索引作成に携わる人がもっと必要です。そして、教会員であるなしにかかわらず、友人や家族とともにこのプログラムに携わるようわたしたちは呼びかけています。これは教会員だけが行うものではありません。助け合いながらだれもが同じ目標に向かって働くところに喜びがあります。」■

**ファミリーサーチ
索引作成の
コーディネーター
にとって
新たな目標は、
英語以外の言語の
索引作成です。**

自立するエクアドル

教会機関誌
ヘザー・リグラー

「**個**人の自由と市民としての責任は、個人が自立できるよう助けるといふ原則にかかっている」と、教会の第13代大管長エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 - 1994年）は、末日聖徒慈善プログラムであるベンソン財団農業食料機構法人の開所演説（1975年）で述べた。

この自立の理念の下で、ベンソン機構は多くの人々と協力して食料生産や栄養状態の改善、世界の貧しい人々の生活の質向上に努めた。

2009年、ベンソン機構のメンバーは豊かな農業資源の国、エクアドルを訪れた。しかし、世界保健機関によると、人口が1,500万人近くあるこの国では、5歳未満の子供の23パーセントが慢性的な栄養失調に陥っている。ベンソン機構は栄養失調の子供の家庭が貧困のサイクルから抜け出せるよう助けしており、そうすることによって栄養失調の子供の割合が少なくなるよう努力している。

ある6人の子供を持つ母親は、ベンソン機構が来る前は家族に必要な物を与えるのに苦労することが多かったと言っている。「貧しいために子供たちに食べ物をパン一切れですら日々与えることができないというのは、母親として非常に悲しいことです。」

同国の家族はベンソン機構の助けによって、より良い作付けの仕方や輪作の仕方を学び、小動物を飼育し、栄養バランスの取れた食事を取り、衛生状態を良くし、適切な料理を作る方法を学んだ。

多くの人々が毎日飢えと闘っていたが、新しい農業技術の導入によって、飢えに苦しむことが少なくなった。食料の生産量は劇的に増え、家族は自家消費用に食糧を貯蔵できるようになったばかりでなく、生産物を売って収入を得ることまでできる

ようになったのである。それに加えて食事内容と衛生管理が良くなったおかげで家族は健康になった。自分たちで育てた野菜を畑から取って食べることによって、以前は不足していた栄養素を摂取できるようになったのである。



ベンソン機構の援助を受けた家族は、食事内容と衛生管理が良くなったおかげで健康になった。

地元のある教師は次のように言っている。「以前、子供たちは成績が悪かったのです。しかしこのプログラムが施行されてからというもの、子供たちはずっと物覚えが良くなりました。病気がちだった子供たちも、病気にかからなくなりました。前は授業中に寝ている子供が多かったのですが、今では授業中に居眠りする子供はいません。前はもっと疲れているように見えた子供たちが、このプログラムのおかげで血色が良くなり、生き生きとしてきました。」

教会の福祉プログラムはすべて、実績ある自立の原則を土台にしている。この原則は、ベンソン機構の数十年にわたる経験と知識に基づく福祉の実践と相まって、全世界の何万人もの人々に祝福を与え続けている。■

エクアドルで行われたこのプロジェクトについては、<http://lds.org/church/news/growing-self-sufficiency-in-ecuador> にアクセスすることによって、英語またはスペイン語で見ることができます。

全世界に向けて

世の人々に光を掲げなさいと中央アメリカの聖徒に呼びかける使徒たち

2011年1月、中央アメリカの訪問を割り当てられた十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老とD・トッド・クリストファーソン長老はグアテマラとホンジュラス、ニカラグアの会員に、教会員はだれでも、キリストを信じる深い信仰を築いていかなければならないと語った。この二人の使徒は、そのほかの教会指導者とともに、祈りと聖文学習、神殿の奉仕、家庭の夕べ、安息日の遵守、主の戒めを守ることを、自分の信じていることを周りの人に伝えることを通して自分たちの家族を強めるよう会員に勧めた。

クリストファーソン長老とバラード長老は幾つかのステークでステーク大会を管理し、地元の神権指導者や両親と夫婦、ヤングシングルアダルト、青少年を対象に開かれたファイヤサイドに出席した。また、4つの伝道部で働く1,100人の宣教師とステーク会長会、ビショップ、支部会長とも集会を持った。

モザンビークを再訪するスコット長老

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、最近アフリカ南東部を訪問した折に「皆さんは地上で最も貴い子供たちです。神は皆さんを愛しておられます」と、モザンビークの末日聖徒たちに語った。福音を宣べ伝えるためにこの国を奉獻してから11年後の2011年1月、スコット長老はこの国を再訪して教会の大きな発展を^目の当たりにした。

スコット長老が初めてこの国を訪れたとき、モザンビークの教会員はわずか40人であり、この国は南アフリカヨハネスブルク伝道部の一部だった。ところが今回2度目に訪問してみると、5,000人の会員が全国で2つの地方部、19の支部、3つの集会所に集うまでに教会は発展していた。また、モザンビークには、モザンビーク全土とアンゴラを管轄するモザンビーク・マプート伝道部の本部が置かれている。



写真／ニール・L・アンダーセン長老の聖徒たちと子供たち

十二使徒定員会のニール・L・アンダーセン長老は、太平洋地域の会員と宣教師に会った。

スコット長老はこの国を離れる前に時間を取り、教会の人道支援プログラムの一環としてモザンビークで働く医師たちに、感謝の言葉をかけた。

太平洋地域の聖徒たちを力づけるベドナー長老とアンダーセン長老

太平洋地域の教会員と宣教師は、十二使徒定員会の二人の会員、デビッド・A・ベドナー長老とニール・L・アンダーセン長老から教えを受け、励まされ、教化された。

ベドナー長老はトンガ、ニュージーランド、ハワイ、マーシャル諸島の宣教師および会員と集会を持った。マーシャル諸島の会員にとってベドナー長老の訪問は大事件だった。十二使徒定員会の一員による訪問は史上初めてと思われたからである。

アンダーセン長老は、オーストラリアとパプアニューギニア、ニュージーランド、フランス領ポリネシアを訪問する割り当てを果たした。

「海の島々と地の最も遠い所を旅しましたが、至る所に教会がありました」とベドナー長老は言う。「教会はしっかりと根を張り、発展しています。そして信仰深く善良な人々が集っています。まったくこれは奇跡です。」■

現代の預言者と使徒の働きについては、
lds.org/study/prophets-speak-today にアクセスしてご覧ください。

神殿訪問を実現させた ニューカレドニアの人々の 信仰と家族

1月に、ニューカレドニアの147人の会員は、ニュージーランドのハミルトンで1か月過ごし、神殿に参入した。

末日聖徒の神殿での礼拝はこれが初めてという人が多かったが、毎年この神殿を訪問している人も何人かいた。

「ニューカレドニアには神殿がありませんし、教会員の家庭はたいへん貧しいのです。両親は1年

働いて旅費をためます」と、一行の一人であるジョージ・グイディは語る。神殿までは、この会員たちの家から1,600キロメートル以上もある。

自分たちが喜んでニュージーランドに行くのは、神殿での経験がイエス・キリストを信じる信仰を強め、家族を一つにするからだと言います。

ニューカレドニアの地方部会長であるジェラルド・モーサムはそれに付け加えて、「神殿に来るのは、多くの人にとって信仰を高め神に近づく機会なのです」と言う。■

世界の出来事

ソロモン諸島首相に「家族の宣言」を贈呈

教会は2011年1月21日金曜日、簡潔な贈呈式の中で「家族——世界への宣言」(『リアホナ』および *Ensign*, 2010年11月号, 128) 1部をソロモン諸島の首相、ダニー・フィリップに贈呈した。

地域七十人のダーク・スミパート長老とその他の教会の代表者たちは首相官邸に集まり、家族の小さな彫像を添えて、家族の宣言を首相に贈呈した。

エルサルバドルの神殿の日程が発表になる

教会の大管長会は、エルサルバドル・サンサルバドル神殿のオープンハウス期間中、同神殿を見学するよう教会員および一般の人々に呼びかけている。オープンハウスは2011年7月

1日金曜日から2011年7月23日土曜日まで、日曜日を除いて毎日行われる。

文化的祭典は2011年8月20日土曜日に開催され、翌日には神殿の奉獻が行われる。

会員が才能を発揮して教会を築くことのできるサイトの開設

「ぶどう園で働く」(Helping in the Vineyard)は、増えつつあるボランティアプロジェクトのうち教会員が支援できるものを掲載するために作られた、教会の新しいウェブサイトである。プロジェクトには翻訳やファミリーサーチ索引作成、写真撮影、ビデオや画像の投稿、編集作業などがあり、インターネットが使えるかぎり、どこにいても参加できる。

「ぶどう園」の作成者は、2011年中に1万人のボランティアが登録して、このオンラインプロジェクトに参加することを望んでいる。会員は

vineyard.lds.orgで新規登録することができる。同サイトは現在のところ英語のみで提供されている。

美術館で子供の作品展示会を開催

ソルトレーク市の教会歴史美術館では、新しい展示会を二つ開催している。創造力を伸ばす学習環境をテーマにした展示会と、子供たちによる美術作品の展示会である。

「福音に祝福された生活」(*The Gospel Blesses My Life*)では、イエス・キリストの福音の知識がいかにかに生活の中で祝福となっているかを描いた作品を全世界42か国の子供たちから集めて展示している。

「モルモン書祭——ラテンアメリカの祭典」(*A Book of Mormon Fiesta: A Latin American Celebration*)では、教会に流れるラテンの伝統をたたえ、ラテンアメリカの会員の話を紹介するセクションが人気を集めている。

これらの展示会に関する詳しい情報は、churchhistorymuseum.orgに掲載されている。■

読者からの便り

強くなる勇気

わたしは『リアホナ』で読んだ勧告や助言を毎日思い返しています。そうすると、日々、正しい判断を下すことができますし、福音に従って生きようという決意も強くなります。この機関誌は、少し強くなる勇気をわたしに与えてくれます。

ラモン・クリストファー・
ヒボリト・ピラルーナ (フィリピン)

不可能な問題も解決

『リアホナ』の中のメッセージはわたしを強くしてくれます。自分ではできないと思える決断をしなければならぬときに『リアホナ』の中のメッセージを読み返すと、完璧な解決法が見つかるのです。「大管長会メッセージ」と「末日聖徒の声」の掲載は絶対に続けてください。

エベリン・フォルソン (ガーナ)

これは真理だ

15年前に教会に入ってから以来、『リアホナ』はわたしの人生の道しるべになってきましたし、その中の記事を読んで御霊を強く感じてきました。『リアホナ』は悲しいときにはわたしの避け所となります。世界中の末日聖徒の話や中央幹部の話を読むと、安らぎと平安、そしてこれは真理だという確信を感じるのです。

フェリベ・ウルビーナ (コスタリカ)

ご意見、ご感想を liahona@ldschurch.org にお送りください。掲載される際、誌面の都合上、あるいは明瞭な表現にするために編集されることがあります。

家庭の夕べのためのアイデア

今月号には、家庭の夕べで活用できる記事や活動が載っています。以下に幾つか例を挙げます。

「幸福に通じる真の道」28 ページ——この話を家族に紹介して、次の質問について考えるとよいでしょう。今下す決断は、将来の幸福にどう影響するだろうか。正しい決断をしているという確信はどうしたら得られるだろうか。

「教育の力」42 ページ——この記事の筆者は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の次の言葉を心に刻みつけました。「皆さんはできるかぎり高度な教育を受ける必要があります。……仕事を行う資格を得るために犠牲にできるものはすべて犠牲にしてください。」犠牲とそれによって得られる祝福について家族で話し合しましょう。

「漁の仕方を人に教える」54 ページ

娘の質問

ワードのビショップとして、わたしは家庭の夕べで教える機会を子供に与えるよう親たちに勧めました。妻とわたしもそれを実行することにしました。

最初に教えたのは息子で、祈りについてのレッスンをわたしたちは楽しく学びました。翌週の月曜日は娘の番でした。当時娘は2、3か月前にバプテスマを受けたばかりでした。娘のレッスンのテーマは神の創造でした。娘は幾つか質問をし、わたしたちはそれに答えました。質問が終わると娘は証をして、レッスンを終えました。

すると息子が大きな声でこう言いました。「何にも教えてないじゃないか。質問しただけで。」しかしわたしは、質問の一つに妻が答えて、神が家族という単位を作り、

——家族にこの記事を読んで聞かせるか、または記事の内容をかいつまんで話してください。エズラ

は試練に対してどのように備えましたか。また、天の御父はどのようにエズラを助けられたでしょうか。備えるために自分たち家族に何ができるか話し合しましょう。

「主に信頼する」60 ページ——家族でこの記事を読みましょう。祈りがこたえられた経験を家族に話してもらってもいいでしょう。天の御父は様々な方法で祈りにこたえることができになることを話し、御父を信頼することの大切さを伝えます。

愛してくれる夫がいる素晴らしい家族を下さったことに感謝していると言ったときに感動したことを家族に話しました。「世界を造ったのはどなたですか」という質問に末娘が大きな声で「イエス様」と答えたときに、感謝の気持ちで胸がいっぱいになったことも伝えました。ほかにも射的を射た答えがたくさん出て、わたしは非常に感心していたのです。

息子が期待したように「教え」てはなかったかもしれませんが、娘のレッスンも、ほかの子供たちが教えたレッスンも、わたしの大好きな家庭の夕べのレッスンであることに変わりはありません。

リチャード・イクベグブ (ナイジェリア)



確かな土台の上に

証^{あかし}を築く

教会機関誌

ジョシュア・J・パーキー

オハイオ川の広大な流れから程近い、ケンタッキー州のレイビル郊外にアンカレッジという小さな町があります。そこはかつて、一人の川船の船長が、水陸を利用した物資輸送の最終拠点にした農業地帯でしたが、今では様々な宗教を奉ずる、専門の本拠地になっています。

教会で、また時には家で、さらにイチジクやカシの木、カエデ、クリ、ヤナギといった木々の生い茂る森の下に広がる不思議な世界を探索しているときに、わたしはキリスト教の基本精神の一つを学びました。それは、イエスが至高の教師としてこの世に生まれ、慈しみと高潔さをもって導きをお与えになったということです。

わたしの両親は善良な人たちで、通っていた教会の忠実な会員でした。そしてわたしに、どうすれば立派な人間になれるかを教えてくれました。その教えの中には、人に親切にするなどといった義にかなった行いに関することや、盗みなどの悪に関することもありました。その一方で両親は、ある人が真実だと信じていることが、ほかの人が真実だと信じていることと根本的に異なっていたとしても、どちらにも正当性はあるとわたしに教えました。この原理からいえば、わたしの理解するかぎり、万人に共通する永遠の原則というものには存在しないということ、そして知性を持つ人間には自分の見解を決める権利と義務があって、個人的見解こそがそれぞれにとって真実となるということです。

このような相対的な倫理観を教え込まれたわたしは、贖いや、神権の権能、預言者の必要性を説くモルモン^{あがな}の宣教師の言葉を信じるのが難しい時期がありました。結局わたしが改宗する



わたしたちは
揺るぎない証^{あかし}を
築くことが
できます。

までに6年という長い歳月がかかりました。その間わたしは絶えず、自分が何者で、何を信じているのか自分に問い続け、葛藤^{かつとう}しました。そして、真理と偽り、罪とその結果を定めた永遠の原則を確立されたとする神がほんとうに存在するのか悩み続けました。

ところが驚いたことに、十分にへりくだって受け入れる態勢が整ったとき、わたしは霊的な確信を得ることができました。まず、バプテスマ、

次にモルモン書、そしてジョセフ・スミスが真の預言者であるという証を得ることができたのです。また現代の預言者や使徒に対する証も徐々に持つことができました。そうになりました。

そしてついに、福音が真実だということを単に信じられるようになっただけでなく、そう

だとはっきり知ることができたのです。わたしは小さな証を積み重ねることによって、自分の信仰をしっかりと支える確かな土台を築き、証を打ち砕こうとするチャレンジに負けない確固としたとりでも築くことができたのです。

主に答えを求めることは、わたしたちに与えられた神聖な権利です。また、強い証を持ち続けるためには、日々自らの霊性を養わなければなりません。しかし、主の計画に従う中で、すでに証を得た原則について疑問を持ち続けることは、生産的なことではありません。実際のところ、それは背教につながりかねません。

わたしは若いときに教えられたあの相対的な倫理観にもう振り回されることはありません。預言者が語る時、その言葉が神から来ていることをわたしは知っています。証が脅かされるような事態に出くわしても、すでに得た証を信じ、それに従って生きられるように全力を尽くしています。それが平安へと続く道であり、幸せになるための方法だからです。■

教会福祉計画

自立と奉仕の75年を祝う

「わたしたちの
第一の目的は、
……忌まわしい怠惰や
施しのもたらす
悪弊を除去し、
独立心、勤勉、儉約、
自尊心を
再びわたしたちの間に
確立する体制を
築くことです。
教会の目的は、
人々の自立を助けること
にあります。
勤労が再び
教会員の生活を貫く
原則にならなければ
なりません。」

ヒーバー・J・グラント大管長
(1856 - 1945年)、
Conference Report,
1936年10月、3、
「歴代大管長の教え——
ヒーバー・J・グラント」
(2002年) 115も参照

目次

- 82 大管長会からの手紙
- 83 主の道にかなって助けを
なす
- 84 将来に備えて賢明に活動
してきた75年
- 85 自立のビジョンを持つ
- 92 救い主に従うことによっ
て、さらに多くの思いや
りに満ちた奉仕を行う
- 93 大勢の強さ
- 96 福祉の原則を生活に取り
入れる



末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

ユタ州ソルトレーク・シティー, サウス・テンプルストリート, 東 47 番地, 84150-1000

〈翻 訳〉

2011年6月1日


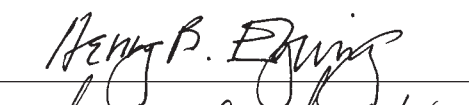
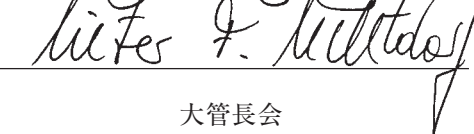
愛する兄弟姉妹

今年は、教会の福祉プログラムが導入されてから75周年を記念する年です。この後数ページにわたって、このプログラムの導入の経緯について、その歴史の一部を紹介しています。さらに、これを読むことで、教会の行う国際的な福祉事業について知り、世界中の教会員の生活に福祉の原則が生かされているのも分かるでしょう。

75周年の今年は、わたしたちが皆、もっと自立するよう、そして人々の自助努力を助けるに当たって救い主に従えるよう呼びかけるとともに、改めてその呼びかけを思い起こす年でもあります。

皆さんがこの特集記事を読んで、福祉と自立の原則について、よく祈って考え、それに基づいて行動を起こすよう、皆さんやご家族に勧めます。

敬具

大管長会

主の道にかないて 助けをなす

それは株式市場が大打撃を被った時期でした。銀行や金融機関は破綻し、失業者が急増し、人々は家を失いました。政府は巨費を投じて市場介入を図り、経済を安定させようと躍起になりました。食糧やその他の生活必需品を公の機関に頼ることを余儀なくされた人々が増加の一途をたどったのです。

これは1930年代の様子を描写したのですが、現代にも当てはめることができます。当時も今も、教会の福祉計画は、災害のとき、広範囲な恐慌や不況のとき、また規模は小さくとも、もっと身近な家族や個人の問題に直面したときなど、いつでも「人々の自立を助ける」¹ために存在してきました。

現在わたしたちが知っている福祉計画が導入されたのは1936年のことですが、どの神権時代の聖徒たちも、将来に備えて賢明な生活をするという原則は実践していました。救い主イエス・キリスト御自身が福祉計画の立案者だったからにはほかなりません。トーマス・S・モンソン大管長はかつて次のように言っています。「主はこの倉の目的について次のように言われました。『倉は教会員の奉獻によって維持しなければならない。そして、やもめと孤児を扶養しなければならない。貧しい者も同様である。』（教義と聖約 83:6）さらにこう付け加えておられます。『しかしそれは、わたし自身の方法で行われなければならない。』（教義と聖約 104:16)』²

主の道にかなって助けるためには、まずわたしたち自身が自立している必要があります。その次に人が自立できるように助ける必要があります。モンソン大管長の言葉です。「この偉大な靈感されたプログラムを支えているのは、大勢の献身的な兄弟姉妹です。しかし実際にこの計画が成功しているのは、こうした人々の努力だけでなく、このプログラムが主の道にかなって信仰により運営されているからなのです」³

福祉計画が始まって75周年を祝う今年は、末日聖徒にとって、自立する、貧しい人や困っている人たちの世話をし、人に仕える、といった基本的な原則についてよ



く考える良い機会です。こうした原則に従って生活するとき、苦しむ人を助け、人格を磨き、一致の心を養うことが今まで以上にできるようになることでしょう。

注

1. 『歴代預言者の教え——ヒーバー・J・グラント』(2002年), 115
2. トーマス・S・モンソン『主の道』『聖徒の道』1978年2月号, 7-8
3. トーマス・S・モンソン『聖徒の道』1978年2月号, 8

どの神権時代の聖徒たちも、貧しい人々や困っている人々の世話をし、救い主の模範に従っていました。

**「福祉計画の真の長期目標は、
与える側と受ける側双方の
教会員の人格を築き、
人の心の奥深くに眠っている最も優れたものを
すべて解き放ち、
内に秘められた豊かな精神を
開花結実させることである。
これは結局、
この教会の使命と目的であり、
また存在理由でもある。」**

大管長会第一顧問

J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長 (1871-1961年)、
グレン・L・ラッド、Pure Religion: The Story of Church Welfare
Since 1930 (1995年) 301で引用。

81ページの写真
上——
1937年、
ソルトレーク・シティーの
ビショップの中央の倉から
食糧を運び出す会員たち。
中——
畑に苗木を植える
フィリピン青少年。
下——
1948年、ユタ州の
ステーキ福祉農場で働く
会員たち



将来に備えて賢明に活動してきた75年

教会の福祉計画はまだ正式に導入されてはなかったものの、初期の聖徒たちは、自立した生活を送って貧しい人や困っている人の世話をすることや、人に奉仕するといったことの重要性を認識していました。預言者ジョセフ・スミスは次のように宣言しています。「神の愛に満たされた人は、自分の家族に祝福を与えるだけでは満足せず、全人類に祝福を与えたいと望み、全世界を巡ります。」¹

教会が設立されてから間もなく、小規模なビショップの倉^{じょうぐら}と什分の一の事務所が、困っている人々を助けるために設置されました。ジョセフ・スミスは1830年代にオハイオ州カートランドで断食献金を集める制度を開始しています。² この時期に什分の一の原則についても指導が開始され（教義と聖約119章参照）、什分の一や断食献金は、労働や生産物、生活必需品という形で拠出されていました。ビショップや支部会長の役割は、現在と同じように、そうした労力や物資の分配を監督することでした。³

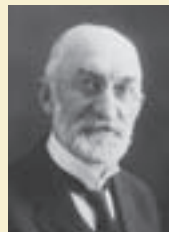
初期の聖徒の中には、自立のために懸命に努力しなければならぬ人も大勢いました。教会の指導者や会員たちは、怠惰と戦うために、生活の糧を安定して確保できる方法を協力して求めたのです。教会の建築現場で働いたり、公共事業のプロジェクトを作り上げるために働いたりして仕事を見つけていく人もいれば、自分や家族のために耕し、生産物を売る人もいました。こうして一緒に働くことによって、聖徒たちは祝福されて、必要なものは十分に与えられたのです。

わたしたちが現在抱える問題は異なっていますが、末日聖徒は救い主の教えに従い、先祖の示してくれた模範に従って、これまでと同じように、自立し、貧しい人々や困っている人々を世話し続けています。

注

1. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』330
2. ハワード・W・ハンター「断食の日」『聖徒の道』1986年1月号、71参照
3. グレン・L・ラッド、*Pure Religion* (1995年)、2、4

この年表の情報は、ほかに説明がないかぎり以下の資料が基になっています。
 スーザン・クレートン・ラザー、*Supporting the Rescue of All That Is Finest* (2005年)；
 グレン・L・ラッド、*Key Moments in Church Welfare Services* (2008年)；
 グレン・L・ラッド、*Important Events for Historical Church Welfare* (1999年)；
 グレン・L・ラッド、*A Brief History of the Church Employment Program* (1998年)；
 グレン・L・ラッド、*Pure Religion* (1995年)。



1936年

- 4月6日——ヒーバー・J・グラント大管長と顧問たちが総大会で教会保全計画を発表。
- 10月——教会が中央福祉委員会を組織する。

「わたしたちは断食すると空腹を感じます。そして、短い間ですが、文字どおり飢えて、乏しい状態に自分を置きます。これによって、貧しい人々が感じる窮乏がどのようなものをもっと理解することができます。人々の苦難を軽くするためにささげ物をビショップに差し出すとき、わたしたちは人々のために崇高なことをしているだけでなく、自分に対してもすばらしいことを行っているのです。」

十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン長老 (1917 - 2008 年)

『断食の律法』『リアホナ』2001年7月号, 89 - 90:

Ensign, 2001年5月号, 73



アメリカ合衆国カリフォルニア州マデラにある教会所有のぶどう園で労働奉仕をするカリフォルニア州セントラル・バレーの聖徒たち。このぶどう園から数百トンのレーズンが産出され、世界中の貧しい人々に利用されている。

自立のビジョンを持つ

多くの会員は、福祉のことを、一時的に難しい状況にある会員を助けるためのプログラムと考えているかもしれませんが、しかし、教会の福祉計画の目的はもっと広範囲に及びます。生活の様式として自立を促すこともそれに含まれます。トーマス・S・モンソン大管長は、自立、すなわち「自分自身と家族の生活の必要を満たす能力……、決意……、努力」¹が物質的な幸福ならびに霊的な幸福に必須の要素であると教えています。²

自立したいと望むだけでは十分ではありません。自分の必要と家族の必要を満たす備えをするために意識して積極的に努力しなければなりません。管理ビショップのH・デビッド・バートンビショップは、自立するために行えることをすべて行った人は「それでもなお不足しているものがあれば、自信をもって主に求めることができる」ということをわたしたちに思い起こさせてくれています。³ 自立すればほかの人々に祝福をもたらすことができます。十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老はこう語っています。「自立しているときにだけ、真に救い主に倣って人に奉仕し、祝福をもたらすことができます。」⁴

自立はバランスの取れた生活の様々な面にかかわっています。(1)教育、(2)健康、(3)職業、(4)家庭における生産と貯蔵、(5)財政管理、(6)霊的な力がそれに含まれます。



左上 — 1947年、ドイツの聖徒たちのためにジャガイモを収穫して積み込むオランダの聖徒たち。
上 — エクアドルで食糧生産の訓練を行ったところ、会員たちは畑の生産性を上げることができた。



1937年

- 教会がソルトレーク・シティーに最初のビショップの中央の倉を設置する。



1938年

- ソルトレーク・シティーでウェルフェアスクエアの敷地を購入、建築が始まる。
- 4月 — 教会保全計画が教会福祉計画に名称を変更。
- 8月12日 — 中古品を扱うデゼルト産業の第1号店がソルトレーク・シティーで開店する。



1. 教育

主はわたしたちに「研究によって、また信仰によって学問を求めなさい」と命じておられます（教義と聖約 88：118）。ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）はこう教えています。「わたしたちは教育の価値を信じています。この教会は教育を奨励しています。主からの指示として、受けられる教育をすべて受ける義務がこの教会のすべての会員に課せられています。……心と手を養い鍛えるようにと、主御自身から明確な言葉で末日聖徒に義務が課せられているのです。」⁵

ドミニカ共和国のロベルト・フレテ・ゴンザレス兄弟は教育を受けることを目標とし、伝道から帰るとすぐに大学に入りました。父親が彼の生活費を出すことに同意したので、ロベルトは勉強に専念することができました。ところがその後間もなく父親が亡くなり、家族は経済的に苦しい状況に陥りました。

ロベルトは学校を辞めて、自分と母親と妹の生活を支えるために働き始め、どうすれば学業を終えられるだろうかと考えていました。

数週間後、ヒンクレー大管長が永代教育基金を発表しました。発展途上地域の若い男女が「代々続いてきた貧困から抜け出」せるように助けるための「大胆な試み」でした。⁶ ロベルトはこの基金のローンを申請して給付を受け、学業を続けられるようになりました。これ

は当面の経済的な助けになっただけでなく、ロベルトにとっては、結婚して永遠の家族をもうけるという信仰を持つ助けにもなったのです。家族を養うことができると分かったからです。

ロベルトはビジョップとして奉仕しながら医学部を出て、ドミニカ医科大学全国委員会で最初の教会員となりました。しかし、彼が言うには、最良の成果は家庭にありました。「わたしたちは貧困のサイクルから抜け出し、家族の中の様々なことが変わってきました。息子がかつてのわたしと同じような生活をする必要がなくなったことを感謝しています。そのサイクルから抜け出したからです」と、彼は語っています。

詳しい情報については、providentliving.org の「Education and Literacy」の項と、besmart.com を参照してください。末日聖徒の若い男女がさらに高い教育を受ける準備をするのに役立つウェブサイトです。

**「わたしたちが現世にいる間に学ぶことのできる
真実であるものはすべて、
復活の時にわたしたちとともによみがえります。
そして、わたしたちが学ぶことのできるものはすべて、
奉仕する能力を高めます。」**

大管長会第一顧問 **ヘンリー・B・アイリング** 管長
“Education for Real Life.” *Ensign*, 2002年10月号, 21



1939年

- 最初の倉と缶詰工場がウェルフェアスクエアで操業を開始する。

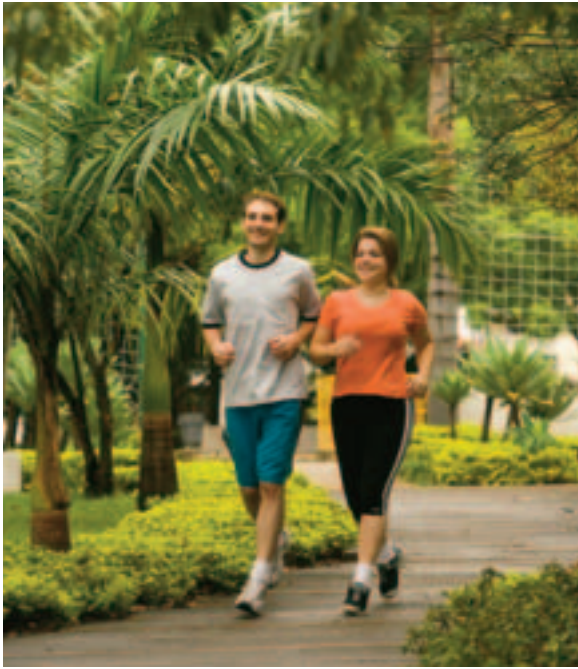


1940年

- 8月27日 —— ウェルフェアスクエアの穀物倉庫をデビッド・O・マッケイ大管長が奉献。建設のために教会員が延べ7万時間以上の労働奉仕をした。

1941年

- 4月20日 —— ウェルフェアスクエアの最初の牛乳加工工場が操業を開始する。



左ページ——
末日聖徒の学生たちは、今日の競争社会の厳しい状況に立ち向かうより良い備えができるように教育を受けます。左——
運動と十分な栄養は、気をつけて敬意をもって自分の体を扱う大切な要素です。

2. 健康

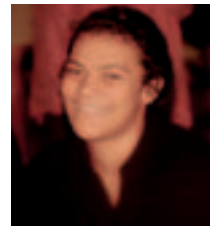
わたしたちは神の形に造られているので(創世1:27参照)、わたしたちの体は神の宮であり、気をつけて敬意をもって扱わなければなりません(1コリント3:16-17参照)。教義と聖約第89章に記されている「知恵の言葉」は、主の健康の規定であり、1833年にジョセフ・スミスに啓示されたものです。その中で、わたしたちは栄養価の高い食物を食べ、有害な物質を避けなければならないと教えられています。以来、使徒たちと預言者たちは、わたしたちの体や心を害する、また中毒に至らしめる可能性がある、すべての物質や習慣を避けるべきであると教えてきました。⁷

フィジーのサイニメレ・バレナカギ姉妹は、10代のとき、教会員でない数名の友人とある結婚式に参列していて、この教訓を学びました。サイニメレの友人たちを含むそこにいた大勢の人が酒を飲み、たばこを吸っていて、彼女にも酒を飲むよう誘ったのです。「わたしは福音の標準に従って生活するようにずっと教えられてきたので、ためらうことなくその誘いを断りました」と、サイニメレは語っています。

彼女は、知恵の言葉を守ることによる祝福が身体の

健康以上のものであることを知っています。「聖なる御霊が近くにおられるのもっと良い選択ができるという点で、わたしは特別な守りを頂いてきました。標準が自由を制限することはないということをよく知っています。標準は、自由を制限することになる様々な結果からわたしたちを守ってくれます。」

詳しい情報については、providentliving.orgの「Physical Health」の項を参照してください。



サイニメレ・バレナカギ姉妹は、知恵の言葉に従うことで物心両面の祝福が与えられることを知っています。

「わたしたちの肉体は神の宮です。したがって、皆さんもわたしも、自分の宮に何を取り入れるか、自分の宮に何をまとうか、自分の宮に対して何を行うか、また自分の宮をもって何をするか、注意深く考えなければなりません。」

十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー長老
“Ye Are the Temple of God,” *Ensign*, 2001年9月号, 18



1948年
・3月1日——
教会が地域職業紹介所をソルトレーク・シティに開設する。



1960年
・3月——
ウェルフェアスクウェアの新しい牛乳加工工場が完成する。

1963年
・製麺工場と新しいウェルフェアスクウェア缶詰工場が操業を開始する。



ページ上 —
若い女性がメキシコの
職業支援センターで
助けを受けています。
上 —
オセアス・
ボルチナリ兄弟は、
ブラジル・サンパウロの
職業支援センターは
「失業中の会員に
人生のより良い展望を
与える」と述べています。

3. 職業

多くのワードや支部で、会員たちが自立しようとするときに最も急を要するのが、職を見つけることです。神権定員会とワード評議会の会員がこれらの会員を助けることができます。地域の有益な援助手段と、助けの必要な人を個人的に助けられる相談相手と、利用できる求人案内を確認して、これらの会員にきめ細かく対応します。助けの必要な人に祝福をもたらすために信仰をもって一緒に働く教会員の力が、しばしば良い職を得ることにつながります。

世界の幾つかの地域に、教会は職業支援センターを設けています。現在は 56 か国に 300 以上のセンター

**「天の御父は、最善を尽くすこと、
つまり自分の能力に応じて、
精いっぱい働くことしか求めておられません。
能力の大小は問われません。」**

大管長会第二顧問 **ディーター・F・ワークトルフ** 管長
[いかなる経済状況にも当てはまる二つの原則]
[リアホナ] 2009 年 11 月号, 56

があり、キャリアワークショップや人脈交流会、個別の職業カウンセリングなどのサービスを行っています。新しいウェブサイト LDSjobs.org も、求職者や雇い主、教会指導者に役立つ情報を提供しています。

ブラジルのオセアス・ボルチナリ兄弟は解雇されてから 2 か月以上の間、新しい仕事を探し続けました。しかし仕事は見つからず、サンパウロにある地元の職業支援センターでボランティア活動をしました。ほかの人々が仕事を探すのを助けることが、オセアスにとっては、面接の受け方と仕事の探し方を改善する良い機会となったのでした。キャリアワークショップを何度か受け、ついにワークショップのインストラクターになりました。驚いたことに、オセアスはほかの人々に熱心に奉仕したことで、間もなく何人もの雇い主から面接の誘いの電話を受けるようになり、新しい仕事に就くことができたのです。

オセアスは失業中の会員に人生のより良い展望を与えてくれる教会の援助手段に感謝しています。「わたしたちが努力するときに、主が扉を開けてくださることを、わたしは知っています」と、彼は語っています。

詳しい情報については、LDSjobs.org か、employment.lds.org を参照してください。または、最寄りの職業支援センターを訪ねてください。

1973年

- 教会が家族の援助のために LDS 社会福祉事務局を創設する。



1976年

- 福祉施設が合衆国およびカナダ全土に広がる。
- 3月29日 — ウェルフェアスクエアに新しいビショップの倉が完成する。

1978年

- 数百万にも及ぶ世界中の被災者を救済するために、教会が緊急対応委員会を設置する。

4. 家庭における生産と貯蔵

教会は2007年に、家庭貯蔵に取り組みやすくするパンフレット『すべての必要なものを用意なさい——家庭貯蔵』を発行しました。大管長会は、最低限必要な食料と水を備え、貯蓄することに焦点を当てるよう全世界の教会員に奨励しています。会員は状況が許すかぎり生産を始めたり、毎週何品か余分に購入したり、少しずつ貯金を始めたりすることができます。これを継続して行えば、必要に合った無理のない家庭貯蔵と貯蓄を行うことができます。⁸

ベネズエラのパレンシアに住むルーゴ家族は、この勧告について学んだ後、家庭貯蔵を始めるようにという促しを感じました。そこで毎週、食料と水とお金を少しずつ蓄え始めました。財源は限られていたものの、わずか数か月で、ある程度の蓄えができました。その後、その年にベネズエラでは労働者のストライキがあり、地元の多くの労働者が仕事を失う危機に陥り、オマール・ルーゴ兄弟もとうとう失職してしまいました。

ルーゴ兄弟が新しい職を見つけるのに2年近くかかりました。その間、ルーゴ兄弟と家族は貯金と食料貯蔵で生活をつなぎました。失業という困難な状況にもかかわらず、ルーゴ家族は備えをしていたことで、平安と慰めを得ました。少しずつ家庭貯蔵をするようにという勧告に従ってきたことを思いながら、不安定な将来に自信をもって立ち向かったのです。⁹

詳しい情報については、providentliving.orgの「Family Home Storage」の項、またはパンフレット『すべての必要なものを用意なさい——家庭貯蔵』を参照してください。



コンゴ民主共和国の家族は協力して主食のキャッサバを育て、日々の食用として、また長期保存用として根から粉を作ります。

「この新しい〔家庭貯蔵〕プログラムは、すべての人にとって達成可能です。最初のステップは、まず始めることです。次のステップは、続けることです。どれほど早く蓄えるかは、それほど重要ではありません。重要なのは、自分の能力に応じて貯蔵を始め、継続することです。」

管理ビショップ H・デビッド・バートンビショップ
「家庭貯蔵——新しいメッセージ」
「リアホナ」2009年3月号, 14



1980年代
・合衆国以外で最初の職業センターがアルゼンチン、チリ、パラグアイ、ウルグアイに設置される。

1981年
・教会がデゼルト産業の中古品店をウェルフェアスクエアに建設する。



1982年
・9月10日——ロナルド・レーガン合衆国大統領がユタ州オグデンの福祉施設を視察する。



デボン・ステーブンス兄弟と妻のミケーラ姉妹は、予算を組むことが財政を「しっかり管理」するのに役立つと述べています。

5. 財政管理

賢明な生活のもう一つの側面は、収入と支出を賢く管理することです。大管長会は次のように勧告しています。

「支出を抑え、購入欲に対する自制心を養って負債を避けてください。……

負債を返済し、たとえわずかでも貯金ができるようになれば、皆さんと皆さんの家族は、より守られていると感じ、さらに大きな安らぎが得られるでしょう。」¹⁰

「わたしたちは皆、自分と家族を物心両面で養う責任があります。賢く養うには将来に備えた賢明な生活の原則を実行しなければなりません。収入の範囲内で喜びをもって生活することです。つまり、現在あるもので満足し、過大な負債を避け、苦境や緊急時に備えて日ごろから貯金しておくのです。」

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ長老
「物心両面で賢い養い手となる」『リアホナ』2009年5月号, 7

上手な財政管理は、^{しゅうぶん} 什分の一と献金を納めることから始まります。会員は主を第一にすると、自分自身のこととほかの人々の世話をもっとよく行えます。

上手な財政管理のもう一つの要素は、自分の収入と支出を知って、お金にコントロールされるのではなくお金をコントロールすることです。アメリカ合衆国アリゾナ州のデボン・ステーブンス兄弟と妻のミケーラ姉妹は、予算を初めて組んだとき、毎月使っていた金額は漠然としか分かっていませんでした。しかし、具体的な項目別の予算を立てたことは、「雲から抜け出して地に降り立つ」のに助けとなりました。「考えていたよりも少ない金額しかないと知るのに役立つりました。でも、自分たちは持っているものをしっかり管理しているという気持ちが不意にわいてきて、とても元気になりました」と、ミケーラは語っています。

詳しい情報については、providentliving.org の「Family Finances」の項、またはパンフレット「すべての必要なものを用意しなさい——財政管理」を参照してください。

1983年

- 管理ビショップリックが福祉プログラムの運営を担当することとなる。

1985年

- 教会人道支援プログラムが始まる。



1990年代

- 教会は人道支援センターを活用して、貧困や災害に苦しむ世界の各地に送るために、余剰衣類やその他の仕分けを行う。

1996年

- 教会は末日聖徒慈善事業団をNGO（非政府組織）として設置する。特定の国々で人道支援活動を推進。¹
- 福祉部が、合衆国以外で最初のビショップの倉と家庭貯蔵センターをメキシコに建設する。
- ウェルフェアスクウェアの改築が始まる。

6. 霊的な力

霊性は、この世の幸福と永遠の幸福を得るのに欠かせないものです。すべての人が試練を経験します。霊性を高めるように努めることは、試練に直面する際にわたしたちの助けになり、より良い日々を迎える望みを与えてくれます。

マダガスカルのニリナ・ジョセフソン・ランドリアミハリソア姉妹は、現在フランスに住んで教育を受けています。最初フランスに着いたとき、ひどく孤独を感じ、ホームシックになりました。「祈りと、聖文を読むことと、聖なる御霊の優しいささやきにより、慰めを求めました。これによって、天の御父と救い主にもっと近づくことができ、平安を感じました」と、ニリナは語っています。

やがてニリナは何人も友達ができ、教会内外の様々な活動に参加し、幸せを見いだしました。しかしその後、家からの悲しい知らせが心を揺るがしました。「ある朝、弟が死んだという知らせを受けました。そのような悲しい目に遭うとは、まったく思いもしませんでした。その後、何日も何週間も、ひどい孤独と怒りと落胆の時を過ごしました。最も基本的なことを行うことさえ、大きなチャレンジとなったのです。」

すると今度は数か月後に親友が亡くなりました。その新たな悲しみが、すでにニリナに重くのしかかっていた苦しみをさらに増しました。ほんの一時期、ニリナは教会に出席するのをやめようと考えました。しかしその後、以前の苦難の中で支えとなった事柄によって今の自分を強めることができるということを思い出しました。

「フランスにきた最初のときにしたように、わたしは祈りと、聖文を読むことと、聖霊により、慰めを求めました。これによって、御霊と永遠の家族の教義が慰めをもたらすことと、イエス・キリストの贖罪しよくざいがわたしたちの生活に実際に影響を与えるということが、それまで以上にはっきりと分かったのです」と、ニリナは語っています。

「わたしたちが遭うどのような試練も、主とともにいれば『行き止まり』ではありません。主の計画は幸福の計画なのです。」

自立と賢明な生活に関する詳しい情報については、『主の道にないで助けをなす——福祉に関する指導者用ガイド要約』を参照してください。providentliving.org から多言語で見ることができます。

注

1. 『主の道にないで助けをなす——福祉に関する指導者用ガイド要約』(小冊子, 2009年), 1
2. トーマス・S・モンソン「個人と家族の福祉に関する指導原則」『聖徒の道』1987年2月号, 3 参照
3. H・デビッド・バートン「労働の祝福」『リアホナ』2009年12月号, 37
4. ロバート・D・ヘイルズ「福音に基づく福祉のビジョン: 行いで示す信仰」『福祉と自立に関する基本原則』(小冊子, 2009年), 2
5. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 724
6. ゴードン・B・ヒンクレイ「永代教育基金」『リアホナ』2001年7月号, 62
7. 例として、ラッセル・M・ネルソン「束縛か自由か」『聖徒の道』1989年2月号, 2; M・ラッセル・バラード「おお、悪しき者のあの狡猾な策謀よ」『リアホナ』2001年11月号, 106 参照
8. 『すべての必要なものを用意なさい——家庭貯蔵』(パンフレット, 2007年) 参照
9. 「家庭貯蔵——新しいメッセージ」『リアホナ』2009年3月号, 12-13 参照
10. 『すべての必要なものを用意なさい——財政管理』(パンフレット, 2007年)



ニリナ・ジョセフソン・ランドリアミハリソア姉妹は、最もつらいときにさえ、福音に添った生活がわたしたちを支えるということを知りました。

あかし
「強い証は、平安と慰め、そして保証をもたらします。強い証は、救い主の教えにいつも従っていれば人生はすばらしいものとなり、将来は安定したものとなり、人生で遭う試練を克服する力が得られる、という確信を生むのです。証は真理を理解することによって強くなります。真理は祈ったり聖文に記された教義について深く考えたりすることで徐々に明らかにされます。約束された結果が得られるという不動の確信に支えられた信仰を持ち、真理に従った生活を送ることによって、証ははぐくまれていきます。」

十二使徒定員会 リチャード・G・スコット長老

「本質を変える信仰の力と人格」『リアホナ』2010年11月号, 46



1997年
 • LDS 社会福祉部が1年で629組の養子縁組を行う。この数は一つの機関としては20世紀で最多である。²



1999年
 • 3月——福祉部が大規模な雇用推進事業を開始。新たに世界中に職業支援センターを設置する。設置数は50に及ぶ。
 • LDS 社会福祉部がLDS ファミリーサービスと名称変更。プログラムが拡大する。



救い主に従うことによって、 さらに多くの思いやりに満ちた奉仕を行う

この訓戒について、トーマス・S・モンソン大管長は次のように述べています。「救い主が言っておられるのは、自分を捨てて人に奉仕しなければ、自分自身の人生の目的などほとんどないということだとわたしは信じています。自分のためにだけ生きる人は、ついには枯渇してしまい、比喩的に言えば、命を失ってしまいます。一方、自分を捨てて人のために奉仕する人は、成長し、繁栄して、実際に自分の命を救うのです。」¹

家族、隣人、ワードや支部の会員、地域の人、さらには見知らぬ人を助けるために必要な時間と活力を見いだすのは、必ずしも容易ではありません。特に、時間に限りがある中で、わたしたちはいつ、どのように人を助ければよいでしょうか。置かれている状況のためできることが限られている中で、どのように仕えればよいでしょうか。

わたしたちが模範とする御方は言うまでもなくイエス・キリストであり、主は御自分に従うようにわたしたちを招いておられます(マタイ4:19 参照)。わたしたちは主の神聖な召しの一部を担うことはありませんが、主の務めの一部を担うことはできます。その務めについ

て、使徒ペテロは、イエスは「よい働きをしながら……巡回されました」と述べています(使徒10:38)。

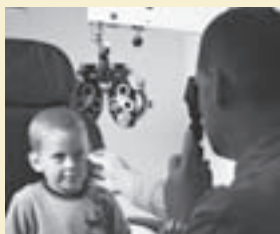
イエスは病人を癒し、苦しんでいる人を助けられました(マタイ9:20-22; マルコ8:22-25 参照)。わたしたちはそのような大きな奇跡を行うことは恐らくないでしょうが、死を迎えようとしている人や病気の人、苦しんでいる人を慰め、そのような人の必要を満たすために働くことはできます。

救い主は食べる物のない人に奇跡的に食物をお与えになりました(マタイ14:15-21 参照)。わたしたちは断食献金を惜しみなくささげ、教会の福祉プログラムの食糧生産プロジェクトで奉仕し、助けを必要としている人に食物を提供する地域の取り組みに貢献することができます。

イエスは一人一人のことを御存じであり、一人一人に教えと導きをお与えになりました(ルカ8:45-48 参照)。主の模範に倣おうと努めるとき、わたしたちは御霊によって目が開かれて、苦しんでいる人や孤独な人、疎遠になっている人に気づくでしょう。そして彼らの必要を満たせるように導きを受けましょう。

2001年

- 新規のキャリアワークショップが職業支援センターに導入される。1年後には、自営のためのワークショップの教材が導入される。
- 9月5日——ウェルフェアスクウェアの改築の完了に伴い、再奉献式が挙行される。



2003年

- 1月25日——ウェブサイト「賢明な生活」(Provident Living)を開始。
- 世界中でビショップの倉の数を増やすという大規模計画が承認される。
- 教会が人道支援の4大事業を開始——新生児蘇生訓練事業、浄水事業、車いす贈呈事業、視力支援事業。

イエスは意図しておられなかったときでも（ルカ 24：29 参照）、また、御自身のことに携わっておられたときでも（マタイ 14 章参照）、人々とともに時間を過ごされました。わたしたちは賢明に秩序正しく奉仕を行います、「自分の力以上に速く走」らないように勧告されています（モーサヤ 4：27）。しかし時として、人に仕えて祝福をもたらす絶好の機会が、非常に都合の悪いときに訪れることがあります。救い主のたとえの中で、良いサマリヤ人は襲われた人の必要を満たすために、その場ですぐに自分の旅を中断しました（ルカ 10：30 - 37 参照）。

救い主に目を向けていただく価値のない人や手を差し伸べていただけないほど低い所にいる人などいませんでした（マタイ 9：9 - 13 参照）。わたしたちは人々により良い道を教え、救い主が用意してくださっている豊かな人生をわたしたちとともに送るように招きながら、救い主がされたように人々を愛し、引き上げることができます。

天の御父はわたしたちの個々の能力と状況と望みを御存じであり、ほかの人に祝福をもたらすためにそれらをどのように用いるべきなのかを御存じです。わたしたちが主に近づき、主の導きを求めるとき、主はわたしたちがだれに、いつ、どのように仕えればよいか分かるようにしてくださるでしょう。

LDS.org の「Service」（奉仕）では、教会や地域社会での奉仕、宣教師としての奉仕、人道支援活動における奉仕についてのアイデアが紹介されています。

注

1. トーマス・S・モンソン「今日われ善きことせしか」「リアホナ」2009年11月号, 85

「父なる神のみまえに
清く汚れのない信心とは、
困っている孤児や、やもめを見舞い、
自らは世の汚れに染まずに、
身を清く保つことにほかならない。」
（ヤコブの手紙 1：27）



左ページ—
けがをした
支部の兄弟のために
教師定員会の会員である
アレックスと一緒に
まつば杖を作る
ペルー・チュルカナスの
若い男性会長チロケ兄弟。

この執事たちが
集めている断食献金は、
助けを必要としている人を
助けるために
欠かせないものです。

大勢の強さ

断食の律法

主は御自分の民を祝福するために、また、助けを必要としている人を世話する方法を提供するために、断食の律法を設けられました。主は聖徒たちに、「貧しい者に持ち物を分け与えて」、「貧しい者と乏しい者に与えるために」「[[それを] ビショップ……の前に置かなければならない」と指示されました（教義と聖約 42：31, 34）。断食献金は、主の倉の主要な支援手段です。教会員は、断食するときに少なくともその間に食べなかった 2 食分の費用に相当する金額を献金として納めるように勧められています。スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985 年）は、「できる状態であればもっと多く、10 倍の金額」を納めるように会員に求めています。¹

断食の律法を理解し、この律法に従うとき、わたしたちは恵まれない人々に対してより大きな愛と思いやりを抱くようになります。祈りを伴った断食は、正しい礼拝の形式の一つです。断食の律法に従うとき、霊的な強

2009年

- 6月—
養子縁組のための
新しいウェブサイトを開始。
ItsAboutLove.org.³



2010年

- 4月—
新しい職業支援の
ためのウェブサイト
LDSjobs.org を開始。
現在は英語、スペイン語、
ポルトガル語で利用可能。
- 人道支援の基本事業に
食糧生産を加える。

注

1. "Humanitarian Activities Worldwide," providentliving.org/content/display/0,11666,4600-1-2323-1,00.html. 参照
2. C・クロス・クレメント, "LDS Family Services" (LDS ファミリーサービスのために準備された未刊の変遷史, 2000年5月10日) 参照
3. キンバリー・ボーエン, "LDS Family Services Launches New Web Site," Ensign, 2009年9月号, 78 参照



2005年にハリケーン・カトリーナが襲った後、倒木を片付けるのを手伝う合衆国ルイジアナ州の神権者たち。その姿は、わたしたちが人々に仕えるために一つになるときにさらなる力を得ることを象徴しています。



桃の生産などのプロジェクトによって栄養のある様々な食物が提供され、飢えに苦しんでいたであろう人々の命を支え、生活を明るくしています。

さを得て、物質的な祝福を授かり、人々に仕えたいという望みが強まります。

トーマス・S・モンソン大管長は次のように教えています。「断食献金という考え方は、すでにイザヤの時代に見られます。イザヤは、真の断食とは、という話の中で、断食をする人々に対して、『飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ』るよう、強く勧めています〔イザヤ 58：7〕。預言者ジョセフは、オハイオ州カートランドで、貧しい人々のために断食献金を集める制度を設立しました。その後、イリノイ州ノーブーでは、十二使徒定員会が、全教会に一般書簡を送り、『断食の原則』を次のように定義しました。『これをあらゆる聖徒たちに対する規範としてください。そう

「もしこの教会のすべての会員が断食を行い、借しみなく献金したならば、会員の中の貧しい人や助けを必要としている人だけでなく、ほかにも多くの人々が祝福を受け、必要なものを得るでしょう。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008年）
 "Rise to a Larger Vision of the Work."
Ensign, 1990年5月号, 97

すれば、パンに不足する者は一人もないことでしょう。貧しい者たちが飢えているときには、持てる者たちは1日断食して、自分たちが食べたと思われるだけのものを、貧しい人々のためにビショップに差し出してください。そうすれば、すべての人が長く恵まれるでしょう。……喜びの心と楽しげな表情をもってこの原則に従って生活するならば、聖徒たちは常に豊かに与えられることでしょう。』²

食糧の生産

飢えている人に食物を与えることを目的とする食糧の生産と加工は、福祉計画が最初に導入されたときから、計画の土台の一つとなってきました。初めはユタ州各地に散在する菜園や作業プロジェクトとして始まりましたが、やがて教会のステークやワードが運営する1,000件以上の農場や食糧生産プロジェクトから成る巨大なネットワークとなりました。北アメリカとヨーロッパ、オーストラリア、ポリネシアで、福祉農場が運営されました。1980年代までには、これらの農場や生産施設は統合されたり、拡張や改良が行われたりしました。一部の小規模なプロジェクトは売却されました。

以前からそうであるように、これらの農場や施設は教会員によって支えられています。しかも、そこでかかる労働力の大部分を会員たちは無償で提供しています。会員たちは、毎年合計何十万日という時間をささげて、助



人々の最も基本的な必要を満たすための継続的な取り組みの一環として、被災者のために石けんやそのほかの衛生用品のセットを作る香港の若い女性たち。



人々に仕えるプロジェクトを通して、わたしたちはお互いのきずなを強め、キリストのような特質を伸ばすことができます。写真は、近隣の環境を改善する活動に参加して、家を洗うメキシコの若い末日聖徒たち。

けを必要としている人の援助に用いる食糧の生産、加工、配送を行っています。毎年1億ポンド(4,500万キロ)以上に及ぶ穀物、豆、肉、果物、野菜、そのほかの農作物が生産され、ビショップが助けの必要な人を援助する際に用いる食糧が確保されています。倉を利用できない地域や利用しづらい地域では、ビショップや支部会長は断食献金を用いて生活に必要な品物やサービスを提供します。

主の倉

1936年に福祉プログラムが導入されて以来、教会員は助けを必要としている人の苦しみを和らげるために協力して働いてきました。経済不況、自然災害、失業、病気や障がい、愛する人の死、いずれのときも確実に個人や家族の必要が満たされて、彼らが祝福を受けられるように、聖徒たちは神権による指示の下で力を合わせて働くように求められてきました。長年にわたって、無数の会員たちが人々に祝福をもたらすために、またモンソン大管長が述べているように、「孤立して働くときの弱さ〔に代えて〕大勢で奉仕するときの強さ」をもたらすために、進んで時間や才能をささげてきました。³

ヒーバー・J・グラント大管長は1936年に福祉制度について語ったとき、「教会の新しい組織」が必要になるとは考えていませんでした。グラント大管長が思い描いていたのは、「ステークヤワードの組織、神権定員会、

扶助協会、および様々な補助組織が、教会の福祉全般のために〔自分たち〕に提供できる最大限の奉仕を行う」ことでした。⁴ 主は貧しい人や助けを必要としている人に祝福をもたらすために、必要な組織をすでに設けておられました。神権定員会は整えられ、扶助協会は組織され、神の神権は地上にあったのです。

献身的に働き、才能や能力をささげる教会員は、主の倉の欠くことのできない一部となります。教会の断食献金基金に納められる断食献金に加えて、神権指導者はすべての会員の時間や才能、能力、努力を用いて、助けを必要としている人を祝福できるのです。

わたしたちは人が助けを必要としているときに助ける機会を受け入れることによって、神とその子供たちに対する愛を示します。これが福祉の最も純粋な姿であり、そのような福祉を忠実に行うならば、今日の預言者たちが思い描いているように、与える者も受ける者も高く上げられるでしょう。

注

1. スペンサー・W・キンボール, Conference Report, 1974年4月, 184
2. トーマス・S・モンソン「模範となりなさい」『聖徒の道』1997年1月号, 53 参照
3. トーマス・S・モンソン “Messages of Inspiration from President Monson,” Church News, 2010年2月6日付, 2で引用
4. ヒーバー・J・グラント。ジェームズ・R・クラーク編, Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 全6巻(1965-1975年), 第6巻, 19で引用



「わたしの声を聞いている
すべての皆さんに申し上げます。
末日聖徒イエス・キリスト教会の福祉計画は
全能の神から靈感を受けています。
主イエス・キリストが考案されました。
主は「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。
だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、
わたしはそこにはい〔る〕」と
皆さんやわたしを招いておられます（黙示 3：20）。
わたしたちが主の声を聞き、
心の入口に立っておられる主に向かって戸を開き、
主の子供たちに仕えるために努力するとき、
主がいつもそばにいてくださいますように。」

トーマス・S・モンソン大管長
「主の方法」『福祉と自立に関する基本原則』13 参照

福祉の原則を生活に取り入れる

福祉の原則に従って生活するとは、例えば、不必要な負債をなくし、収入の範囲内で生活し、家庭貯蓄と貯蓄を行うことなどによって、イエス・キリストを信じる信仰を行いで示すことです。信仰を持つとき、わたしたちは自立するために知識や技術を身に付けたい、また、毎日働きたいと思うようになります。自立していれば、自分の必要なものを得やすく、人々によりよく仕えることができます。勧告されているように、善いことを行うだけでなく善い人になるよう努力し、より善いことを行うだけでなくより善い人になりましょう。¹ 主の勧告に従う人は、物質的な祝福や霊的な祝福を授かります。勧告に従順であるとき、わたしたちは人生の難題に、恐れと疑いではなく勇気と自信をもって立ち向かうことができますでしょう。

トーマス・S・モンソン大管長は、わたしたちには人々を励まし、祝福する義務があると教えています。

「兄弟姉妹の皆さん、〔次の〕言葉を、いつも自分自身に問うことができますように。『今日だれかのために何かをしてあげただろうか。』よく知っている賛美歌の歌詞がわたしたちの心にしみわたり、長くとどまりますように。」

今日われ善きことせしか
人を助けしか
悲しきをも慰めしか
かくせずば悪し
人の重荷軽くして
わが手貸したるか
病みて疲れし者助け
そこにわれおりしか

わたしたち皆が行うように召されている奉仕は、主イエス・キリストの奉仕です。² ■

注

1. ロバート・D・ヘイルズ「福音に基づく福祉のビジョン：行いで示す信仰」『福祉と自立に関する基本原則』1 参照
2. トーマス・S・モンソン「今日われ善きことせしか」『リアホナ』2009年11月号, 87

その他の資料

これらのページで採り上げられているテーマについてもっと学んでみませんか。パンフレットやDVD、ウェブサイトなど、役立つ資料があります。詳しくは 75yearsofwelfare.org をご覧ください。



描写は禁じられています

「主はいつも気遣っておられる」 グレッグ・オルセン画

「五羽のすずめは二アサリオンで売られているではないか。しかも、その一羽も神のみまえで忘れられてはいない。

その上、あなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である。」(ルカ 12:6-7)



18 29年、古代の使徒である
ペテロ、ヤコブ、ヨハネは、
ジョセフ・スミスと
オリバー・カウドリに現れ、
彼らにメルキゼデク神権を授けました。
同じ聖任のプロセスを通して、
すべてのふさわしい男性の教会員は、
神の御名によって行動する権能である
神権を受けて、行使することができます。
14, 16, 19 ページ参照

